2018年1月1日

青森大学ニュース No.33

地方創生に資する青森大学へ

学長　崎谷康文

はじめに

平成２４年度から、「青森大学ルネッサンス」に基づき、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革を進めてきている。教職員の一致協力により、改革は、着実に成果を示している。「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」という、青森大学改革の目標が次第に達成されてきている。「青森大学ルネッサンス」に基づく改革は、まだ６年目であり、これからも、「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」が、改革の重要な基本理念であることを今一度確認し努力し続ける必要がある。

教育研究等の成果が見えるようになるには時間がかかる。青森大学ルネッサンス６年目に入って、青森大学が地域社会を担う人材を育てており、地域社会の活性化の拠点となっていることが、地域の人々にかなり見えるようになってきている。青森大学が「地域とともに生きる大学」としての活動を基盤とし、学生の主体的な能力を引き出すためのアクティブ・ラーニングを進めるなどの教育改革を進めている「学生中心の大学」であることが認識され、地域社会の人々から、青森大学の学生がとても明るく元気に活動していることについて、高く評価する声を聴くことが多くなってきた。

しかしながら、依然として、青森大学を取り巻く環境は厳しい。危機は続いている。学生確保のむずかしさは解消されていない。学園の財政については、みちのく銀行からの融資により、将来へ向けて返済の見通しがこれまで以上に分かりやすく見えるようになっているものの、累積してきた借入金は減っていない。したがって、教職員の待遇の改善や施設設備の更新等に関し多くの課題が残り、費用の削減を続けることがなお求められている。

このような現実の中で、青森大学がより魅力を高め、未来への明るい展望を切り開いていくためには、「地域とともに生きる大学」という創設以来の使命と基本理念に基づく改革を格段に進め、「地方創生」に貢献することが何より重要である。「地方創生」は、我が国の経済社会等の全国的な権衡のとれた充実発展のため、東京への一極集中を是正し、地方の活力を高め、地方の再生・活性化を目指す、国の重要政策である。「地方創生」の進展のためには、地方の私立大学の果たす役割が欠かせないと認識されており、青森大学は、「青森大学ルネッサンス」に基づく改革をさらに続けていかなければならない。

一　大学が立ち向かうべき課題をどう捉えるか

１人工知能などの技術革新が進む社会

人工知能（AI）の開発の進展が社会全般の活動に大きな影響を与えている。情報通信技術だけでなく、様々な分野において技術革新が生じており、第４次産業革命が到来したとも言われる。機械が人間の代わりの任務を担うことができるようになると、消滅する職業も想定される。知識基盤社会の傾向がさらに進み、グローバル化が加速している。

このような地球規模の課題に対処するには、人間が能力を発揮すべき方向を適切に変化させていく必要がある。機械を使いこなし、人工知能ができないことに立ち向かっていけるよう、人間の能力の質を高めていく必要がある。

２人口減少が加速し地域間格差が拡大する社会への対処

平成２７年の我が国の人口は１２７,０９５千人であった。平成２２年の１２８,０５７千人から０．８％の減少である。この間、青森県は１,３７３千人から１,３０８千人へ４．７％ の大幅な減少であった。秋田県は５．８％の減少、岩手県は３．８％の減少というように、東北地方の人口減は急激である。これに対し、東京都は、１３,１５９千人が１３，５１５千人になっており、２．７％の増加である。我が国全体が人口減少社会になっても、東京都への一極集中は止まっていない。

少子化・高齢化、晩婚化・未婚化が進み、家族構成や家族関係が大きく変化している。地域コミュニティが大きく変貌し、過疎化、高齢化により、消滅の危機にある地域も多い。１５歳から６４歳までの生産年齢人口は、２０１５年（平成２７年）の７，７２８万人が２０４０年には５，９７８万人にまで減少すると予測されている。都道府県別の合計特殊出生率は、沖縄県が１．８６、宮崎県が１．６９で比較的高く、青森県は１．４２で全国３５位であるが、東京都は１．１５で最下位である。自然増が極端に少ない東京都の人口が増加しているのは社会増によるもので、特に、大学入学時と大学卒業時の年齢層の若者が東京都に流入している。平成２９年度の大学（４年制の大学）進学率は、全国で４９．４％、東京都６３．５％であるが、青森県は３７．９％である。極端な地域間格差が進行している。人や資源そして情報の集中による利便性に引き寄せられ、経済、産業の様々な分野の本社などの機能が東京に集中し続けている。

このような人口動向と一極集中は、我が国に顕著な問題であり、人口減への対策と地域間格差の解消の方策の樹立は、国の重要課題となっている。

３短命県を返上し健康社会を築くという課題

技術革新による地球規模の課題に対処し、人口減少社会の進行に伴う我が国に顕著な問題に取り組むことに加え、青森県の至上命題と言うべき課題がある。短命県を克服返上し、健康長寿社会を築くという課題である。

平成２７年の都道府県別の平均寿命は、青森県男子が７８．６７歳、青森県女子が８５．９３歳であり、青森県は、５年ごとの調査において平成７年から５回連続で全国最下位である。

平成２８年の都道府県別がん年齢調整死亡率は、人口１０万人当たり青森県が９３．３（男子１２１．９、女子６９．２）であり、平成６年から１３年連続で全国最悪である。

医療の体制を見ると、人口１０万人当たりの医師の数は、青森県は、全国都道府県の下から７番目である。これに対し、薬局・医療施設に従事する薬剤師は、平成２８年において人口１０万人当たり青森県は１４３．６人に過ぎない。都道府県別では全国第４６位（下から２番目）という深刻な薬剤師不足にある。医療機関勤務の薬剤師数は、青森県は、人口１０万人当たり３３．１人で、全国第４７位（最下位）である。薬剤師の深刻な不足の状態を改善し、健康社会を築くことが急務である。

二　青森大学はどのように取り組むべきか

１青森大学の使命と理念

青森大学は、「地域とともに生きる大学」を創設時からの基本理念とし、この建学の精神に基づき、発展してきた。地域社会を担う人材を育て、地域の経済・社会・文化の活性化の中核の役割を果たす

のが青森大学の重要な使命である。併せて、「学生中心の大学」として、学生が地域社会の人々と交流し、主体的に学ぶ意欲を高め、地域の新たな課題に挑戦し解決できる能力を身に付けていけるようにすることにより、青森大学の使命を果たしていかなければならない。

青森大学ルネッサンスに基づく改革は、学生の自己肯定感を高め、教職員の士気を向上させている。青森大学の教学の成果は、次第に地域社会から評価されてきており、地域社会から信頼され、オール青森で支えられる大学へと、着実に進展している。

地域に根差す大学として、足元をしっかり踏み固めながら、青森大学の使命と理念の遂行に努めていくことが何より大切である。

２青森大学を取り巻く課題への対処

これからの社会を展望し、青森大学が取り組むべき方向は、青森大学の使命と理念を基本に置き、一において示した３つの視点を総合して考えなければならない。

①技術革新による地球規模の課題、②人口減少社会がもたらす我が国に顕著な問題及び③短命県青森県が抱える深刻な課題という３つの視点は、相互に関連しており、学術の府である大学が全ての課題に立ち向かうべきことは当然であるものの、青森大学の基本理念に立ち返り考えると、「地域とともに生きる大学」として、②の視点を基本に、③の視点を加え、教育研究等の活動を進めることが根幹となる。

東京大学や弘前大学などの国立大学、大規模な私立大学は、①の視点を中心にして世界に伍していくべきであろう。青森大学のような中小規模の地方私立大学は、大学の機能分化の考え方を踏まえ、地域に土台を置いて活動することによってこそ存在意義を示すことができる。

このようにして、青森大学ルネッサンスに基づく改革の一層の充実発展を図っていくことが必要である。

三　「地方創生」施策の確立へ

１地域再生の核となる大学づくり

平成２４年６月、平野博文文部科学大臣が「大学改革実行プラン」を発表し、COC（Center of Community）構想を打ち出した。COC 構想は、地域再生の核となる大学づくりを推進しようとするものであり、元々の考え方は、地方の中小規模の私立大学の役割に期待するものであったと考えられる。ところが、文部科学省の新たな予算措置が国立大学や大規模私大をも対象としたこともあって、国立大学や大規模私大が、若干の余力を割いて、地域の人々と学生が交流する計画を行い始め、国の支援を受けるようになった。

国立大学のミッションの再構築と称し、文部科学省は、８６国立大学のうち弘前大学など５５大学に対し、「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進する」機能を重点支援すると決めた。

国立大学や都市の大規模私大が地方私大の役割を奪うような状況は問題である。

青森大学は、地域再生の中核としての重要な役割を果たしていかなければならない。

２消滅可能性都市の衝撃

平成２６年５月、日本創成会議（増田寛也座長）が、全国の４９．８％の８９６６区市町村が２０４０年までに２０歳から３９歳までの女性人口が５割以下に減少する「消滅可能性都市」となるとの推計を発表した。日本創成会議は、人口減少社会に対する抜本的な対策として、①出生率の向上のための施策を進めること、そして②地方から大都市へ若者が流出する「人の流れ」を変え、「東京一極

集中」に歯止めをかけることが必要であることを訴えた。

３「地方創生」が国の重要な政策課題に

このような提言を踏まえ、安倍内閣は、「地方創生」を国の重要な政策課題に取り上げた。平成２６年９月、石破茂氏が地方創生担当大臣に就任し、平成２６年１１月、「まち・ひと・しごと創生法」が国会で成立した。この法律は、「急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、①国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、②地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び③地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進する、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的とするものである。

四「地方創生」施策の進展

１まち・ひと・しごと創生基本方針（平成２９年６月９日　閣議決定）

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、まち・ひと・しごと創生基本方針が閣議決定されている。平成２９年６月の閣議決定において、①地方の特色ある創生のための地方大学の振興、②東京における大学の新増設の抑制及び地方移転の促進及び③若者の雇用機会の創出を進めるとの方針が明確にされている。

②については、東京一極集中の是正のため、東京２３区の大学・学科の新増設を抑制することとし、大学の定員増は認めないことを原則とすることが明示されている。

２地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議報告（平成２９年１２月８日）

地方創生担当大臣の下に置かれた「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議は、平成２９年１２月８日、　最終報告「地方における若者の修学・就業の促進に向けて―地方創生に資する大学改革―」を発表した。

この報告は、東京一極集中の現状と課題、大学をめぐる現状と課題、地域産業、若者雇用をめぐる現状と課題、さらに、地方創生に資する大学改革の方向性を踏まえ、

① 地方の特色ある創生のための地方大学の振興、
② 東京の大学の定員抑制、
③ 東京における大学の地方移転の促進及び
④ 地方における若者の雇用促進

を今後の取組みとして継続的・総合的に実施するため、法律等で内容を規定するとする。

この中で、①の地方の特色ある創生のための地方大学の振興の項目において、首長のリーダーシップによる産官学の連携の強力な推進をするとして、産官学連携の推進体制（コンソーシアム）を構築し、地域の中核的な産業の振興（ものづくり産業、観光業、農林水産業等）やその専門人材育成などの振興計画を策定したものについて、優れたものと認定した事業を新たな交付金により支援するとしている。これは、平成３０年度予算に組み込まれるものを想定しており、青森大学は、健康社会構築のための様々な事業や人材育成に貢献できることを青森県に説明し、知事の主導による事業への参加ができるよう、要請している。

また、大学への補助金（運営費交付金、私学助成）等については、より地方創生に資するメリハリの利いた配分にすることが提案され、さらに、地方の小規模な私立大学については、地方公共団体や

企業との連携や私立大学同士の連携により地域に貢献する大学を目指し改革を進める大学を支援することが明らかにされている。これについては、平成２９年度の私学助成予算において、地域の私立大学が地方公共団体や経済団体等と連携し、プラットフォームを構築して、地域の再生・発展のために産学官が連携協力していくための計画の策定と実施を支援する仕組みが作られており、青森大学は、青森中央学院大学等と連携協力して、この支援を受けることができるよう、活動を進めており、補助金の申請を行っている。

①の東京の大学の定員抑制については、東京都の大学進学者収容力は約２００％と、突出して高く、定員増加が続いていること、東京圏への転入超過約１２万人のうち大学進学時の転入超過は約７万人程度（平成２８年）であり、就職時も東京残留率が高いことから、全国的に見た大学の適正配置や就学機会の格差是正等のため、行政の関与が必要として、　東京都２３区においては、原則として大学の定員増を認めないことを明確にしている。これに関し、大学院は抑制の例外であること、スクラップ・アンド・ビルド（総数の増加を伴わないもの）を徹底することを明らかにしている。

３まち・ひと・しごと創生総合戦略（２０１７改訂版）（平成２９年１２月２２日　閣議決定）

平成２９年１２月２２日、政府は、まち・ひと・しごと創生総合戦略（２０１７改訂版）を閣議決定した。この総合戦略は、①少子高齢化の進行や人口減少の傾向に大きな変化はなく、我が国の人口減少に歯止めがかかる状況ではないこと、②東京圏（東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県）は、平成２８年度は１５～１９歳が２万８千人、２０～２４歳が６万９千人と、９万人を超えて、若者中心の転入超過が２１年連続で続き、東京一極集中の傾向が継続していること、③我が国全体としては雇用・所得環境の改善が続いているが、経済活動の動向は地域間でばらつきがあり、東京圏とその他の地域との間には一人当たり県民所得等に格差が生じていることとを明らかにし、このようなことから、人口減少と地域経済縮小の克服のため、①「東京一極集中」を是正し、地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけること、② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現し、人口減少を克服するために、社会経済環境の改善を実現すること、③ 地域の特性に即して地域課題を解決し、地域の中における安全・安心で心豊かな生活を将来にわたって確保すること、という基本的な施策に総合的に取り組むとする。

この総合戦略は、２０項目にわたる政策パッケージを明確にしている。その一つが「地方における若者の修学・就業の促進」である。

「地方における若者の修学・就業の促進」は、「地方創生に資する大学改革」を第一に取り上げ、その中で、首長のリーダーシップの下、持続可能な産官学の連携の推進体制（コンソーシアム）を構築し、地域の中核的な産業の振興やその専門人材育成などの振興計画を策定し、そのうち、優れた事業と認定したものに対し新たな交付金により重点的に支援することなどにより、「地方の特色ある創生のための地方大学の振興」を進めること、そして、全国の大学生の１８％が集中している東京２３区においては学部・学科の所在地の移転等も含め、原則として大学の定員増を認めないこととし、その際、総定員の範囲内で、既存の学部等の改廃等により社会のニーズに応じ新たな学部等を新設するなど、スクラップ・アンド・ビルドを徹底する場合などは例外とすることで、「東京の大学の定員抑制及び地方移転の促進」を行うことという２つの施策を示している。

さらに、この「地方における若者の修学・就業の促進」は、「地方創生に資する大学改革」に続けて、「知の拠点としての地方大学強化プラン」「地元学生定着促進プラン」「地域人材育成プラン」「地方創生インターンシップの推進」「地域における魅力あるしごとづくりの推進」「東京に本社を

持つ大企業等による地方での雇用機会の創出」及び「地方の企業を知る機会の提供、早い段階からの職業意識形成」を主要な施策として示している。このうち、「地元学生定着促進プラン」は、独立行政法人日本学生支援機構が設ける無利子奨学金の地方創生枠の仕組みを全国展開すること、私立大学等経常費補助金の配分や国立大学法人運営費交付金の取扱いにおける入学定員超過の是正の適正化に関する基準の厳格化等の措置により、大都市圏への学生集中を抑制すること等を明示している。

総合戦略は、「地方における若者の修学・就業の促進」に示された施策を「継続的かつ総合的に実施していくため、地域における若者の修学・就業を奨励するための法律案を次期通常国会に提出する」と述べている。

五「地方創生」を担う青森大学が進むべき道

１青森大学の基本理念である「地域とともに生きる大学」を推進することが根幹

「地域とともに生きる大学」を基本とし、文系・理系が揃った総合大学の強み、特色を生かし、基礎スタンダード科目の一層の充実、地域貢献科目の強化を図ることが重要である。その際、学生が地域の人々と交流し、地域社会の問題の解決へ向けて提案し、また、学生同士の協働作業を進め、主体的能力を引き出して、さらに、演習、専門科目等においても学生の積極性、自発性を高め、「学生中心の大学」を形成していく。現在、何事も東京中心で動いていることが様々なひずみを生じさせている。青森大学は、地方からの発想を大切にし、地域社会の良さを地方から確認し、東京を含む日本全体そして世界へ眼を向けて、羽ばたいていける学生を育てる必要がある。地方の再生・活性化がなければ、日本全体の再興は覚束ない。

２「地域貢献センター」の活動の充実

平成２４年に設置した地域貢献センターの組織と機能を充実強化し、地方公共団体、経済団体、高等学校等との幅広く深みのある連携協力活動をさらに活性化する。

地域貢献活動は、教育、研究、社会貢献全てにわたる活動として、地域貢献センターを中心に、全学的な企画、調整、点検、改善の PDCA サイクルを確立する。青森大学オープンカレッジ等の生涯学習に関わる活動を充実工夫に努め、外部への発信を強化する。

「青森大学地域貢献白書（仮称）」を平成３０年度中に地域貢献センターでまとめる。

東京など都会からは地方が見えていない。青森大学の学生等が都会の大学等とも交流し、積極的に発信していくことで、青森地域の良さを見直していく契機にしていく必要がある。

３「活力ある健康社会あおもり」を築く研究ブランディング事業の推進

平成２９年度私立大学研究ブランディング事業に申請した、「活力ある健康社会あおもり」を構築するための総合的、体系的な研究活動（採択されなかった。）について、平成３０年度に推進体制を再構築し、教職員全員の英知を集め、薬学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、総合経営学部の総力を結集して、積極的に進める。現在、各学部の教員が取り組んでいる研究等により、青森地域における疾病や健康に関する意識と行動の特性や問題が次第に明らかになってきている。これまでの成果を生かしつつ、「青森型疾病」と「青森型行動」の実態と問題点を解明し、生活習慣の変革や意識の転換を促すための提案を行う。提案した改善方策については、学生が地域社会の人々とともに行動することなどで浸透を図り、実践の成果の分析を行い、次への提案につなげる。このような過程の積み上げにより、青森地域の人々が地域への誇りと自信を持ち、健康維持の重要性を自覚して、世代間の交流等を通じ、積極的な運動習慣を身に付け、意識変革を促し、検診を受け、さら精密検査を進んで

受けるなどの改善が進み、ひいては短命県を克服できるようにする。

４オール青森で支えられる大学へ

青森大学は、創設以来の基本理念の下、地域の意欲ある若者を育て、地域社会の再生・活性化の拠点として、さらに魅力を高め、オール青森による信頼を確保し強化することが必要である。青森県の大学進学率は低く、東京等への流出率も極めて高い。このような状況において、青森大学の教育研究の質を各段に高めていくことで、ぎりぎりまで減らしてきた各学部の学生定員の増や大学院の創設などへ向けて、反転攻勢の道を開いていきたい。

５地方創生の施策の支援の確保

国の大学政策は、地方創生の視点から、東京一極集中を是正するため、東京の大学の定員増を抑制し、地方の中小規模の私立大学が地方創生に資する教育研究活動等を強化していくことを積極的に支援するとの方向を明確にしている。青森大学は、この動向を踏まえ、地方の期待に応えるための教育研究等の活動に対し、国の支援が確保できるよう、全力で取り組む必要がある。

６国の大学政策の抜本的な改善への要望

大学についてこれまで全国的な整備計画が欠けており、今後は、大学の全国的な規模と適正配置についての計画の樹立と確実な実施（法的な規制を含む。）が必要である。特に、人口減少と技術革新を踏まえ、大学人材の拡充方策を明示し、能力ある人材の厚みを増す必要がある。

国立大学や都市の大規模私立大学の機能について、学部レベルは大幅に縮小し、大学院、研究機能等を育てること（これについても全国に拠点が必要）を考えるべきである。東京一極集中の是正のための大学の定員の抑制は徹底する必要があり、本来は半減が望ましい。

中小規模の地方私立大学について、自助努力には限界がある。小規模な大学の学部は、多分野にわたり人材を求められており、一つの分野の人材需要は小さい。青森大学のような総合大学は、都会の大学のような規模の利益を持たないが、様々な分野において活躍できる人材を育てることができるよう、学科やコースあるいは教育プログラムを工夫しながら整備していく必要がある。国公私の設置者の違いによる経費負担能力の差が大きな格差を生じさせている。地方の私立大学への支援を強化すること、特に、運営費の３割以上へ私学助成を大きく拡充することが急務である。

大学政策に限らないが、東京中心の見方、考え方を改め、地方それぞれの特色を生かした改革を進めることが、日本全体の権衡のとれた持続的な発展につながる。

これまで述べてきたことから明らかなように、青森大学は、北東北にキラリと光る大学を目指し、地域とともに生きることを基本理念としており、学生確保に困難がある現状と、なお厳しい財政事情から、「地方創生」に資することを大きな目標として、青森の土台固めに全力で取り組むことが最優先課題である。したがって、東京に進出するというような、学園の将来の見通しを危うくするような事業への展開は、不適切と考えざるを得ず、まして大学としてお手伝いができるようなものではないことを確認する。このような考えは、青森大学教職員の総意であり、学園の理事会や大学の部長会において学長から繰り返し説明しており、理解を得ていることを付言しておきたい。

学長の活動（平成２９年７月～１２月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第６４回「文化と経済」　第６５回「ねぶたが終わって」

第６６回「真壁の平四郎のこと」　第６７回「東京中心主義の問題」

第６８回「政治学を学ぶ」　第６９回「師走に思うこと」

評論「学びの温故知新」

第６３回「英語教育をどう考えるか」　第６４回「小学校英語教育の課題」

第６５回「英語教育をどうするか」　第６６回「武道と教育」

第６７回「進路指導の在り方」　第６８回「道徳教育の在り方」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「いじめ問題の現状をどう考えるか」（平成 29 年 7 月 4 日号）

「大学における専門人材の計画養成」（平成 29 年 9 月 5 日号）

「地方創生と大学の役割」（平成 29 年 11 月 7 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「大学の３つの方針」（第 6606 号（平成 29 年 8 月 25 日））

［社会的活動等］

日本イコモス国内委員会監事・第８小委員会（バッファゾーン）委員長（文化財の保存活用施策の急激な展開方向に対する検討タスクフォース 8 月 18 日、8 月 27 日、第 20 小委員会（ブルーシールド）8 月 27 日、第４小委員会（世界遺産）9 月 7 日、理事会 12 月 2 日、総会 12 月 2 日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 11 月 6 日）

公益財団法人がん研究会評議員（事前説明会 12 月 11 日、評議員会 12 月 21 日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 10 月 26 日）

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部参与（第５回縄文遺跡群世界遺産登録推進本部会合 11 月 1 日）

青森県三戸郡小中学校教頭会研究発表大会（講演「未来を拓く学校教育」11 月 24 日）

全　学　の　動　向

●平成 28 年度青森大学研究プロジェクト

青森大学教育研究プロジェクトは、平成 26 年度から崎谷学長の主導により、学長裁量経費を充て、本学の教育研究を格段に推進していくため開始されたもので、本年度で 3 年目となる。本年度の教育研究プロジェクトは、下記の表に示されるとおり、研究推進部門が 8 件、教育改革部門が 3 件の採択となった。

これまでの教育研究プロジェクトで採択された研究の中から科学研究費補助金や外部研究補助金の採択につながる研究が複数あること、さらに学生が地域貢献活動や研究活動に直接参加するプロジェクトが存在することなど、本学の教育研究の推進に大きく貢献している。本年度は、平成 28 年 12 月 21 日に中間発表会、平成 29 年 3 月 17 日に最終報告会を開催し、同年 5 月に最終報告書が完成した。

平成 28 年度 青森大学教育研究プロジェクト

研究推進部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
1	食品成分の生活習慣病予防効果に関する研究	益見 厚子	岩船 裕志（薬学部５年生）、佐藤 伸（青森県立保健大学教授）
2	細胞内寄生性細菌に対するインターロイキン-33 が誘導する自然免疫細胞活性化作用の解析	福井 雅之	
3	キラルスルホキシドを用いた２点不斉アルドール反応の開発	中北 敏賀	鈴木 克彦、植木 章晴
4	ノシセプチンやその代謝物による記憶機能制御に関与する分子メカニズムの解明	三輪 将也	上家 勝芳
5	生物学的応用を指向した集積型ルイス a タンデムリピートの合成	植木 章晴	鈴木 克彦、中北 敏賀
6	後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較検討	井沼 道子	三浦 裕也
7	バキュロウイルスベクターを用いたガンワクチン開発とガンに対する効果の解析	水谷 征法	水野 憲一、木立 由美 阿部 一生、五月女 雄一、筒井志帆（薬学部５年生）
8	北東北地域における光学産業の発展プロセスー技術移転と地場企業の創出を中心にー	沼田 郷	

教育改革部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
9	企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクトー活きた経営学の体得ー	中村 和彦	森 宏之
10	地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証	櫛引 素夫	沼田 郷、坂井 雄介
11	青森いきいき脳健康プロジェクト（“高齢社会対応”地域密着型青森大学のブランディング）	大上 哲也	＊参加者多数のため申請書参照

平成 29 年度　科学研究費助成事業一覧（研究種目別、経費は 29 年度本学の分）

平成 29 年度以前採択　科学研究費助成事業一覧（研究種目別、経費は 29 年度本学の分）

研究種目	学 部	氏　名	研 究 課 題	研究期間	直接経費
基盤研究(B)	薬学部	岡島　史和	pH環境を感知するOGR1受容体ファミリーの作用機構と生体機能	平成27～29年度	¥1,300,000
若手研究(B)	総合経営学部	渡部　あさみ	先進諸国におけるﾎﾜｲﾄｶﾗｰ労働者の労働時間管理	平成26～29年度	¥0
	ｿﾌﾄｳｪｱ情報学部	紅林　亘	一般化位相縮約理論が拓く生体リズム現象の予測と制御に向けた新展開	平成28～30年度	¥1,000,000
基盤研究(C)	総合経営学部	岩淵　護	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	平成27～30年度	¥525,000
		石塚　ゆかり	日台韓の口コミ行動に関する対照研究－医療と観光サービスに対する評価を中心に	平成28～30年度	¥700,000
		吉川　昌則	アルペンスキーにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価	平成28～30年度	¥650,000
	社会学部	渋谷　泰秀	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	平成27～29年度	¥180,000
		中村　和生	初等・中等教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析	平成28～30年度	¥550,000
	薬学部	中田　和一	航空需要に対応する海上設置型ローカライザの設置条件に関する研究	平成28～30年度	¥340,000
				小計	¥5,245,000

他機関の分担分(平成29年度の金額)

研究種目	学 部	氏 名	研究課題・分担者名	研究期間	直接経費
基盤研究(B)	広島大学	由井 義道	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究（櫛引素夫）	平成27～29年度	¥240,000
	東京工業大学	中尾 裕也	大自由度力学系のデータ駆動型縮約モデリング手法の確立とバイタルサインへの適用（紅林亘）	平成29～32年度	¥1,000,000
基盤研究(C)	奈良大学	吉村 治正	社会学的知見に基づくWeb調査の代表性の分析（澁谷泰秀）	平成27～29年度	¥95,000
	秋田県立大学	渡部 論	高齢者の認知機能の相違とエゴ・ネットワークに現象する特殊詐欺脆弱性リスクの解明（澁谷泰秀）	平成28～30年度	¥728,500
	朝日大学	梅村 直己	口腔がん幹細胞の転移巣形成機構の解明（大越絵実加）	平成29～31年度	¥400,000
	朝日大学	足立 誠	低酸素環境下における口腔癌のがん幹細胞に対する新規分子標的治療の開発（大越絵実加）	平成29～31年度	¥100,000
				小計	¥2,563,500

科学研究費助成事業（15件）本学分の金額		直接経費
	合計	¥7,808,500

日本学術振興会から受けているその他の事業

事業名	代表者氏名	課題名	委託期間	経費
ひらめき☆ときめきｻｲｴﾝｽ	大越 絵実加	薬を創る薬剤師	平成29年8月26・27日	¥329,000
			小計	¥329,000

科学研究費助成事業に上記1事業を加えた金額（16件） 合計 ¥8,137,500

【出張講義一覧（平成 29 年 7 月 1 日～12 月 31 日）】

NO	依　頼　先	講義日	氏 名	学 部	講義テーマ
1	平内町教育委員会	2017/8/30	大上哲也	薬学部	いきいき脳健康教室
2	青森県身体障害者福祉協会	9/2、10/1,10/15、11/5	藤林正雄	社会学部	傾聴を学ぶ
3	山形県奥羽･羽越新幹線整備実現同盟	2017/9/20	櫛引素夫	社会学部	フル企画新幹線の意義と課題
4	黒石市	2017/9/21	櫛引素夫	社会学部	地域防災力をどう向上させるか
5	一般財団法人　青森県銀行協会	2017/10/10	櫛引素夫	社会学部	新幹線ネットワークを考える
6	四国経済連合会	2017/11/6	櫛引素夫	社会学部	新幹線の開業効果について
7	独立行政法人高齢･障害･求職者雇用支援機構青森支部	2017/11/9	船木昭夫	社会学部	カウンセリング
8	三戸郡　小･中学校教頭会	2017/11/24	崎谷康文	学　長	未来を拓く学校教育
9	青森明の星高校	2017/11/24	三浦裕也	薬学部	薬学部では何を学ぶのか
10	青森明の星高校	2017/11/24	三浦裕也	薬学部	模擬授業及び進路ナビ（インタビュー形式）
11	青森市養護教諭会	2017/12/27	永倉透記	薬学部	痛みについて知ろう
12	中央市民センター	2017/11/30	岡島史和	薬学部	薬はどうして効くの？タバコ成分ニコチンにまつわる話
13	中央市民センター	2017/12/6		薬学部	医薬品以外の薬学分野-機能性食品：天然物由来の肥満改造素材-
14	つがる市立瑞穂小学校	2017/12/8	大越絵実加	薬学部	医薬品以外の薬学分野-機能性食品-
15	（公社）JIA日本建築家協会青森地域会	2017/12/11	櫛引素夫	社会学部	幸畑の街づくりの現状と効果･課題など
16	中央市民センター	2017/12/19	藤林正雄	社会学部	傾聴を学ぶ

大学の行事（平成 29 年 7 月～12 月）

７月２３日　第２回オープンキャンパス

８月３日～７日　学園ねぶた出陣

９月１６日　夏季教職員研修会

９月３０日～１０月１日　青大祭

１２月１７日　第５回高校生科学研究コンテスト

１２月２２日　冬季教職員研修会

［観光産業の中核人材育成・強化事業に採択されました！］

観光庁主催「平成２９年度産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」実施校に、東北で唯一、青森大学が選定されました。

旅館ホテルの次世代経営者や幹部職員を対象に講座を開講。話題の旅館経営者が実戦経験をもとに改革手法を説明し、大学の教授陣が解説します。中小旅館や温泉地を対象に、ネットを活用したインバウンド客の集客方法やホームページ作成のヒントを、豊富な事例を用いて紹介します。

○目的…

・経営危機を乗り越えた宿泊産業経営者から多角的に経営・サービスの革新について実践的に学ぶ。

・宿泊産業の魅力創造、経営効率化を通じた生産性向上。

・次世代経営者が夢や希望を持てる宿泊産業革新の方向性を理解し、事業意欲を創出。

・インバウンドへの取り組み方を学び、経営の安定化を図る。

○対象者

・宿泊産業に従事する次世代経営者、幹部職員

（観光産業全般に通じる普遍的な内容が多いので観光協会、商工会議所、自治体などの観光担当者の参加も歓迎）

〇募集定員・期間

・定員 20 名

※満員になり次第募集を締め切ります。

〇主な講師陣

・岩佐十良（株式会社自遊人代表取締役、旅館「里山十帖」総支配人

・宮崎富夫（「元湯陣屋」社長）

・渡辺賢（星野リゾート「青森屋」総支配人）

・小野秀一郎（株式会社インバウンドにっぽん／実践！インバウンド代表取締役）

〇実施時期・場所（予定）

・第１ターム　11 月 28～30 日

・第２ターム　１月 15 日～16 日

・第３ターム　２月中旬

※第 1、第 2 タームは青森市内会場で、第 3 タームは星野リゾート「青森屋」にて開催。

〇料金

・無料

（受講料は無料ですが、会場への交通費、宿泊費は各自でご用意ください。なお第 3 タームは「青森屋」でのご宿泊となります。）

〇お問い合せ先

青森大学　観光文化研究センター

住　所　〒030-0943 青森県青森市幸畑 2-3-1

電　話　TEL：017-738-2001　（内）342

観光庁主催　観光人材育成講座のご案内

観光庁
観光産業課

＋

青森大学
観光文化研究センター

実践
話題の
旅館経営者が
実践例を熱く語る!!

&

理論
講師陣が丁寧に解説!!

旅館経営の Innovation（イノベーション）を 学んでトライ!!

受講料　無料!!

第１ターム：「里山十帖」
何もない里山の温泉旅館を稼働率９割に

第２ターム：「陣屋」
クラウド型 IT 導入でサービスと経営を革新

第３ターム:「青森屋」
青森地域文化にこだわる体験

○東北で初めて観光庁主催「平成 29 年度産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」実施校に、青森大学が選定されました。

○講座では、主に旅館ホテルの次世代経営者や幹部職員を対象に、話題の旅館経営者が実戦経験をもとに改革手法を説明し、大学の教授陣が理解を促すように解説します。

○中小旅館や温泉地を対象に、ネットを活用したインバウンド客の集客方法や、ホームページ作成のヒントを、豊富な事例を用いて紹介します。

青森大学　実践から学ぶ観光産業革新の手法

○事業概要
■主に東北地域・道南の旅館ホテルの魅力アップと経営効率向上による生産性向上を図り、後継者が夢と希望をもてる産業とすることを目的とする。
■危機的状況から革新的な手法を用いて見事に再生した旅館3か所を事例に、それぞれの革新性をテーマにして体験談を交えた再生のプロセス、新たな発想への気づき、状況を変える発想法、革新的な手法などを丁寧に掘り起こし、受講生の理解と行動力を促す。
■東北観光の弱みであるインバウンドをテーマにした具体的に革新的な発想を提案する場を設定し、次世代の北東北・道南の観光産業を担う人材の交流を図り、地域全体に活力を生んでいく核となる人材を育成していく。

■**対象**：主に旅館ホテルの後継者や幹部職員、地域経営に携わる人
■実施場所：青森駅近くのセミナー会場、三沢市の青森屋
■実施スケジュール：３日間×３回、11月下旬、1月中旬、2月下旬

第3ターム：「青森屋」
青森地域文化にこだわる体験

■**カリキュラム概要**：各タームごとに経営革新のテーマを設定

第1ターム：デザイン的思考(革新を生む発想法)

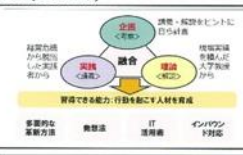
第2ターム：クラウド型ITによる経営とサービス革新

第3ターム：地域文化への徹底したこだわりで宿の魅力創造・一人5役で効率(働き方改革)

メイン講師によるテーマの掘り下げとファシリテーターによる受講生との議論訪究

青森屋での体験学習

インバウンドをテーマにしたWSで新たなビジネスプランプレゼンテーション



「里山十帖」HPより

第1ターム：「里山十帖」何もない里山の温泉旅館を稼働率９割に

第２ターム：「陣屋」
クラウド型IT導入でサービスと経営を革新※「陣屋」コネクトHPより

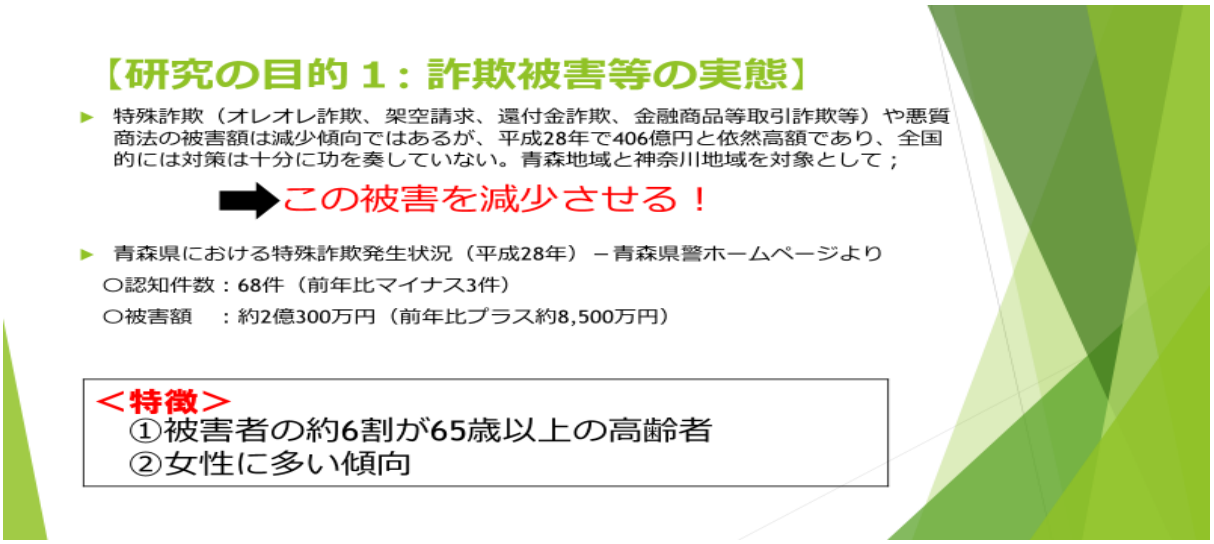
実施体制スキーム

青森大学3学部総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部連携による実施体制
×「青森県観光人材育成会議」メンバーとの連携

●本学が参画する研究・開発プロジェクトが RISTEX に採択

秋田県立大学の渡部諭教授を代表研究者とする研究開発プロジェクト「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」は、本学社会学部の教員らが参画するプロジェクトで、平成 29 年度の国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)/社会技術研究開発センター(RISTEX)の戦略的創造研究推進事業「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築研究開発領域」に採択され、平成 29 年 10 月 1 日から 3 年間を研究期間として社会資源の異なるフィールドに適した地域連携ネットワークを構築し、セルフディフェンス力を向上させることを目標として研究開発を推進することとしている。

このプロジェクトは、秋田県立大学、青森大学、慶應義塾大学医学部、京都府立医科大学の共同プロジェクトで、本学はプロジェクトの中の実装部分を担当する。実装とは、研究に基づいたフィールドテストを含む実際の高齢者の詐欺被害を減少させるための活動で、青森県と神奈川県がフィールドとなっている。本学は、その両フィールドの責任校となっている。神奈川県の実装担当は社団法人シニア消費者見守り倶楽部であるが、本学がフィールド全体の統括をすることとなっている。本プロジェクトは、3 年間で高齢者の詐欺被害の 20%減少を目指している。本プロジェクトの概要は以下のとおりである。

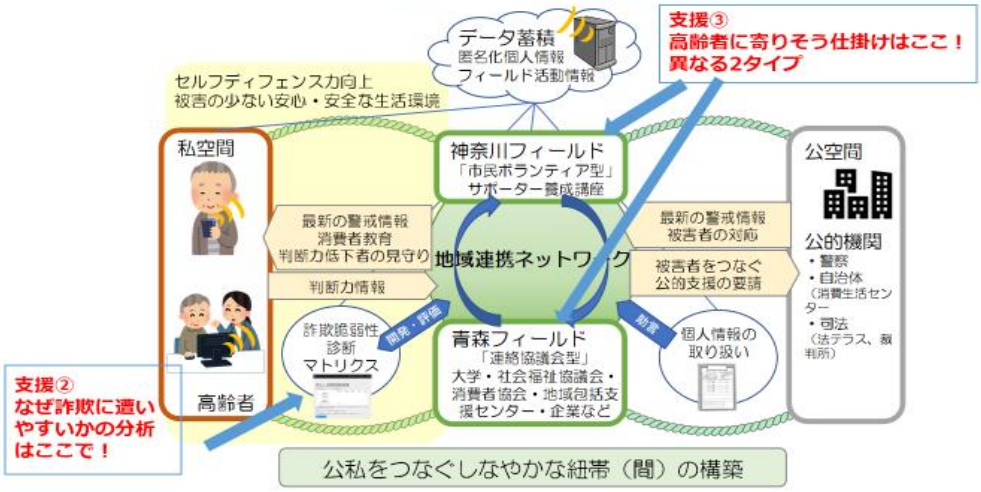


【研究の目的２：心理学及び医学的知見を活用して詐欺被害の減少対策に役立てる】

- 高齢者の詐欺被害が減少しない理由
  ①加害者側の巧妙化・悪質化する手口と対照的に、被害者側の「自分は騙されない」と過信する心理特性
  ②情報不足や判断能力の問題等から本人が被害に気付き難い
  ③実際に被害に遭っても公的機関等に相談しないという行動特性

- **有効な対策は、高齢者自身が詐欺被害から自身を守るために自らのセルフディフェンス力を向上させることであり、そのためには心理学・医学の学術的な知見をもとに開発したプログラムを高齢者に提供して自らの弱点を認識させ、詐欺に対して備えさせる必要がある**

「間」にしなやかな紐帯を構築する



【実装グループの役割】

- 実装グループは、様々な形で地域での見守り体制づくりを目指す

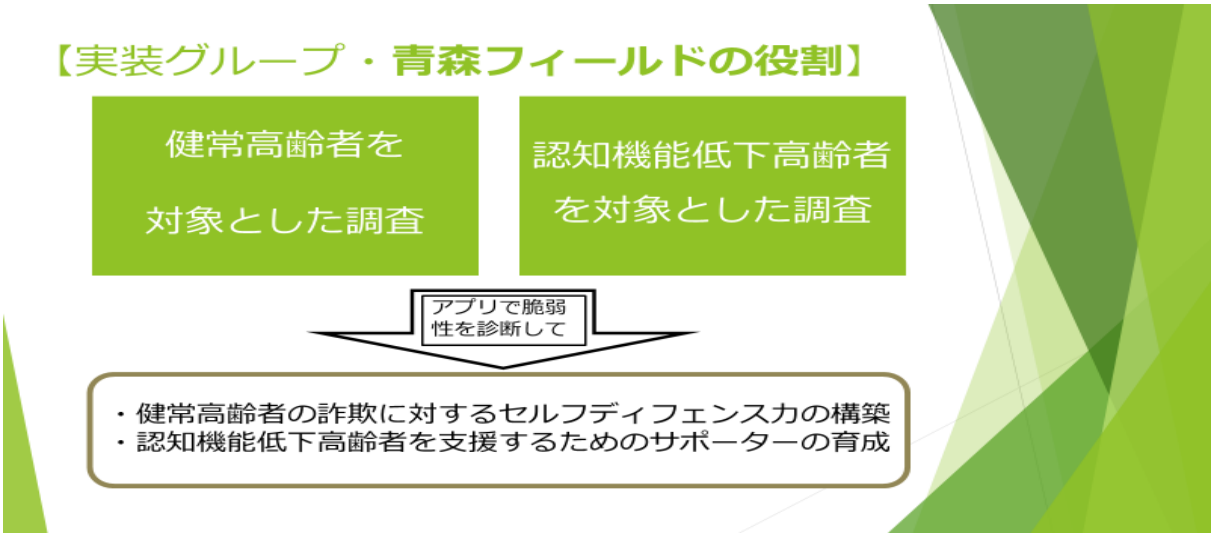
高齢者を対象に調査を実施

青森フィールド：青森大学

- 青森大学と連携協定を結んでいる組織を中心に、「連携協議会型」の見守り体制構築を目指す
- 神奈川フィールドと連携し、市民ボランティア養成講座の実施
- 若者向け消費者教育の実施

神奈川フィールド：一般社団法人シニア消費者見守り倶楽部

- 市民ボランティア養成講座を実施し、市民サポーターを育てる
- シニア向け消費者教育の実施



【平成 29 年 7 月 21 日掲載】三戸町との包括的連携協定を締結

平成 29 年 7 月 19 日、本学において三戸町と青森大学との包括的連携協定に関する締結式が行われ、松尾和彦三戸町長と崎谷康文青森大学学長が協定書に署名しました。

今後は、三戸町の健康長寿社会の実現、情報を学ぶ町、情報に明るい町の推進、三戸町の活性化などの地域課題の解決に向けて、三戸町と青森大学の教職員および学生が協働し、町民と共に三戸町の産業振興と住民福祉の向上を目指すこととしています。

［みちのく銀行と連携協定を締結しました］

７月２７日、崎谷学長は本学において定例会見を開き、みちのく銀行と地域振興に関する連携協定を締結したことを発表しました。

この協定は、それぞれが保有する様々な情報、ノウハウなどを用いて相互に協力し、地域経済の活性化と社会の発展に貢献することを目的とするものです。

今後の具体的な取り組みの一つとして、本学で高齢者の心理を調査、研究している教授らが、高齢者を狙った特殊詐欺被害を防ぐために、実際に被害を防いだ事例など、みちのく銀行が持つ情報を提供してもらい、効果的な防止策を提案していく予定です。本学が金融機関と協定を結ぶのは今回が初めてとなります。（協定締結は６月１日付）

このほか、青森北高等学校との高大連携協定に基づき、同校１年生を対象とした「心の健康教育事業」を９月に行うことを発表しました。講師は社会学部の船木教授を予定しています。

画像は協定書を手に握手を交わすみちのく銀行高田頭取（右）と崎谷学長。（みちのく銀行本店にて）

画像は協定書を手に握手を交わすみちのく銀行高田頭取（右）と崎谷学長。（みちのく銀行本店にて）

［10 月 20 日（金）、青森市と青森市内高等教育連携機関との包括連携協定締結式が行われました］

これは、青森市が抱える課題と青森市内の大学等が抱える課題の解決のため、お互いに連携し、大学の活性化や地域の活性化へ向けた取り組みを行うことを目的としたものです。

元々、青森大学は平成 26 年に青森市と包括連携協定を結んでいましたが、上記のような取り組みを行うに当たって、個別の大学ではなく、公立・私立の枠を超えて青森市内の大学等で「青森市内高等教育連携機関」を組織し、スクラムを組んで進めることになりました。

締結式では、まず、青森市の小野寺市長と青森市内高等教育連携機関の代表、青森明の星短期大学の石田学長が挨拶と趣旨説明を行いました。

その後、小野寺市長と石田代表が協定書に署名し、協定が締結されました。

また、本学の崎谷学長をはじめ、この連携機関に参加した、青森公立大学、青森中央学院大学、青森県立保健大学、青森中央短期大学の各学長からも、この協定に関して挨拶及び説明がありました。

今後は、この連携の枠組みに青森商工会議所も加わってプラットフォームを形成し、中長期計画を策定、それを基に三者一体となって大学の活性化や地域の活性化へ向けた取り組みを行っていきます。

［青森商工会議所と青森地域大学・・短大との連携協定・協力に関する協定が締結されました］

10 月 23 日（月）、青森商工会議所と青森地域大学・短大との連携・協力に関する協定が締結されました。これは、同日開催された青森商工会議所主催の「青森地域産学連携懇談会」に先立って行われたものです。青森大学を含めた青森市内の 4 年制大学と弘前大学は、平成 25 年に青森商工会議所と連携・協力に関する協定を締結していました。今回、新たに青森中央短期大学と青森明の星短期大学の 2 短大と青森商工会議所が協定を締結したことで、短期大学も含めた連携・協力が可能となりました。

協定署名後、本学の崎谷学長を含めた各 4 年制大学の代表と青森商工会議所の副会頭を交えての記念撮影が行われました。

この後に開催された青森地域産学連携懇談会では、大学・短大側から、現在取り組んでいる産学官金の連携事業等について事例紹介があり、これらの内容を含めた意見交換も行われました。

今後、10 月 20 日に締結された、青森市と青森市内高等教育連携機関との連携協定も含めて、地域の活

性化と大学・短大の活性化に向けて取り組んでいくことになります。

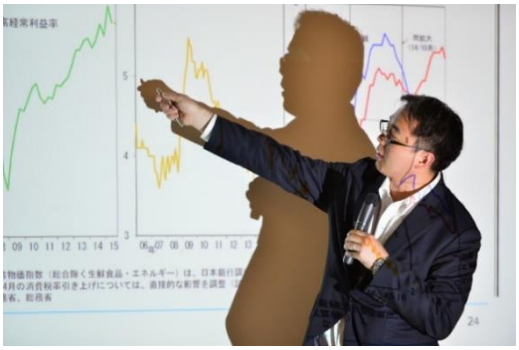
［第２２回図書館文化講演会が開催されました］

平成２９年６月１５日（木）、図書館文化講演会が本学図書館新館において開催されました。（共催：青森大学地域貢献センター）

２２回目を迎える今回は、講師に日本銀行青森支店総務課長の郡司暢久様と、金融アドバイザーの中田鶴子様をお迎えし、総合経営学部と社会学部の２年生の中から約１２０名が受講しました。

はじめに金融アドバイザーの中田鶴子様が「若者狙う悪質商法―手口と対策方法について―」と題して、実際に消費生活センターに相談のあった事例を紹介し、携帯電話やインターネットを使ったワンクリック詐欺などの悪質商法についての対策方法、またクーリング・オフ制度についてクイズ形式などでお話しをいただきました。

続いて日本銀行青森支店総務課長の郡司暢久様より「日銀の役割と金融政策」と題して、日本銀行の歴史、青森支店が出来た経緯などについてお話しをいただきました。また、日本銀行の役割として、お札の発行や物価の安定のための金融政策について、私たちが普段何気なく利用している金融システムの仕組みについてなどをお話しいただきました。



私たちの生活の中で欠かすことのできない「お金」について、物価が不安定だとどのようなことが起こるのか、また、そうならないために日本銀行で行っている様々なこと、そして「お金」に関わる様々なトラブル、落とし穴など、大変わかりやすくご講演いただきました。

［客員教授川村晃司先生特別講義］

平成２９年６月３０日（金)、本学の客員教授で、テレビ朝日コメンテーターの川村晃司先生の特別講義が行われました。

川村先生は青森市のご出身。現在はテレビ朝日報道局コメンテーターとして各番組でご活躍をされています。昨年は「メディアから読み解く日本社会」をテーマにご講演いただきました。

２回目となる今回は『メディアの心理と真理』をテーマに、自身が出演している番組の映像を交えながら、昨今の話題についてご講演いただきました。

先生自身が取材を重ねてきた経験や、海外での体験。さらに新聞社各紙を比較した報道の仕組みなど、リアリティあふれる講義に、学生は興味深く耳を傾けていました。

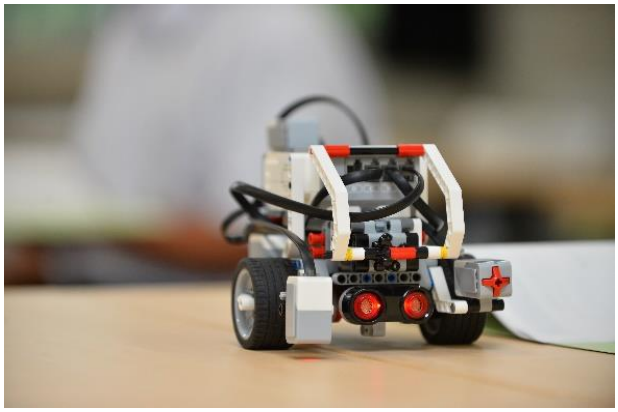
［第２回オープンキャンパスが開催されました］

平成２９年７月２３日（日）、第２回目となるオープンキャンパスが開催されました。生憎の雨でしたが、多くの高校生の方と保護者の方にご参加いただきました。たくさんのご参加ありがとうございました。　この日の内容は、全体の説明が終了後、各学部の模擬授業体験を行い、その後、学食を食べ、午後には大学生とのフリートークを実施しました。高校生の方と保護者の方は大学の雰囲気を感じているようでした。

青森大学第２回目オープンキャンパス
～青森大学の学びを体感しよう！～

【総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部】
○開会あいさつ/スケジュール確認
○大学案内
○模擬授業
≪総合経営学部≫
ゲーム理論でビジネスを考えてみよう

≪社会学部社会学コース≫
青森の若者は幸せか？
≪社会学部福祉学コース≫
高齢者にやさしい街づくり
≪ソフトウェア情報学部≫
タブレットでロボットプログラミング
〇保護者説明会
〇学食体験
〇個別相談コーナー



【薬学部】
〇開会あいさつ/スケジュール確認
〇創剤体験
〇保護者説明会
〇薬学進学のための相談コーナー
〇学食体験
〇入試・特待説明
〇薬学部で学べること

［学園ねぶた出陣しました！］
　青森山田学園ねぶたは今年も８月３日から７日まで出陣。
　ミスねぶたに選ばれた総合経営学部の三潟さん（左写真の右端）の先導に続き、学生らは「ラッセラーラッセラー」の掛け声とともに、連日連夜元気に飛び跳ね、短い青森の夏を満喫しました。

［第３回オープンキャンパスが開催されました］

平成２９年８月４日（金）、第３回目となるオープンキャンパスが開催されました。

夏休みということもあり、多くの高校生の方と保護者の方にご参加いただきました。たくさんのご参加ありがとうございました。

この日の内容は、全体の説明が終了後、各学部の模擬授業体験を行い、その後、学食を食べ、午後にはクラブ見学・大学生とのフリートークを実施しました。

高校生の方と保護者の方は大学の雰囲気を感じているようでした。

青森大学第３回目オープンキャンパス
～青森大学をまるごと体験しよう！～

【総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部】

〇開会あいさつ/スケジュール確認

○模擬授業

≪総合経営学部≫
ペーパータワー建設で会計を学んでみよう
≪社会学部社会学コース≫
地域の未来を考えてみよう
～青森市の鳥”フクロウ”で街づくり～
≪社会学部福祉学コース≫
津軽弁とコミュニケーション
≪ソフトウェア情報学部≫
IT がひらく未来のくらしとはたらき方
○保護者説明会
○学食体験
○クラブ見学
○個別相談コーナー

【薬学部】
○開会あいさつ/スケジュール確認
○調剤体験
○薬学進学のための相談コーナー
○学食体験
○薬剤師のお仕事説明
○入試・特待説明
○薬学部で学べること

［青森市「第 11 回かかしロード 280」に青大生が初出展］

青森市油川地区などの国道 280 号沿いで開幕した「第 11 回かかしロード 280」に、青森大学生が「かかし」2 体を初出展しました。青森大学は本年度、油川地区にある青森北高校と連携協定を結ぶなど、同地区との結びつきを深める「油川プロジェクト」に着手しました。このかかしは、１・２年生の授業「キャリア特別実習」の一環として、ソフトウェア情報学部 1 年の天内葉月さんを中心とする学生たちが、前期授業期間と夏休みを活用して作りました。青森山田学園デザインの青森ねぶた浴衣をまとった「跳ね人」かかしと、青森大学のマスコット「あおりん」かかしの 2 体を製作、8 月 28 日に設置しました。

[短期留学生受入れ式・留学成果報告会]

９月１２日、平成２９年度短期留学生受入れ式が行われました。今年度は台湾の修平科技大学から５名、同じく台湾の義守大学から２名の合計７名が総合経営学部と社会学部で１年間学びます。式典では緊張した面持ちの皆さんでしたが、式典のあとに開催された歓迎会では、できたばかりのニックネームで自己紹介をするなど、先生方や学生らと打ち解けた様子でした。 笑顔が素敵な留学生の皆さん、１年間よろしくお願いします。

受け入れ式とあわせて、昨年８月より１年間、韓国の東国大学に留学していた総合経営学部３年神山敏夫君の成果報告会も行われました。韓国語は読めない、書けないから始まった留学生活も、帰国時にはかなりレベルアップした様子。留学中の出来事を写真付きで紹介してくれましたが、常にたくさんの仲間に囲まれた笑顔の神山君を見て充実した留学生活だったことが伺えました。

【平成 29 年 10 月 7 掲載】　出前授業　青森北高校「こころの健康教育」を実施しました

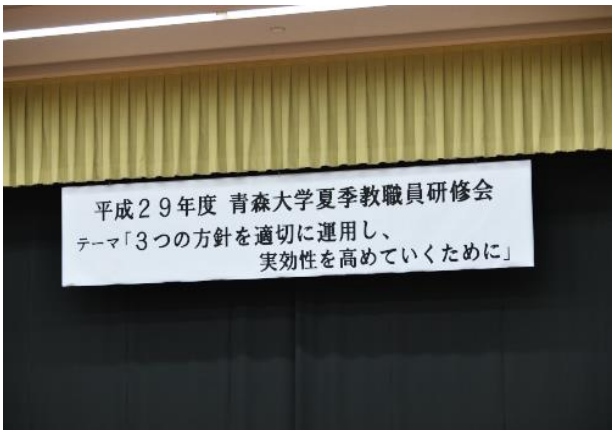
９月１２日、本学と連携協定を結んでいる青森北高校において「こころの健康」と題した出前授業を行いました。

青森北高校１年生２７０人を対象とし、本学の教職員がファシリテーターとして参加しました。

［夏季教職員研修会が行われました］

平成２９年９月１６日（土)、夏季教職員研修会が行われました。

「３つの方針を適切に運用し、実効性を高めていくために」を主題として、学長、４学部の教員と事務職員全員が参加し、基調講演に続いて報告、ディスカッションを行いました。



はじめに、岡島理事長から「１０年後の青森大学」とのテーマで、大きく変わる世の中に対し、これからの世界の大学の課題、可能性についての展望に関する講話がありました。

次に崎谷学長は「３つの方針の適切な運用と課題―青森大学の教育理念の実現のために―」と題して、昨年新たに策定した、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針の３つの方針について、「青森大学ルネッサンス」を推進し、「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」という目標を達成していくための、教学全般にわたる重要な指針としての意義、３つの方針に基づく教学改革をさらに進める必要性、特に、学生の学修の到達度の調査と評価の仕組みの確立やアセスメント・ポリシー策定を急ぐべきこと

などについて、教職協働で、全員の協力体制で推進すべきことを提言しました。

基調講演では、平野博紀文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長より「大学政策の現状と課題について―３つの方針のより有効な進め方―」と題して１．高等教育を取り巻く環境、２．高等教育に関する政策動向、３．平成３０年度予算要求について国の現状、大学を取り巻く環境、教育改革の状況などについて、時宜に適った、また、本学の今後の改革推進に有用な示唆を含む、本学の教職員の努力を後押しされる、中身の濃いご講演をいただきました。

続いて行われた報告及びディスカッションについては、以下のとおりです。

１．３つの方針のこれからの課題（鈴木康弘）
２．PROG の有効な活用と学習成果の可視化（坂井雄介）
３．入学者受入れの方針を適切に運用するに当たって（清川繁人）
４．アセスメント・ポリシーの構築について（澁谷泰秀）
５．地域とともに生きる大学としての３つの方針―薬学部の立場から―（三浦裕也）

最後に、崎谷学長によるまとめを行いました。崎谷学長は、３つの方針に基づく改革を進めることが、「地域とともに生きる大学」である青森大学の魅力を高めていくことになることを確認し、地方創生へ向けて、県内の大学進学率を向上させ、東京等の大学への流出を防ぎ、東京一極集中を是正するため、青森大学が、これまで以上に地域社会の再生・活性化の拠点としての役割を果たしていく必要があると述べ、全教職員の自覚と協力を求めました。

［災害避難訓練が行われました］

平成２９年９月２２日（金）、災害避難訓練が実施されました。

災害の想定：１６時（４時限目授業中）、強い地震が発生。二次災害として、１号館介護実習室より火災発生。

「訓練、訓練、これは訓練です。只今１号館介護実習室付近より火災発生。すみやかに中庭に避難してください」の避難放送を受け、授業中の学生は担当教員の誘導により避難し、その他の校内にいる学生は各号館担当の職員の誘導により避難しました。

避難放送から最終的に全員の避難の確認ができるまでに要した時間は約１０分。教職員及び学生の皆さんの協力により、大変スムーズに避難することができました。

避難訓練に続いて、実際の消火器を使用した消火訓練を行いました。

初めて操作する消火器に戸惑う学生もおり、訓練の必要性を感じた部分でした。

災害避難訓練は、いざという時のための避難場所、避難経路を確認する大切な機会となりました。

［青大祭が開催されました！］

平成２９年９月３０日（土）、１０月１日（日）の二日間、青大祭が行われました。

初日は時折強い雨が降る悪天候にも関わらず、にゃんごすたーさんによるライブや、シューマッハさん、ゴー☆ジャスさん、ダンディ坂野さんによる「サンミュージックお笑いライブ」が大好評で、昨年度を上回る来場者数となりました。

二日目は晴天となり、カラオケ大会や金多豆蔵人形劇、ＢＬＵＥフェスティバルが開催され、こちらもたくさんの来場者を数えました。

各クラブや後援会、職員による出店は売り切れ続出、学部や外部団体による展示ブースや出店も大好評の中、全ての日程を無事に終了することができました。

一時は駐車場が満車になるなど、皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、ご来場いただき誠にありがとうございました。

来年度は青森大学５０周年、そして青森山田学園１００周年の記念の年となります。

更に皆様が楽しんでいただけるようなイベントを企画していきますので、またのご来場をお待ちしております。

【平成 29 年 10 月 12 日掲載】第 2 体育館（正徳館）に災害用備蓄物資の保管を開始しました。

10 月 12 日（木）、本学第 2 体育館（正徳館）に、災害時に使用する備蓄物資の保管を始めました。これは、第 2 体育館（正徳館）が、今年（平成 29 年）2 月に青森市の避難所として指定されたことを受けて計画を進めていたものです。初回の今年度は、水や食料（アルファ米、乾パンなど）、毛布、携帯トイレ、使い捨てカイロを 100 人分×3 日分を保管しました（5 年保存可能）。

今後、毎年度 100 人分×3 日分ずつ保管し、5 年で 500 人分×3 日分の備蓄物資を保管する予定です。災害が起こらないことが一番ですが、避難所として開設する際には、これらの備蓄物資を活用することが可能になりました。

【平成 29 年 10 月 19 日掲載】期日前投票所が開催されました

10 月 17 日（火）、衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査の期日前投票所が本学内に開設されました。

本学内に期日前投票所が開設されるのはこれで 3 回目です。今回も、本学学生が青森市選挙管理委員会の方と共同で運営を行いました。

午前 11 時の開始とともに、本学学生や教職員、地域の方々が訪れ一票を投じていました。

期日前投票所の開設によって、学生たちが、政治を身近に感じ、選挙への関心を高め、有権者として自覚を持つ、よい機会になると思います。

［フクロウ巣箱設置イベント in 青森大学を開催しました］

１０月２５日、本学キャンパス内の３ヶ所の大木に、りんご箱を利用して手作りした巣箱を設置しました。

このイベントは、青森市の鳥「フクロウ」をもっと身近に感じて、楽しもうという地域活性化を目的として、本学の「地域貢献演習」の学生たちと地域の有志が企画したものです。今後もフクロウの棲める環境づくりのために、巣箱を設置する活動をつづけていきます。

紅葉で色鮮やかな中庭に、２つの巣箱が設置されました。大学正面にも１つ設置しました。

［財政・金融・特殊詐欺等をテーマとした講演会開催］

平成２９年１１月１０日（金）、青森大学基礎スタンダード科目「社会と環境」において、財務省青森財務事務所長安田充里様にご講演いただきました（演題：これからの日本のために財政を考える）。また、「金融トラブル等に遭わないために身に付けよう金融の知識」と題した講演では、寸劇も盛り込まれるなど、講演に聞き入る学生の姿が印象的でした。寸劇には学生も参加させていただき、随所に津軽弁も混じるなど、楽しく有意義な時間となりました。

［東北楽天ゴールデンイーグルスの選手たちによる野球教室 開催］

平成２９年１２月９日（土）、東北楽天ゴールデンイーグルスの選手たちによる野球教室が、本学室内野球練習場で行われました。平成１３年度経営学部卒業の細川亨選手を中心に、青山浩二選手と来季から横浜 DeNA ベイスターズに移籍する中川大志選手をお招きして、基本的なキャッチボール、バッティングの指導が行われました。野球教室の最後には、参加の浜館ジュニアクラブ、幸畑小学校、戸山西小学校、横内小学校野球部全員で、細川選手の使用したバットや手袋、リストバンドのジャンケン争奪戦が行われ、笑顔でイベントを終了しました。

細川亨選手は、「（母校に来て）懐かしかったです。ここで汗を流し努力し続けたことで、プロ野球選手になることができました。みんなも頑張って下さい。来年も呼んでいただければ来たいです！」と語ってくれました。

［日本証券業協会による金融リテラシー出前講座を開講］

平成２９年１２月１３日（水）、本学において日本証券業協会・東北地区協会の「金融リテラシー出前講座」が開かれ、総合経営、社会、ソフトウェア情報の 3 学部生、約 50 人が、金融や証券、ライフステージに応じた資産形成などに関する基礎的な知識を学びました。

講座は、仙台市在住のファイナンシャルプランナー・伊藤美恵氏が講師を務め、3 学部の合同授業「キャリア特別実習Ⅰ・Ⅱ」の一環として開かれました。

伊藤氏は、証券会社や生命保険会社に勤務した経歴に基づき、給与明細表の見方を手始めに、貯蓄の必要性や債券の格付け、低金利時代における資産運用の考え方、分散投資の重要性などを解説しました。

同時に、「安全性と収益性が共に高い金融商品はなく、自ら適切に判断する必要がある」「ローリスク・ハイリターンの、いわゆる“おいしい話”は存在しないので、十分に気をつけるように」などと警鐘を鳴らしました。

青森大学は、総合経営学部だけでなく、社会学部やソフトウェア情報学部からも金融機関への就職内定者が出ているだけに、学生たちは真剣な表情で聞き入っていました。「もっといろいろ話を聞きたくなった」という感想も聞かれました。

［青森大学で韓国語を学んで］

平成２９年１２月１６日（土)、第１３回「話してみよう韓国語」青森大会が開催され、スピーチ部門では総合経営学部３年の神山敏夫さんが最優秀賞、一般スキット部門では社会学部３年の今芽夢さんと同１年の濱田沙也華さんが最優秀賞に輝きました。

スピーチ部門の最高賞を受賞した神山さんは、昨年８月に本学の提携校である忠清大学校での夏の研修旅行に参加し、そこでできた韓国人の友人とのエピソードを韓国語で披露しました。指定された台本にアドリブを加えて、発音や流暢さ、演技力などを競う一般スキット部門では、限られた準備期間の中、今さんと濱田さんの先輩後輩コンビが息のあった掛け合いで会場を盛り上げ、見事最高賞を獲得しました。

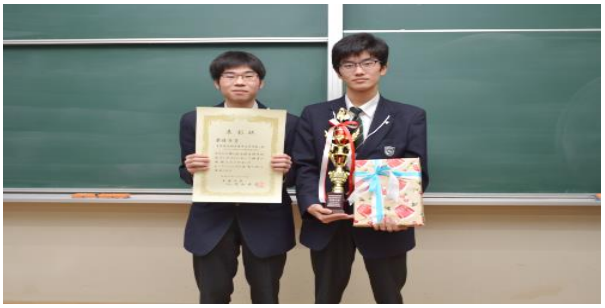
今回の大会では、青森大学で韓国語を学ぶ学生たちが日々練習を重ね、韓国そして世界に羽ばたく第一歩を踏み出してくれました。青森大学には、提携校である韓国の東国大学校慶州キャンパスや忠清大学校への短期留学など、韓国はもちろん、世界へと繋がるチャンスがたくさんあります。ぜひチャレンジしてみてください。

［第５回高校生科学研究コンテストが開催されました］

平成２９年度 第５回高校生科学研究コンテスト（主催：青森大学　共催：青森県教育委員会　後援：青森県高等学校文化連盟）が平成２９年１２月１７日（日）、本学５号館を会場に開催されました。

青森県内の高等学校９校から１１２名の生徒が参加し、サイエンス部門、テクノロジー部門合わせて２８チームが、A 会場・B 会場に分かれて口頭発表を行いました。

ソフトウェア情報学部、薬学部の教員による審査の結果、各賞は以下のとおりとなりました。



○最優秀賞
青森県立柏木農業高等学校
「米こうじによる稲わらの分解と腐植の活用」

○優秀賞
A 会場　青森県立青森南高等学校
「飛行機雲で調べた高層大気の湿度変化
～改良した方法を使用して～」
B 会場　青森県立五所川原高等学校
「キノコにまつわるエトセトラ」

○ブルーリボン賞
A 会場　青森県立八戸高等学校
「トンボの前縁脈にある突起構造について」
B 会場　青森県立弘前南高等学校
「 細胞性粘菌の走性について」

○光言賞
A 会場　青森山田高等学校
「青森を紹介するゲームを作る

～プログラムの中の科学～」
B 会場　青森県立三本木高等学校
「三本木夢と生命の森での樹木に関する研究」

また、今回からの試みとして、ソフトウェア情報学部と薬学部の学生３名が、大学での学びの成果を高校生と１３名の引率の先生方を前に発表しました。

最優秀賞の柏木農業高等学校をはじめとする各賞受賞チームの皆さん、おめでとうございます。

惜しくも受賞とはならなかったチームの皆さんも、素晴らしい発表でした。

これからも本コンテストが青森県の科学教育の充実に少しでも貢献できることを願っています。

第 5 回高校生科学研究コンテスト講評

高校生科学研究コンテスト実行委員会
委員長　堀端 孝俊

第 5 回高校生科学研究コンテスト（青森大学主催、青森県教育委員会共催、青森県高等学校文化連盟後援）は 12 月 17 日（日）に本学 5 号館を会場にして開催され、県内 9 つの高校から 112 名の生徒が参加しました。参加した各校は例年通り十分に準備をした上で発表に臨んでおり、日頃の研鑽の成果を競い合う大変充実した内容のコンテストになりました。今回はサイエンス部門とテクノロジー部門合わせて 28 件の応募があり、発表は昨年同様二つの会場を使うパラレルセッションで実施しました。A 会場では、主に物理、天文、数学、地学、工学分野の発表を行いソフトウェア情報学部の教員が審査を担当、B 会場では、主に生物、化学、農学、生活・食品分野の発表を薬学部の教員が審査しました。審査委員に選ばれた教員は、全員が事前に担当会場で発表予定のすべての発表要旨に目を通し、論点を整理した上で審査に臨みました。この講評とともにお届けする審査結果が、今後の皆さんの研究の指針として役立てていただけることを願っております。

両会場を通しての最優秀賞にはサイエンス部門から柏木農業高等学校の「米こうじによる稲わらの分解と腐植の活用」が選ばれました。今回の発表に対して審査員からは、昨年度の発表の問題点をしっかり見つめ直し研究をより一層前に進めた点が高く評価されました。プレゼンテーションにおいても、スライドのストーリーづくり、グラフの見やすさ、発声の大きさなど、素晴らしい発表でした。具体的な指摘としては、良いところとして、「キノコ菌の由来が明らかにされ、実験結果として信ぴょう性の高いものになっている」、「昨年度の問題点をしっかりと再検証しており研究成果として非常に熟成された結果だった」、「昨年から発展して肥料としての応用など進展が目覚ましい、データもよく

取られている」など、極めて高い評価を受けています。一方気になるところとしては「図４のハツカダイコンの葉の色が薄いことから窒素分が不足していると考えているが窒素以外の不足も考えられるのではないか、例えばミネラルの不足または土壌 pH の影響など」、「栽培試験で野菜の種類がそれぞれ違うのはなぜか、同じものを使った方が育ち具合を比較しやすいと思えるが」などの指摘がありました。今後のさらなる進展を期待しております。

優秀賞は各会場１件ずつの発表が選ばれました。A 会場ではサイエンス部門からの入賞で青森南高等学校の「飛行機雲で調べた高層大気の湿度変化 ～改良した方法を使用して～」が受賞しました。昨年は「飛行機雲の研究 II ～長さと形～」をテーマに発表し最優秀賞に輝きました。本年度も審査員の評価は極めて高く最優秀賞との差は僅差でした。審査員からは、詳細なデータを集めて定量的に分析し飛行機雲付近の湿度や天気の変化との関係について興味深い結果が得られている、一つ一つのデータをあらゆる角度から吟味し解析していることに感心した、などの評価を得ています。B 会場ではサイエンス部門から五所川原高等学校の「キノコにまつわるエトセトラ」が受賞しました。審査員からは、リンゴの剪定枝という青森ならではの視点からテーマを見つけ出し実用化も考えられる素晴らしいテーマだと思う、実用性の高いテーマのため今後の発展が期待されます、いい結果が出るように頑張って改良していってください、などの評価を得ました。

アイデアや着眼点の優れた研究に対し将来のさらなる発展に期待を込めて贈呈されるブルーリボン賞には、A 会場からは八戸高等学校の「トンボの前縁脈にある突起構造について」が選ばれました。トンボの前縁脈にある突起構造という見逃しやすい部分について関心を持ち突起構造を持ったものと持たないものの模型を作って実験を行ったこと、研究動機でバイオミミクリーに着目し研究に取り組んでいることに感心した、また研究目的も明確、などの評価を受けました。B 会場では、サイエンス部門から弘前南高等学校の「細胞性粘菌の走性について」が入賞しました。キイロタマホコリカビの餌を大腸菌以外または大腸菌の成分を分離して試してみると新しいことがわかるかもしれない、昨年度にくらべ非常に緻密な実験・観察がなされており研究としての基盤ができつつあると思われる、などの評価を得ました。

表現力豊かで説得力のあるプレゼンテーションを行った研究に対して贈呈される光言賞には、A 会場ではテクノロジー部門から青森山田高等学校の「青森を紹介するゲームを作る ～プログラムの中の科学～」が受賞しました。審査員からは、単にゲームを作成したというのではなく、それらが青森を紹介するという目的に沿ったものであるという点がよい、動きのある画像を使って上手にプレゼンできている、などの評価を受けました。B 会場では、サイエンス部門から三本木高等学校の「三本木夢と生命の森での樹木に関する研究」が入賞しました。データを多様な統計処理に基づいて考察されており信頼性が高い、スライドが分かりやすいよう工夫されておりプレゼンテーション全体として大変良かった、などの評価を得ました。

今回受賞にはいたりませんでしたが、五所川原高等学校の「Radial rays 最良の霧箱」も高い評価を受けた発表でした。霧箱の製作に当たりいろいろな条件を設定し、実験を繰り返し最適なものを作ろうとしていることに感心した、モノ作りでは非常に大事なことだと思う、などの評価がありました。また、八戸東高等学校の「紙の落下運動の研究」も高い評価でした。紙が回転しながら落下するとい

う身の回りで偶然観察した現象について関心を持ち科学的に解明しようと実験に取り組んでいる、などの評価でした。

審査項目は、「テーマの独創性」、「調査・探求の方法」、「情報収集の努力度」、「研究の達成度」、「プレゼンテーション」の５項目について両会場合わせて９名の審査員で審査を行いました。採点結果は、審査員によるコメントと全体の中における自らの評価の位置づけが分かるように表現したレーダーチャートを添えています。審査結果は、記述欄を「よいところ」と「気になるところ」に分けてそれぞれに複数の審査委員からのコメントを箇条書きにして記載してあります。今回は、全体的にコメント量が多く、A4 用紙 1 枚には収まらない場合も少なくありませんでした。採点結果は、今後の研究の指針として役立てていただければ幸いです。コンテストに参加した生徒の皆さんには、さらなる高嶺を目指して研究に励んで頂きたいと思います。

毎回講評の最後に書いているのですが、研究は、そのテーマに対して先人は何を考え、何を目指し、どこまで明らかにし、何が未解決なのか、すなわちその分野の歴史と現状を知ることから始まります。そのことによって自らテーマを設定し、自らの力で探求し、周囲の人々に意見を求め、そして今まで誰も知り得なかった新たな知見に到達することが求められているのです。研究の内容をさらに深め、発表の練習を繰り返し、来年の新たな舞台で皆さんのさらに成長した姿を見せて頂けることを心から期待しています。

［第４回青森大学教育研究プロジェクト成果中間報告会］

平成２９年１２月２２日（金)、第４回青森大学教育研究プロジェクト成果中間報告会が開催されました。今年度の中間報告会は研究推進部門１１件及教育改革部門４件の全体で 15 件の発表が行われました。

青森大学の科研採択件数は大幅に伸びるなど、本学の研究レベルは確実に向上しています。青森大学教育研究プロジェクトは、このような本学の研究推進の原動力の一つとなっており、当該研究プロジェクトに採択された研究が、その後、科研費に採択されるケースがあるなど、本学の研究推進に貢献してきました。また、学生が参加している研究もあり、青森地域の課題に関連した研究や本学の教育の改善に資する研究が実施されるなど、本学の教育研究機関としての機能向上に重要な役割を担ってきました。

発表内容は以下の通りです。

「研究推進部門」

①「光学産業の形成・発展プロセスとそのメカニズム：北東北地域との比較研究」
沼田郷　総合経営学部教授

②「青森県における介護労働者の人員確保・労働環境の是正に関する実証研究」
宮川愛子　社会学部講師

③「後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較研究」
井沼道子　薬学部助教

④「加齢関連代謝疾患を予防する生理活性物質の探索」
大越絵実加　薬学部准教授

⑤「糖加水分解酵素阻害剤の効率的合成」
鈴木克彦　薬学部教授

⑥「ジハロアルコールと種々の求核剤との付加反応の検討」
中北敏賀　薬学部助教

⑦「機能性身体症候群（FSS）モデル動物の確立」
永倉透記　薬学部教授

⑧「アンギオテンシンⅡ受容体遮断薬（ARB）の使用状況と脳出血リスクに関する検討」
三浦裕也　薬学部教授

⑨「がんワクチン抗原としての GRP19 の有効性の検討」
水谷征法　薬学部助教

⑩「記憶機能制御に関する新規ノシセプチン結合タンパク質の解析」
三輪将也　薬学部助教

⑪「地域食品成分の生活習慣病予防効果の評価研究」
益見厚子　薬学部教授

「教育改革部門」

⑫「体験学習を通じた経験値を高めるための教育プログラムの開発」
佐々木豊志　総合経営学部教授

⑬「企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクトー活きた経営学の体得ー」
中村和彦　総合経営学部准教授

⑭「学生の主体性に合わせた地域貢献・学内活動の構築・支援、および学修活動との連携に関する研究」
櫛引素夫　社会学部教授

⑮「青森いきいき脳健康プロジェクト 2017（“高齢社会対応”青森大学のブランディング）」
大上哲也　薬学部教授

［冬季教職員研修会］

［青森県高等学校総合学科研究発表会］

≪クラブ活動関係≫

［準硬式野球部が東北地区春季リーグ戦優勝！］

平成２９年６月１８日（日）に行われたリーグ最終戦で、福島大学に４対３でサヨナラ勝ちし、３年ぶり２回目の優勝を果たしました！

みなさん、応援ありがとうございました。

櫻井監督は「2 連戦の初戦を落とし、2 連敗で 2 位転落の状況でした。序盤は劣勢でしたが、焦るな、慌てるな、とみんなで確認し、1 点取れば流れが必ず来ると信じて、選手たちは最後まで諦めませんでした。これがサヨナラ勝ちにつながったと思います。本当に、選手たちがよくやってくれました」と語りました。

［男子新体操部インカレ１６連覇！！］

第６９回全日本学生新体操選手権大会（平成２９年８月１５日～１７日・盛岡タカヤアリーナ）において、青森大学男子新体操部が団体優勝！！見事１６連覇を達成しました！！

前日の予選３位からの大逆転優勝！！

１６連覇がかかったプレッシャーの中でのノーミス演技は圧巻でした！！

３位の青森大学 NEO チームも素晴らしい演技でした！！

個人では永井直也君（４年）が種目別（リング・ロープ）で１位！！

保護者の皆様、関係者の皆様、たくさんのご声援ありがとうございました！！

［男子新体操部１６連覇表敬訪問］

平成２９年８月に行われました第６９回全日本学生新体操選手権大会で見事１６連覇を達成した男子新体操部団体メンバーが、青森県知事と青森市長を表敬訪問しました。

９月１１日（月）、三村知事を表敬訪問。

はじめに中田吉光監督より選手の紹介があり、三村知事は選手一人ひとりに労いの言葉と拍手を送りました。

三村知事は「今年の新技は？」と大きなジェスチャーで質問し、選手らは笑顔で答えました。

続いて９月１４日（木)、小野寺市長を表敬訪問。同じく中田監督より選手の紹介があり、宍戸副本部長の挨拶、中田監督の挨拶に続いて、選手一人ひとりが試合の感想、次の全日本に向けた抱負などを述べました。

小野寺市長は「監督はどのような人ですか？」と質問し、選手らは感謝のコメントを述べ、中田監督は笑顔で答えました。

次は１０月に行われる全日本新体操選手権大会で１３回目の優勝を目指します。

引き続き、青森大学男子新体操部へのご声援よろしくお願いします。

＜表敬訪問メンバー＞

宍戸聡純青森山田学園副本部長、中田吉光男子新体操部監督

植野洵（４年)、渡辺剣史郎（４年)、前田豊（４年)、前田春希（４年)、井藤亘（３年)、五十嵐涼介（１年）以上団体メンバー

［剣道部男子３年連続１４回目の全国大会出場！］

第６５回東北学生剣道優勝大会・第４３回東北女子学生剣道優勝大会

平成２９年９月１０日（日）塩釜ガス体育館

男子は予選リーグ C ブロック（青森大学・東北福祉大学・秋田大学・福島大学）を全勝で１位通過し、決勝トーナメント１回戦で強豪東北大学に４－１で勝利して、全国大会出場を決定づけた。準決勝では、一昨年決勝で敗れた仙台大学に２－１で勝利し、２年ぶりに決勝へ進出したが、宿敵東北学院大学に１－５で敗れ、またもや東北王座の夢は叶わなかった。

先鋒向谷地が全勝の大活躍を見せ、次鋒佐藤皓、三将佐藤崚の勝利等で前半のリードを保ちながら大将三上克に回せた事が今回の結果につながったが、決勝では先鋒勝利の後、次鋒、三将が先に１本取りながら逆転され敗れたことが最後まで響いた。１０月２９日に日本武道館で開催される全国大会ではしっかり戦い上位を目指したい。

女子は予選リーグＢブロック（青森大学・東北文教大学・東北大学）を全勝で１位通過し決勝トーナメント１回戦で東北福祉大学に３－０で勝利して準決勝に駒を進めた。準決勝では、大会２連覇を狙う強豪福島大学に１－１の本数差で惜敗し、決勝進出はならず、全国大会出場決定戦で、昨年準優勝の仙台大学に１－３で敗れ、２年連続出場決定戦で涙を呑む結果となった。福島大学戦での２本負けが響いたが、全員で有効打突１本を目指し、技術・精神力の強化をしていきたい。(戦評：剣道部監督足澤一成)

男子出場選手

武久　雄哉（ソフトウェア情報学部４年・東奥義塾高校出身）

三上　克弥（総合経営学部４年・五所川原第一高校出身）

向谷地史和（総合経営学部４年・三沢高校出身）

佐藤　皓一（社会学部３年・青森高校出身）

佐藤　崚平（総合経営学部３年・青森商業高校出身）
三上　正弥（総合経営学部２年・五所川原第一高校出身）
堀内　拓磨（総合経営学部２年・五所川原第一高校出身）
足澤　洸太（総合経営学部１年・五所川原第一高校出身）
阿部　峻大（薬学部１年・五所川原第一高校出身）

女子出場選手
山内　笑舞（総合経営学部３年・宮城県柴田高校出身）
武久　智咲（総合経営学部２年・八戸聖ウルスラ学院出身）
村上　日菜（薬学部２年・北海道栄高校出身）
三上　奈緒（ソフトウェア情報学部２年・青森商業高校出身）
伊勢　小夏（社会学部１年・秋田商業高校出身）
金　　京佳（社会学部１年・東北高校出身）

［全日本新体操選手権大会　個人、団体共に優勝いたしました！］

平成２９年１０月２７日（金）～２９日（日）千葉県のポートアリーナで行われた全日本新体操選手権大会において本学男子団体が優勝、個人では永井直也（総合経営４年）が総合優勝を果たしました。

団体は予選１６チーム中、トップで通過。決勝でも完璧な演技を披露し、他の追随を許さぬ強さで見事優勝を勝ち取り、大会４連覇を果たしました。

個人では２０１０年に全日本ジュニアチャンピオンに輝いてから、毎年期待されながらもあと一歩のところで優勝を逃していた永井が７年越しで総合優勝を果たしました。４年生として最後の大会での悲願の優勝達成に、最高の笑顔で表彰台の中央へ立ちました。なお、本学としては５年ぶりの個人総合優勝です。

また、安藤梨友（総合経営１年）が３位、佐久本歩夢（総合経営３年）が９位に入りました。

大会中は保護者やＯＢなど、たくさんの方々が会場に駆けつけてくださいました。

ご声援、誠にありがとうございました。

［男子新体操部全日本優勝報告表敬訪問］

平成２９年１１月２８日、青森大学男子新体操部が、第７０回全日本新体操選手権大会団体優勝並びに個人総合優勝の報告のため、青森県知事及び青森市長を表敬訪問しました。

１０月２７日・２８日に千葉ポートアリーナで開催された同大会で、団体は４連覇達成（通算１３回目）、個人総合は本学としては５年ぶりの優勝となりました。

三村知事は「全日本大学選手権に続いての嬉しい報告。本当に素晴らしい！おめでとう！」とお祝いのお言葉を送り、卒業を控えているメンバーには「何度も訪問してくれて嬉しかった。寂しくなるが、それぞれの道で頑張れ！」とエールを送りました。

小野寺市長は「全日本大学選手権優勝報告の際に“次は全日本で優勝してまた報告に来ます！”」と約束して見送ったことを覚えている。有言実行！おめでとうございます！」とお祝いのお言葉を送り、選手一人ひとりの手をしっかり握って見送ってくださいました。

三村知事、小野寺市長、両関係者の皆様、年末に向けたお忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。

表敬メンバーは次のとおりです。

青森山田学園副本部長：宍戸聡純

青森大学新体操部監督：中田吉光

【団体メンバー】

総合経営学部４年：植野　洵

総合経営学部４年：渡辺　剣史郎

総合経営学部４年：前田　豊

総合経営学部４年：前田　春希

総合経営学部３年：井藤　亘

総合経営学部１年：五十嵐　涼介

【個人総合】

総合経営学部４年：永井　直也

青森大学附属図書館

図書館――第２３回「読書感想文コンクール」――

2017 年 10 月 13 日に今年度の「読書感想文コンクール」の応募が締め切られた。全学から総数 56 点の応募があった。その後、1 ケ月にわたる慎重かつ公平な審査の結果、下記の金賞 1 名、銀賞 1 名、銅賞 5 名の優秀作品が決定しました。

金賞：小柴圭太（総合経営学部 1 年）

書名：サイモン・シン『フェルマーの最終定理』（新潮社）

銀賞：佐々木可多奈（薬学部２年）

書名：園田康博編『三内丸山の世界』（山川出版社）他

銅賞：工藤ちひろ（総合経営学部 1 年）

書名：ウェイン・ダイヤー『自分のための人生』（三笠書房）

館田真純（ソフトウェア情報学部３年）

書名：五木寛之『自分という奇蹟』（php 研究所）

平尾悟（薬学部２年）

書名：鎌田考一『白神山地を守るために』（新潮文庫）

舟橋志奈（薬学部２年）
書名：佐藤洋一郎『<三内丸山遺跡>植物の世界』裳華房
山内桃子（薬学部２年）
書名：太宰治『人間失格』（新潮社）

なお、12 月 13 日に第７会議室において、上記の優秀作品の表彰式が行われました。

国際教育センター

[青大祭で地域の皆さんと留学生が交流]

9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）の二日間、青大祭が行われ、留学生も参加しました。
留学生の母国で人気の料理を提供し、ご来場いただいた皆さんにも大変好評で、売り切れたブースも出たほどでした。また、母国の文化についてのパネル展示など趣向を凝らした内容となりました。ご来場いただいた皆さんにも興味を持っていただいたようでした。

[台湾実践大学の皆さんと留学生との交流]

１１月２７日と２８日の２日間、本学と学術交流協定を結んでいる台湾の実践大学の皆さん（学生 16 名、教員 2 名）が来学し、本学の留学生・学生と交流しました。

≪１日目≫
・ウェルカムセレモニー
・日本語一切なしのグループトーク
・和食調理体験
・異文化交流会
・新体操部見学
・ウェルカムパーティー

≪２日目≫
・県庁観光戦略局表敬
・青森市内観光
・クロージングセレモニー

実践大学の皆さんはフレンドリーで留学生・学生ともすぐに打ち解けた様子。留学生・学生たちは慣れない英語と身振り手振りを駆使してコミュニケーションを図ろうと頑張っていました。コーディネート担当として参加した留学生・学生にとって、この２日間は大変濃厚で貴重な経験ができたと思います。クロージングセレモニーの際の涙がそれを物語っていました。実践大学の皆さん、冬の青森はどうでしたか？またのお越しをお待ちしております!

（青森大学ホームページより引用）

[クリスマス交流会]

12 月 15 日に青森大学レストラン内にて、クリスマス交流会を開催しました。当日は、８０名以上の皆さまにご参加いただきました。留学生で総合政策学部四年の黄湘瑀さんと社会学部二年の森慎太郎さんの司会のもと、クリスマスケーキのデコレーション、ゲーム、ESS によるクリスマスソングの披露

など盛りだくさんの内容となりました。また、留学生が中心となって、台湾のルーローハンという料理も提供させていただきました。

今回のクリスマス交流会は、日頃お世話になっている皆様に感謝の気持ちを込めまして、留学生・学生がイベントの企画から準備、当時の運営を行いました。来年も開催する予定ですので、お時間ある方はぜひご参加ください。

[平成２９年度国際教育センターイベント]

今年１年、留学生が青森県内各地の皆さんと交流するイベントがたくさん行われました。
４月の新入生歓迎交流会から始まり、５月には三沢市にあるエドグレン高校での異文化理解交流を行いました。６月には田植え、７月は道の駅なみおかで地域貢献活動を行いました。１１月初めにはりんご園でりんご狩り、１２月は第九演奏会に留学生が参加するなど、青森県内の皆さんと交流を深めた１年となりました。

【平成２９年度 国際教育センター年間スケジュール】

・新入生歓迎会（4 月）
・異文化理解セミナー全 3 回（4 月）
・三沢米軍基地内エドグレン高校での異文化理解・語学研修会（5 月）
・田植え体験と板柳町ふるさとセンター見学（6 月）
・大学祭に向けてのランチミーティング（6 月）
・田んぼアート見学となみおか道の駅での地域貢献活動の見学（7 月）
・短期交換留学生修了式におけるお別れ会（7 月）
・大学祭ツアー歓迎会（10 月）
・りんご狩り（11 月）
・クリスマス交流会（12 月）
・試験お疲れさま会（2 月）

キャリア支援推進チーム

１．就職・進路状況

総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部４年生、薬学部６年生の就職・進路状況について、現在の進路内定率は５９．４％となっている。（平成２９年１２月８日時点）学部によって内定率に差はあるが、新卒の求人状況は依然好調であり、現在就職活動を継続している学生も少しずつ内定を獲得している。

また、公務員については、県職員を始め、市役所、町役場、県警等の内定を獲得している。さらに、

本学で初めて市立中学校の教諭（保健体育）の現役合格者が出ている。

２．就職活動準備本格化

平成３０年度卒の大学生の就職活動が、企業の広報解禁が３月１日、採用開始が６月１日となり、総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の３年生の就職活動に向けた準備が本格化している。３月１日から就職活動のスタートダッシュができるように、また、学生の希望する企業の内定獲得をより確実なものとするため、「就職活動実践演習」において、外部講師を招き、就職活動に必要なスキルを身につけている。

１０月６日、７日、１１月１０日、２４日には、グループディスカッションの方法を学んだ。自分の考えを述べるときにはＰＲＥＰ（結論・理由・事例・結論）で話すこと。一つの質問に対し、３つの事項で答える「魔法の３」などの話し方の手法の他、話の聞き方や姿勢について、与えられたテーマの分析など、より具体的な手法を学んだ。

はじめは自分の意見をうまく話せない学生や、消極的な姿も見られたが、テーマを３つ４つと取り組んでいくと、制限時間内に全員が意見を述べ、まとめることができるようになった。

グループディスカッションは、どのような意見をまとめるかも大事であるが、グループの中でそれぞれが役割を務め、お互いの意見を取り入れながら一つの意見にまとめていく過程も評価の対象とされることも学んだ。

今年度は、クループの評価者として教職員の他、就職活動を終えた４年生にも協力してもらっている。４年生は、自身の就職活動で培った経験を活かしながら３年生へアドバイスを行っている。

また、１０月２０日、２７日には、身だしなみ講座として洋服の青山と青森県ヘアアーチスト専門学校より講師を招き、スーツの着こなしやヘア、メイクについて学んだ。身だしなみは、社会人としても必要な知識や技術であり、自分で整えることができるよう実践的な授業とした。

「就職活動実践演習」における外部講師による授業は、２月まで予定され、今後は自己分析や面接試験対策などを予定している。

薬学部５年生についても、就職活動は３月１日解禁であるが、実務実習があるため、本学的な就職活動は４月に入ってからとなる。就職活動の準備の一つとして、平成２９年１２月１４日（木)、薬学部５年生向け就職ガイダンスを開催し、薬学部の学生においても、早い段階でしっかり業界研究を行い、業界や企業を知った上で、国家試験の前の就職活動を行うことの大切さを学んだ。また、履歴書やエントリーシートの書き方、書くポイントについての演習も行った。

３．業界研究

今年度の業界研究は、昨年度よりも早く、複数の企業を招いて実施をしている。昨年度までの業界研究は、記念ホールで一斉に話を聞くスタイルとしていたが、今年度は、１社１教室を会場とし、学生が希望する業界に伺うスタイルとした。

平成２９年１１月１８日（土）に１回目、１２月９日（土）に２回目を実施し、それぞれ５社ずつ来学し、学生はその中から４社ずつ選んだ。リクルートスーツ姿の学生は、メモをとりながら業界の話を伺い、進路の参考としていた。

今後は、平成３０年１月２１日（日）、２月７日（水）に学内外で業界研究を行い、最後に２月２８日（水）合同就職セミナーを開催し、就職活動が本格的に始まっていくことになる。

地域貢献センター

【地域合同防災訓練実施】

７月８日（土）、青森大学×幸畑団地地区まちづくり協議会の合同防災訓練を本学第二体育館で実施しました。学生、教職員、幸畑団地の皆さん約 50 名が参加し、本学が連携協定を結んでいる青森県防災士会の防災士の方を講師として訓練を行いました。「避難所運営ゲーム（注）」や「AED・応急処置訓練」、「炊き出し訓練」の３つの訓練が実施され、直前に九州地方の豪雨災害があったことから、参

加者は真剣に取り組んでいました。

※注　ボードゲームのような道具を使用し、複数人で協力して避難所を運営する方法（避難者の居住空間、支援物資、炊き出し、ペットなどの問題解決を考える）をゲーム形式で学ぶもの。また、訓練の途中には衆議院議員の津島淳先生が視察に訪れ、熱心に見学されていました。

青森大学＆幸畑団地地区まちづくり協議会

「地域合同防災訓練」を実施します！

青森市との「災害時における避難所等施設としての使用に関する協定」に基づき、青森大学第二体育館（正徳館）が災害時には避難所として運用されることになっています。このことから、青森大学と幸畑団地地区の住民とで、防災訓練を通じて災害時における対応についての知識と技能を習得し、地域と連携することによる地域防災力の向上を目的として実施いたします。

実施日：平成 29 年 7 月 8 日（土）

時間：受付　9：00　／　実施　9：３０～13：30

場所：青森大学第二体育館（正徳館）※マックスバリュ幸畑店向かい

参加対象：幸畑団地にお住まいの方（または、店舗、企業などの方）
青森大学に所属する学生または教職員

主催：青森大学・幸畑団地地区まちづくり協議会

共催：NPO 法人青森県防災士会

協力：マックスバリュ東北(株)幸畑店
幸畑ヒルズ・イノベーション

内容：①避難所運営ゲーム（HUG：ハグ）
※ボードゲームのような道具を使用し、複数人で協力して避難所を運営する方法（避難者の居住空間、支援物資、炊き出し、ペットなどの問題解決を考える）をゲーム形式で学ぶ。
②AED・応急措置訓練
③炊き出し訓練（※炊き出しは、１２：００以降に行います。）

その他：防災グッズの展示

■《重要》訓練に参加される方へ■

1.動きやすい服装（ジャージ等）でお越しください。
2.内履きズック（スリッパ不可）をご持参ください。

■お問い合わせ：幸畑団地地区まちづくり協議会（張山）090-2020-0977 または、青森大学（阿部）017-738-2001

【平成 29 年 7 月 24 日掲載】「道の駅」連携で活動

青森大学の社会学部生が平成 29 年度、県内の二つの「道の駅」を舞台にした学外活動に取り組んでいます。本学と「道の駅いまべつ」の連携協定に基づく「連携企画型活動」には、櫛引ゼミの３、４年生２人が従事しています。今別町内でフィールド調査を重ねているほか、7 月 21 日には青森市の青森河川国道事務所を訪れ、連携活動を支援している調査第二課の担当の方から、事務所の役割や、支援の意義についてお話をうかがいました。

一方、本学と全国「道の駅」連絡会の連携協定に基づく「就労体験型活動」には、社会学部の 2 年生が従事します。同じく 7 月 21 日、活動先となる青森市の「道の駅なみおか　アップルヒル」を訪れて、8 月に予定しているインターンシップの内容について意見交換し、Facebook を活用した情報発信と反応の分析を行うことを申し合わせました。

【平成 29 年 8 月 25 日掲載】「道の駅なみおか」で情報発信インターンシップ

青森大学の社会学部の 2 年生 1 名が 8 月 4 日から 23 日にかけて、青森市浪岡の「道の駅なみおかアップルヒル」でインターンシップを行いました。Facebook を通じて、地元の観光スポットや道の駅のイベントを紹介し、その成果の最終報告会を 8 月 24 日、同道の駅で開きました。

青森大学は全国「道の駅」連絡会と 2015 年に連携協定を結び、「勤労体験型」の連携活動を実施しています。「道の駅なみおか」でのインターンシップは 3 年連続となります。

インターンシップ生は、自転車で近隣の「中世の館」梵珠山をめぐって魅力を紹介するリポートを書いたり、浪岡八幡宮で開かれた「泣き相撲大会」の様子を報告したりして、期間中に 16 本の記事を投稿しました。

最終報告会には佐藤文一駅長、青森大学の沼田郷地域貢献センター長らが出席しました。期間中、ページ情報の到達件数が増加したほか、オンラインでの通販も前年同期の 1 件から 5 件に増加するなど、情報発信に一定の成果があったことが報告されました。

このインターンシップ生は「地元の方や観光客など多くの人に親切にしていただき、また、共感できるさまざまなアドバイスを頂戴するなど、大変貴重な体験をしました」と感想を語っていました。インターンシップ生の投稿は、下記の「道の駅なみおか」の Facebook ページでご覧になれます。

https://www.facebook.com/%E9%81%93%E3%81%AE%E9%A7%85%E3%81%AA%E3%81%BF%E3%81%8A%E3%81%8B-%E3%82%A2%E3%83%83%E3%83%97%E3%83%AB%E3%83%92%E3%83%AB-244447002596375/?fref=ts

【平成 29 年 10 月 27 日掲載】幸畑団地の現状めぐりワークショップ

青森大学地域貢献センターと社会学部・櫛引研究室、幸畑団地地区まちづくり協議会主催の「幸畑団地の居住動向に関するワークショップ」が 10 月 26 日、青森大学 5 号館のアクティブ・ラーニング教室で開かれ、学生 20 人余りと学外からの参加者 13 人が、現状に理解を深めながら意見交換しました。

青森大学は平成 25 年度、幸畑地区を対象として、教育・研究・地域貢献活動を一体的に展開する「幸畑プロジェクト」を開始しました。今回のワークショップは、その取り組みの一環で、幸畑団地地区まちづくり協議会・空き家ワーキンググループの活動も兼ねています。学生のほか、青森県庁職員、青森市役所職員、まちづくり協議会会員などが参加しました。

櫛引素夫教授が担当する「地域社会学Ⅱ」の授業枠を使い、同教授が 10 月 28 日の東北地理学会・秋季学術大会向けに作成した発表資料を解説した後、参加者らが意見を述べました。

幸畑団地は近年、高齢化や人口減少が市全体を上回るペースで進みながらも、新築の住宅が増加しており、特に子育て世代の流入が確認されています。櫛引教授は、平成 28 年に幸畑団地地区まちづくり協議会と幸畑阿部野町会の協力で実施した調査のデータや、不動産会社への聞き取り調査の結果などをまとめ、「地価の安さが流入や住宅新築の最大要因だが、幸畑団地の出身者が戻ってきている例も少なくない。人口減少社会に耐えられる、新たなコミュニティづくりが大切」と指摘しました。参加者からは「一戸建てだけでなく、県営住宅も対象にした調査が必要」「雪対策のモデル地区として幸畑を盛り上げていけないか」といった意見が出ました。

【平成 29 年 11 月 14 日掲載】東北町森林組合との連携事業

１１月４、５日に開催された東北町「生き活き産業文化まつり」に総合経営学部の沼田ゼミの学生が参加してまいりました。本イベントへの参加は、東北町森林組合との連携により昨年から行われているものです。学生は燻製や木工制作体験などのお手伝いをしてまいりました。

【平成 29 年 12 月 21 日掲載】

青森北高校生と青森大学１年生が「かかしトーク」

平成 29 年 4 月に連携協定を結んだ青森県立青森北高校生と青森大学生の交流企画「かかしトーク」が 12 月 18 日、青森北高校で開かれ、文化祭を通じた交流や数学の学びを話題に、互いの学校生活に理解を深めました。

両校は、青森北高校がある油川地区の地域活動に対する青森大学の参画、青森大学の教員による青森北高校での専門的授業の実施などを目指し、連携協定を締結した。油川地区を中心に毎年、開かれているイベント「かかしロード２８０」に、青森大学生が今年初めて「かかし」2 体を出展したことから、作成に関わった「キャリア特別実習」の履修者らと青森北高校生が親睦を深めようと、初の「かかしトーク」が企画された。青森北高校からは生徒会長の石岡ほのかさんら 12 人、青森大学からは、ソフトウェア情報学部１年の天内葉月さんと井熊翔君、松田侑樹君、社会学部１年の泉田瑞貴君の４人が参加しました。

天内さんと泉田君は、「青大らしさ」を意識した「ねぶた跳人」かかしと、青森大学のマスコット「あおりん」のかかし作りの苦労や、運動部・サークル活動のＰＲ用に「レンタルかかし」を製作中であることなどを紹介しました。また、井熊君と松田君は、高校生向けの全国的な数学コンクール「ＭＡＴＨコン」への参加呼びかけと、数学を学ぶことの意義や楽しさについてプレゼンテーションを行いました。

石岡会長らからは「かかしを貸し出す仕組みは、北高校でも採り入れられそう」「北高校の文化祭で、青森大学のかかし展示を検討できるかも」「一緒にかかしを作れるのでは」といった意見が出ました。また、数学に関するプレゼンテーションは、京都大数理解析研究所の望月新一教授が証明したとされ話題を呼んでいる「ＡＢＣ予想」や、奨学金返済プランに関する幅広い内容を含んでいたこともあって、北高校生たちは興味深そうに聴き入っていました。

学習支援センター

学習支援センターでは、5月に開いた運営委員会で従来の事業を5事業に取りまとめて確定し、センター員が分担して活動に取り組んでいる。センター員一人ひとりは、「学生中心の大学」の機能の充実に関わる諸活動に携わっている。主に学生の支援や教学IR活動を、教務委員会、学生委員会、FD委員会、キャリア支援チーム・就職課等の学内他組織との連携しながら、進めている。

A. 意欲ある学生向け支援（学生参画の推進、学習環境の整備など）
B. 課題を抱えた学生向け支援（学習（学生）相談のしくみ整備、学習支援など）
C. IR（学内の教学に関する情報収集・分析など）
D. 学内外への広報（センター活動の学内周知、学外への発信など）
E. 活動の効率化（情報化の推進など）

［意欲ある学生向け支援］

(1) 公務員・金融系志望者対象ミニセミナー（12 月 20 日、集いのスペース 622・642）

キャリア支援チーム・就職課と連携し、二つのミニセミナーを同時開催した。

622 では青森市役所より人事担当の方をお招きし、市役所の概要や求める人材等についてお話いただいた。総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部の 3 年生を中心に 12 名が参加した。

また、642 では株式会社ディスコの方をお招きし、金融業界とくに銀行の業務内容や求める人材像などについてお話いただいた。こちらには、総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部の 3 年生を中心とした 16 名が参加した。

(2) 学生による学修環境改善に向けた活動（12 月 20 日、集いのスペース 633）

第 1 回「集まれ！！青大生！！」と銘打ち、学内の「居場所」をテーマとしたワークショップを実施した。四つの学部より合わせて 19 名の学生が参加した。また、教員 6 名と企画・準備を担った教務・学生課を中心とした事務職員 5 名が参加した。

趣旨説明の後、授業時間外学修の環境とより一般的な学内環境改善の二つのテーマ、合わせて 6 グループに分かれ課題や改善のためのアイデアを出し合った。続けて、他グループの意見を互いに参考にしながら、最後に発表を行った。

今後、今回出された意見を整理し、学生の協力を得ながら実現に向けた作業を進める計画である。

［課題を抱えた学生向け支援］

(1) 学習相談窓口

これまでと同様、学生委員会と連携した「学生カウンセリング」、「障がい学生支援相談窓口」と、「センター員窓口」の 3 通りに分けて、7 月以降合わせて 34 回窓口を開設した。「センター員窓口」には教員と職員が分担して対応し、学修（卒業研究の進め方等）と学生生活（転学部、部活動、学内での人間関係など）の両方で、合わせて 7 件の利用があった。

［IR］

(1) IR 推進室の強化

センター長が指名した 6 名の教職員が加わり、10 名で活動することとなった。

(2) 平成 29 年度「新入生調査」の実施

平成 29 年度入学生全員を対象に、6 月 9 日から 7 月 31 日にかけて調査を実施した。この調査で、①カリキュラム・ポリシーに照らした教育成果の把握と、②アドミッション・ポリシーに照らした学生の状況把握を目的としたもので、206 名（64.8%）の回答が寄せられた。この調査を分析した結果を、8 月に全教職員に配信した。

(3) 平成 29 年度前期「学修時間・学修行動調査」の実施

教務委員会と連携し、9 月 27 日から 10 月 18 日にかけて、全学部全学年を対象とした悉皆調査を実施した。760 名（71.6%）の回答が得られた。分析結果を 12 月に全教職員に配信するとともに、大学 Web ページに掲載した。さらに、回答の中から、学修環境をより良くするための意見やアイデアを取り出し、部長会で報告した。

本調査は、平成 25 年度前期より実施し、その後、年に 2 回（前期、後期）ずつ実施してきたものである。前回までは 4 学部の 1～3 年生を対象とした抽出調査であったが、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに対する実態把握を強化するため、今回から全学部全学年を対象とした悉皆形式に切り替えた。

なお、後期の調査を平成 30 年 1 月に実施する予定である。

(4) ジェネリックスキル修得状況の調査、分析

学内の複数の組織（教学改革タスクフォース、教務委員会、キャリア支援チーム・就職課）と連携して、株式会社河合塾と株式会社リアセックが共同開発した PROG 試験を、全学部 1 年生と 3 年生向けに今年度より実施した。この試験を導入した主な目的は、(3)と同様、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに対する実態を把握することである。

PROG では、マークシート形式の試験を行った後、受験者一人ひとりに自身の修得状況をまとめた冊子を配布し、これを用いた解説会が行われる。1 年生は、6 月 26 日に試験を行い、7 月 14 日に解説会を実施した。また、3 年生は 2 回に分けて試験・解説会を実施した。薬学部 3 年生は 9 月 15 日に試験を実施し、11 月 13 日に解説会を行った。総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部 3 年生は、10 月 13 日に試験を実施し、12 月 1 日に解説会を行った。

現在、全受験者のデータの分析を進めている。

［学内外への広報］

(1) 学生への周知方法の改善

センターの事務を担当する教務・学生課により、学習相談窓口の周知を内容とした看板が設置された。また、センターの活動概要を記した掲示の改善が行われた。

青森大学オープンカレッジ

[青森大学オープンカレッジ創立40周年特別企画 － みちのく散歩みち －]

オープンカレッジは創立４０周年を記念して１０月２６日、「特別企画・みちのく散歩みち」を実施、黒石市の中野もみじ山と青荷温泉を訪ねました。当初２３日を予定していたが、台風の影響で延期となり、この日に実施。マイクロバス１台に２５人参加予定でしたが、その影響で１9人の参加となりました。

この日は、青森から約１時間２０分かけて、紅葉真っ盛りの黒石市の中野もみじ山に到着。秋晴れの爽やかな一日となり周辺を散策、紅葉狩りを堪能しました。その後、バスは秘境・青荷温泉と進み、湯煙の情緒あるランプの宿に着きました。お昼は豪華な岩魚や山菜たっぷりの定食に舌鼓。参加者はのんびりと温泉（ひば風呂）に浸り、心安らいでいました。（写真～紅葉真っ盛りの中野もみじ山にて、橋のたもとから美しい紅葉を写真に納める受講生、青荷温泉で名物の岩魚定食を味わう）

[青森大学オープンカレッジ「ジュニア夢カレッジ2017」－ 幸畑小学校 －]

Ⅰ.「みんなのうた」

今年度オープンカレッジの新企画である「ジュニア夢カレッジ」Ⅰ（みんなのうた）が１１月２０

日、幸畑小学校で行われました。これは、将来を担う子どもたちにプロの魅力を伝える本学の出前授業です。

この日の講師は、白岩貢本学ソフトウェア情報学部准教授。大学では音楽の授業を担当しているほか、バリトンとして全国各地でオペラやコンサートに出演し、活躍をしています。幸畑小学校体育館には５年生と６年生あわせて９６人の児童が集合。

まず、白岩准教授は立ち方や発声法を指導。続いて「ありがとうの花」「大切なもの」を児童が演奏するピアノにあわせ、課題曲をレッスン。児童らの伸び伸びとした声が会場に響きました。

このあと白岩准教授は「つばさをください」、オペラ椿姫から「乾杯の歌」を独唱し、プロの歌声に感動した児童らは盛んに拍手を送っていました。

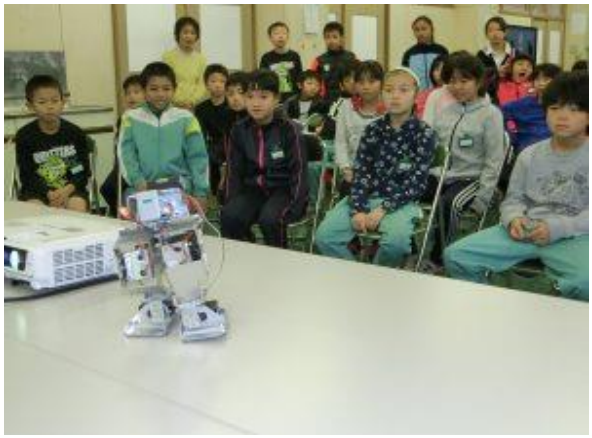
最後にまた「ありがとうの花」を全員で合唱し、実り多い一日となりました。

Ⅱ.「ロボットのはなし」

オープンカレッジ「ジュニア夢カレッジ」Ⅱ（ロボットのはなし）が１１月２１日、幸畑小学校会議室で行われました。昨日に続く第２弾で、将来を担う子どもたちにプロの魅力を伝える本学の出前授業。講師は、矢萩正人オープンカレッジ所長・教授が務め、同校４年生４５人に分かりやすくロボットの歴史や製作を説明しました。

冒頭「ロボットを知っている人、どこかで見たことがある人」と問いかけると、児童たちは元気いっぱいに挙手して答えていた。ロボットが迷路を走る経路を当てるコーナーでは、積極的に正解を導いていました。また、研究室で実際製作した小型ロボットを操作すると、興味津々の児童たちは「かわいい！」と目を輝かして見て喜んでいました。

児童たちは「走ることができるロボットや色々な種類を学んだ。ロボットが人の仕事や生活に役立つことはすばらしい。もっと知りたい」と感想を述べていました。



［平成29年度青森大学オープンカレッジ市民大学講座最終講と修了式］

市民大学講座第２０講と修了式が１２月１日、本学６２２教室で受講生４０人が出席して行われました。最終講となったこの日は、講師に井上隆本学総合経営学部教授が当たり、「小売業の新潮流：買物弱者支援の手段としての移動販売車―有効性と継続性―」のテーマで講義。

この中で、井上教授は買い物弱者と言われる高齢者への行政及び民間の移動販売車の事例を挙げ、現状と課題を語った。本県の深浦町や生協の取り組みの成果を挙げ、今後とも継続可能な社会的機能や機動性による社会貢献を熱望し結びとしました。

その後、平成２９年度市民大学講座修了式が行われ、出席者全員に矢萩正人所長から修了証書が授与されました。

また、皆勤賞授与（１０名）に続き、本年オープンカレッジ創立４０周年に当たり、本講座に１０年以上受講された９名の方に感謝状と記念品が贈られました。

（写真左：石塚明子さんには２４年間受講され代表して感謝状が贈られました。写真右：最終講義の様子）

総　合　経　営　学　部

【著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など】 平成 29 年 7 月～12 月

岩淵　護

9 月　「国内におけるモノづくりから捉えたリンケージ・バリュという事象－戦略のプロセスのフレームワークより捉えた青森クリスタルバレイ構想の今」『工業経営研究学会第 32 回全国大会　予稿集』工業経営研究学会・統一論題報告，9-14 頁.

11 月「スリランカの産業復興と日系企業の貢献－現地経営とリンケージ・フレームワークに関連させて」『研究紀要』青森大学学術研究会，第 40 巻－第 2 号，1-28 頁.

井上　隆

9 月 30 日　NPO 法人ひろだいリサーチ編著『移動販売車による買物弱者支援の動向調査』分担執筆、第 1 章「買物弱者支援手段としての移動販売車－有用性と継続可能性－」pp. 1－21,
(公益財団)みちのく･ふるさと貢献基金, 平成 28 年度 教育･福祉･環境助成報告

松本 大吾

7 月　（共著）堀籠崇・松本大吾「東北 6 県（青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県）に立地する病院の、外国人患者の受け入れに関するアンケート調査結果の概況」『青森大学学術研究会紀要』第 40 巻第 1 号,pp.141-154,

【学会報告、学会活動など】 平成 29 年 7 月～12 月

岩淵　護

6 月　アジア市場経済学会　東部部会理事に再選

9 月　アジア市場経済学会　研究委員会委員長に就任

「国内におけるモノづくりから捉えたリンケージ・バリュという事象－戦略プロセスフレームワークより捉えた青森クリスタルバレイ構想の今」工業経営研究学会第 32 回全国大会統一論題報告，2017 年 9 月（愛知工業大学）

11 月「スリランカの持続的成長から捉えたリンケージ・フレームワーク－東南・南アジアにおけるモノづくりネットワークより捉えたリンケージ・バリュという事象」アジア市場経済学会東西合同部会研究報告会，2017 年 11 月（専修大学）

沼田　郷

9 月 9 日　中道一心、沼田郷（共同報告）アジア経営学会（於：東北大学）
報告テーマ：「東アジアにおける光学産業の成長と連鎖」

≪総合経営学部教務委員会の取り組み≫

【総合経営学部の PBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）の取組事例】

総合経営学部では、前身の経営学部の頃から様々な科目でアクティブ・ラーニングを取り入れている。なかでも平成 27 年度に本格的にスタートした専門科目「プロジェクト演習」は、問題解決型

アクティブ・ラーニングとしての PBL 形式による授業運営を行い、ビジネスプランコンテストをはじめ様々なコンテストやプロジェクトで成果を残してきた。

今期（2017 年 7 月～12 月期）の PBL としての学外コンテストへの挑戦は、ゼミナールや課外活動として以下の 2 チームが挑戦し、入賞することができた。

１.「大学生によるビジネスアイデアコンテスト」優秀賞受賞！

10 月 24 日(火)、「大学生によるビジネスアイデアコンテスト」（主催：青森県発明協会、於：ホテル青森)が開催されました。

本コンテストは、青森県内の大学生が企業の保有している特許を活用して自らのアイデアでビジネスプランを作成し、アイデアの独創性、実現可能性、事業計画の具体性、地域（社会）貢献性、プレゼン力など、その総合力を競い合うコンテストである。本学からは「チーム青大」（飛鳥 2 年ゼミ)が出場し、見事優秀賞を受賞しました。

「チーム青大」は富士通㈱のＦＰコード技術を使用し、「データを埋め込んだシールを県産リンゴに貼って、生産者の直販力に貢献しよう」をテーマに約半年にわたり事業プランを作成してきました。当日同じ会場で開催された「あおもり産学官金連携Ｄａｙ2017」の商談会に出展している県内外の企業が見守る中、堂々の発表を行いました。

チーム青大メンバー：山内萌香、佐藤みなみ、佐藤由梨、久野竣哉

２.「第 2 回はこだて学生政策アイデアコンテスト」優秀政策アイデア賞受賞！

11 月 23 日（木)、北海道教育大学函館校で開催された「第 2 回はこだて学生政策アイデアコンテスト」（主催：一般社団法人はこだて地方創生研究会、於：北海道教育大学函館校）の本選において、総合経営学部 1 年生 4 名のチーム「なかよし 1 年目」（指導教員：松本大吾講師）の「経済・経営分析を通じた函館市の地域経済自立に向けた提案～若者による起業で函館の街を元気に～」が、優秀政策アイデア賞を受賞しました。

本コンテストは、学生達が北海道・東北地域の現状・課題について分析して解決策となるような政策アイデアを提案するもので、「なかよし 1 年目」のチームは経済センサスー活動調査結果などの統計データを用いて函館市の地域経済分析を行ったうえで、若者によるレストランカフェの起業を提案し

ました。

審査員からは厳しい意見もありましたが、いただいた意見は今後学生達が取り組むべき課題として参考になった様子で、学生達は来年の再チャレンジにやる気を見せていました。

なかよし１年目メンバー：西舘彩寧、工藤悠佳、横田祐美、三浦紫苑

（松本大吾　講師）

【台湾からの短期留学生の受け入れ】

平成 26 年度に開始した、修平科技大学（台湾）からの短期留学生の受け入れも 4 年目を迎え、今年度は 5 名の留学生が来日し、日々学習に取り組んでいる。1 年間という短い期間ではありますが、留学生にあっては、日本語能力は勿論のこと経営学の基礎的知識・技能、青森ひいては日本の文化についても身に付け、将来的には日台の懸け橋としての活躍が期待されています。

（松本大吾　講師）

【高大連携科目等履修生の受け入れ】

平成 29 年度より、総合経営学部では「高大連携科目等履修制度」を創設し、日商簿記 1 級取得に向けた科目に高校生を受け入れています。

本制度では、本学と連携協定を締結している高等学校に在籍している高校生が本学に開設・指定されている「高大連携授業科目」を履修し単位を取得した場合には、本学入学後に当該科目の取得単位を認定します。本制度により高校生が本学の学生と一緒に授業を受けることで、高校生の進路に対する意識や学習意欲を高める効果が期待されます。

今年度後期は青森商業高校の 3 年生 2 名が「原価計算（上級）」の授業を履修しており、本学学生たちと一緒に授業を受けています。

（松本大吾　講師）

【日本商工会議所簿記検定対策】

本学では日商簿記検定の 2 級、3 級を目指す学生に対しては簿記の授業に加え、試験対策として試験前の 1 ヵ月程度の期間にわたり演習形式の補講を行っています。補講に出席できない場合でも、受験生のレベルに合った過去問題を課題とし、不明点はその都度聞くというスタイルにより、部活やアルバイト等で忙しい学生に対しても対応しています。これにより、着実に合格者を輩出しています。

1 級を目指す学生に対しては、夏休みなどの長期休暇を利用し、基本問題の復習から本試験レベル

までの橋渡しとなるような授業形式の補講も行い、基礎力の強化につなげています。

（飛鳥由美子　講師）

【基本情報技術者試験』（主催：情報処理推進機構）】

10 月 15 日に行われた平成 29 年度秋期『基本情報技術者試験』において、3 年:経 27049 小板橋 唯さんが見事合格しました。本学部から、5 年ぶり 4 人目の合格者となります。

本試験は、情報産業界では以前から重要視されている国家試験であり、システムの設計・開発の構築およびＩＴを活用した戦略立案への参加を担える人材を想定した試験となっています。プログラマからシステムエンジニアへの登竜門とされ、就職活動にはたいへん有利な資格でもあります。

学生たちの真摯な取り組みの成果は、今回の結果および『ＩＴパスポート試験』や、その前身である『初級システムアドミニストレーター』の合格者 20 余名を加え、合計 30 名という合格実績に表れています。

今後も、さらに広く学生にチャレンジを呼びかけながら、学生自らが目標に向かって積極的な取り組めるよう、これまでの受験対策で得た多くの教訓・経験を活かし、指導に当たっていきたいと思います。

（石川祥三 教授）

【第 69 回全日本学生新体操選手権大会】

8 月 14～17 日、盛岡市タカヤ（アイス）アリーナにおいて上記大会が開催されました。

団体競技選手権において前人未到の 16 連覇を辛くも達成しました。

個人総合選手権においては、永井直也（経 4）が 2 位、安藤梨友（経１）が 3 位とメダルを獲得し、佐久本歩夢（経 3）が 7 位に入賞しました。

永井は、総合は逃したものの種目別選手権においてはリング・ロープ 2 種目を優勝しました。

（中田吉光　教授）

【第 70 回全日本新体操選手権大会】

10 月 26～29 日、千葉ポートアリーナにおいて上記大会が開催されました。

ジュニア・高校・大学・社会人の上位 16 チームによる日本の頂点を決める団体競技選手権において 4 年連続 13 回目の優勝を果たしました。

個人総合選手権では、永井直也（経 4）が悲願の優勝に輝き、安藤梨友（経 1）も 3 位に入賞しました。

（中田吉光　教授）

団体優勝

個人総合優勝　永井

【社会活動・地域貢献・講演など】　平成 29 年 7 月～12 月

赤坂 道俊

（談話・インタビュー）

8 月 10 日「今年度最低賃金 － 初の 700 円台に」アップルワイド（インタビュー）。NHK 総合。

8 月 11 日「青森県最低賃金 738 円-22 円増、上げ幅最大」『デーリー東北』朝刊。

8 月 11 日「本県最賃 22 円増 738 円 審議会答申-上げ幅 27 年ぶり高水準」『東奥日報』朝刊。

10 月 17 日「最賃アップというけれど － 2017 年衆院選 － 争点を歩く⑤」『朝日新聞』朝刊。

（社会活動）

7 月 4 日　平成 29 年度第 1 回度青森地方最低賃金審議会（会長）、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

7 月 12 日　平成 29 年度第 1 回青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森職業能力開発センター。

7 月 26 日　平成 29 年度第 1 回度青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 1 日　平成 29 年度第 2 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 4 日　平成 29 年度第 2 回度青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 7 日　平成 29 年度第 3 回度青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 9 日　平成 29 年度第 4 回青森地方産業別最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 10 日　平成 29 年度第 5 回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

8 月 10 日　平成 29 年度第 3 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

9 月 11 日　平成 29 年第 1 回青森県産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

9 月 13 日　平成 29 年度第 2 回青森県産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

9 月 13 日　平成 29 年度第 5 回青森県産業別最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

10 月 3 日　平成 29 年度青森地方最低賃金審議会青森県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 回会議室

10 月 4 日　平成 29 年度青森地方最低賃金審議会青森県各種商品小売業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 回会議室

10 月 11 日 平成 29 年度青森地方最低賃金審議会青森県自動車小売業最低賃金専門部会、
於：青森合同庁舎 4 回会議室
10 月 19 日 平成 29 年度第 6 回青森県産業別最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

飛鳥 由美子
9 月 17 日　平成 29 年度「パテント活用学生人財育成事業」企業訪問　（於：小山内農園）
10 月 24 日　平成 29 年度「パテント活用学生人財育成事業」
「大学生によるビジネスアイデアコンテスト」　（於：ホテル青森）
11 月 30 日　平成 29 年度「観光産業を担う中核人材育成講座」講義
「旅館・ホテルの経営にかかわる各種財務諸表の見方・読み方」（於：アスパム）

井上 隆
7 月 6 日　ＮＰＯ法人ひろだいリサーチ「 移動販売車動向調査」、ヒリング調査・現地調査(7/6～7/9)
⇒(株)とくし丸　本社（徳島市南末広町）
⇒(株)セブンスター 営業企画部（愛媛県砥部町拾町）
7 月 28 日　青森市 総合都市交通対策協議会(第 1 回)、会長、青森市中央市民センター
8 月 8 日　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境・労働時間改善青森県協議会(第 7 回)、会長、青森県トラック会館
⇒関連記事：『青森県トラック協会報』NO. 486, 2017 年 9 月号, pp. 6-7
8 月 21 日　青森市中心市街地活性化協議会正副会長会議、副会長、青森商工会議所
8 月 22 日　青森市総合都市交通対策協議会宛、青森市民バス「浪岡線」事業計画変更に係わる「承認書」作成・送付
9 月 6 日　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査会(第 2 回)、委員、県庁南棟会議室
9 月 8 日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会(第 2 回)、委員長、ラ・プラス青い森
9 月 21 日　青森市総合都市交通対策協議会宛、青森市民バス「矢田・滝沢線」運行経路変更に係わる「意見書」作成・送付
9 月 27 日　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査会(第 3 回)、委員、県庁南棟会議室
9 月 29 日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会宛、むつ湾フェリー株式会社、青森県栽培漁業振興協会、21 あおもり産業総合支援センター、畜産協会、四法人への質問書作成・送付
10 月 30 日　青森市中心市街地活性化協議会正副会長会議、副会長、青森商工会議所
11 月 1 日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会（第 3 回）、委員長、青森県庁西棟会議室
11 月 6 日　青森市中心市街地活性化協議会運営委員会、副会長、青森商工会議所
11 月 8 日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会宛、四法人（県栽培漁業振興協会、21 あおもり産総合支援センター、畜産協会、むつ湾フェリー）平成 29 年度経営評価書、作成・送付
11 月 24 日　青森市 総合都市交通対策協議会(第 2 回)、会長、青森市福祉増進センター
11 月 27 日　青森河川国道事務所・青森県県土整備部、青森・南部地域道路ネットワーク検討会、委員
12 月 1 日　講演「小売業の新潮流：買物弱者支援手段としての移動販売車―有用性と継続可能性―」、青森大学オープン・カレッジ、622.
12 月 8 日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会（第 4 回）、委員長、青森県庁西棟会議室

12 月 21 日 ＮＰＯ法人ひろだいリサーチ 平成 29 年度調査研究事業 成果報告･合評会、
青森グリーンパレスホテル ミーティングルーム

12月26日 青森県知事宛、『平成29年度 青森県公社等経営評価委員会 評価結果等報告書』提出、
青森県庁知事室

⇒ 関連報道：12/26～27、ＴＶ(ＮＨＫ 他)および新聞(『東奥日報』他)各紙

佐々木 豊志

7 月 12～14 日 セブンイレブン記念財団：環境 NPO リーダー海外研修派遣の審査委員
審査業務と業務会議（東京都千代田区）

7 月 16～18 日 RQ 災害教育センターの業務、熊本県益城町東無田地区のコミュニティ再生の復興支援に伴う、地域現状調査及び RQ 九州の運営会議（熊本県益城町）

8 月 2 日 青森市内の高等教育機関がもたらす青森市における経済効果に関する共同研究担当者会議
（青森明の星短期大学）

8 月 7～18 日 くりこま高原自然学校の夏季期間の主催事業の指導（宮城県栗原市）

8 月 25 日 公益社団法人見本環境教育フォーラム主催「東京シニア大学講座」講師
（東京都新宿区）

8 月 31 日～9 月 2 日 「青森大学教育研究プロジェクト」フィールド調査。学生 3 名を引率
（宮城県栗原市・大崎市）

9 月 5 日 「プロジェクト演習」企業訪問。(株) 青森オフセット印刷、(協) 青森総合卸センター
学生 5 名引率（青森市内）

9 月 11～13 日 NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟の定例理事会及、「森のようちえん全国交流フォーラム」開催実行員会会議（神奈川県川崎市）

9 月 16～17 日 NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟主催「森のようちえん指導者養成講座」運営委員と講師（宮城県栗原市）

9 月 24 日 「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」フィールド調査、十和田市流鏑馬調査
学生 3 名引率（青森県十和田市）

10 月 3～5 日 環境省「みちのく潮風トレイル」業務構築のための検討会議及連絡会議
（青森県八戸市、岩手県宮古市）

10 月 15～17 日 環境省「みちのく潮風トレイル」業務構築のための検討会議及連絡会議
（岩手県大船渡市、宮城県南三陸町・名取市）

10 月 21～22 日 「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」フィールド調査、学生３名引率
（十和田市、三沢市、八戸市）

10 月 27～31 日 中国で開催する「第 4 回全国自然教育フォーラム」及「森の幼稚園指導者養成講座」講師（中国浙江省杭州市）

11 月 3～5 日 NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟主催「第 13 回森のようちえん全国交流フォーラム」運営員及講師。(東京都渋谷区)

11 月 13～15 日 環境省「みちのく潮風トレイル」業務構築のための連絡会議及ミニフォーラム開催委員（八戸市、岩手県田野畑村、宮古市）

12 月 2 日～3 日 NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟主催「森のようちえん指導者養成講

座」運営委員と講師（神奈川県川崎市）

12 月 18～20 日　環境省「みちのく潮風トレイル」業務構築のための連絡会議及ミニフォーラム開催委員（宮城県南三陸町・石巻市・名取市）

12 月 25 日　東北福祉大学ボランティアセンター主催「環境ボランティア論」集中講義講師（仙台市）

12 月 9 日　登米市公民館主催「第五回教育講演会」講演（宮城県登米市）

佐藤 静香

10 月 19 日　青森中央高校模擬授業「日本の労働市場ー『労働力調査』を読む」（青森中央高校）

中田 吉光

7 月 1 日　第 10 回青森県民スポーツ・レクリエーション祭オープニングセレモニーで部員とともにラジオ体操の説明及び模範演技を行う。

7 月 15 日　ＴＢＳ他ＪＮＮ系列全国ネット「音楽の日」の生放送出演。「音楽の力が日本を元気に」という趣旨の元、アーティスト（三浦大知）とのコラボした番組オリジナルの演技を行った。

7 月 16 日　ローズプリンセスバレエスクールの発表会がリンクモア平安閣市民ホールにおいて開催され、賛助出演を行った。(2016.7.17)

7 月 19 日　東北総合体育大会（新体操競技）が県立武道館で開催され審判長を務める。

7 月 24 日　東京都と青森を結ぶ「未来（あした）への道 1000Kmﾘﾚｰ2017」の開会イベントとしてラジオ体操の模範を行う。(小池都知事とテレビ対談等)

7 月 26 日　教員免許状更新講習を行う。(本学)

8 月 1 日　人間学を学ぶ月刊誌「致知」～閃き～にインタビューが掲載される。

8 月 1～5 日　一昨年からねぶた祭りの開催期間にあわせ開催した「ぶる～nebuta」をワ・ラッセイベントホールにおいて行った。青森の美しい春夏秋冬の情景と文化を映像と津軽弁で綴り、時に可憐に、そして猛々しくアクロバットなダンスを伝統楽器とともに体感していただいた。

9 月 11 日　全日本インカレ 16 連覇知事表敬訪問に行く。

9 月 14 日　同上市長表敬訪問に行く。

9 月 14～17 日　第 25 回全日本社会人新体操選手権大会・第 2 回全日本男子新体操クラブ選手権大会が岐阜県大垣市で行われ、上級審判員として運営にあたった。

9 月 22 日　「めざましテレビ・キラビト！」で特集される。

9 月 23 日　老人福祉施設はるかぜ演技会「第 8 回はるかぜ元気祭」が岩手県滝沢市「ビックルーフ」で開催され部員 20 名で演技を行ってきた。

9 月 24 日　マガジンハウスａｎａｎ（アンアン）「アスリートに夢中」のコーナーで特集を受ける。(10/25 発売 2075 号)

9 月 30 日　青森県立弘前実業高等学校百周年記念誌原稿を提出する。

10 月 1 日　「ＢＬＵＥフェスティバル」を開催。一部に親子体操・介護予防体操を行い、二部では演じによる集団演技、三部で TeamBLUE 演技会を行った。

10 月 5 日　スカイＡの取材を受ける。

10 月 6～8 日　第 35 回全日本ジュニア新体操選手権大会が千葉市で行われ、上級審判員として運営にあたった。

10 月 10 日　テレビ東京「昼めし旅～あなたのご飯見せてください！～」の取材を受ける。(10/30 放送)

10 月 14～15 日　平成 29 年度青森県中学校高等学校新体操選手権新人大会・平成 29 年度青森県ジュニア新体操選手権大会がマエダアリーナで行われ、審判長として運営を行った。

11 月 1 日　日本テレビ「news every」で全日本選手権の模様が特集される。

11 月 2 日　八戸市立白銀中学校・階上町立道仏中学校創立 70 周年記念行事として演技会を行った。

11 月 11 日　平成 29 年度新体操演技会（宮崎県小林市体操協会主催）から団体・個人選手 1 名招待を受け演技をしてきた。

11 月 14 日　エフエム岩手「モコの夜はこれから！」のコーナーでラジオ出演をする。

11 月 20 日　蛍ヶ丘幼稚園の保護者会講話を行った。

11 月 20 日　ＡＢＡ「われら青森賢民」のコーナーの取材を受ける。(12/5 放送予定)

11 月 28 日　全日本新体操選手権大会団体 4 年連続 13 回目の優勝並びに個人総合優勝報告のため知事・市長の表敬訪問を行う。

12 月 3 日　KITAKAMI アーティスティックスポーツフェスタ 2017（岩手県）に招待を受け団体・個人の演技を披露する。

12 月 11 日　日本テレビ「メレンゲの気持ち」のスタジオ収録。(Hey！Say！JUMP10 周年スペシャル企画としてメンバーの伊野尾君が新体操にチャレンジする。7 月から取材を開始し、約毎週放送され 12 月中に集大成として演技を行う)

12 月 18～19 日　フジテレビ正月番組企画「NO.1vsNO.1」に出演予定。

※「元気あっぷる体操」制作（2014.3～現在）

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとしてＮＨＫのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内 40 市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

9 月 2 日　保健大において「元気あっぷる体操」の指導を行う。
（リレーフォーライフ（ネットライフ生命））

12 月 5 日　青森市浜田ニュータウン町会集会所で「元気あっぷる体操」の指導を行う。
（青森市社会福祉協議会青森市ボランティアセンター）

沼田 郷

7 月 6 日　みちのく銀行　包括的連携協定締結式（於：本店）

7 月 10 日　ちいさな親切運動　平成 29 年度総会（於：青森銀行本店）

7 月 12 日　ひらない　まるごとブランド戦略会議（於：平内町役場）

7 月 19 日　三戸町連携協定締結式

8 月 28 日　青森市役所（プラットフォーム形成に関する打ち合わせ）

8 月 28 日　道の駅なみおか　インターンシップ終了報告会　（於：アップルヒル）

9 月 3 日　かかしロード２８０　オープニングセレモニー（於：浪岡）

9 月 13 日　柳町通り商店街　打ち合わせ

9 月 27 日　青森市社会資本整備評価委員会（於：青森市役所柳川庁舎）

9 月 28 日　ひらないまるごとブランド戦略会議
10 月 4 日　東北町森林組合　生き活き産業文化まつり　打合せ（於：東北町）
10 月 10 日　イノベーション・ネットワークあおもり（第４回タスクフォース）（於：アスパム）
10 月 11 日　第２回　津軽海峡ブランド認証委員会（於：はまなす会館）
10 月 17 日　ペットボトルキャップ回収　（82 ㌔）　途上国にポリオワクチンを！
10 月 18 日　青森市まちなかフィールドスタディー事業（打ち合わせ）　柳町通り商店街
10 月 23 日　平成 29 年度　青森地域産学連携懇談会（於：ホテル青森）
10 月 24 日　大学見学会　（青森県立木造高校）　模擬講義担当
10 月 24 日　青森県商工労働部　新産業創造課　タスクフォース（於：ホテル青森）
10 月 27 日　青森市内高等教育機関と高等学校との意見交換会（於：明の星短期大学）
10 月 30 日　RAB ラジオ収録　津軽海峡ブランド認証委員会 PR 活動（青森大農林水産祭）
11 月 5 日　東北町森林組合との連携事業　産業文化まつり（総合経営学部沼田ゼミ）
11 月 6 日　青森市フィールドスタディ助成事業　事業プレゼンテーション（於：青森商工会議所）
11 月 11 日　大農林水産祭　青函海峡ブランド認証委員会委員長として参加
11 月 17 日　青函ツインシティー推進協議会（於：函館）
11 月 21 日　平成 29 年度第２回　青森市・青森大学連携推進会議（於：青森市役所）
11 月 22 日　本学との連携協定に基づく事業　いきいき健康脳教室（於：三戸町）

松本 大吾
11 月 23 日　第 2 回はこだて学生政策アイデアコンテスト（於：北海道教育大学函館校）に指導教員として出席。出場チームは優秀政策アイデア賞を受賞。
12 月 14 日　平成 29 年度 青森県の商業教育における高大連携推進協議会に出席し、今年度から本学部で開始した「高大連携科目等履修制度」について報告。

渡部 あさみ
（教育活動）
10 月 23 日　中小企業論Ⅱの授業の一環でヤマモト食品株式会社訪問
11 月 17 日　人事労務管理論Ⅱの授業の一環で株式会社中三青森店を訪問
11 月 30 日　経営学演習の一環で株式会社工藤パンを訪問
（審議会への出席）
7 月 4 日　第一回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)
8 月 1 日　第二回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)
8 月 10 日　第三回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)
8 月 28 日　第四回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)
9 月 13 日　第五回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)
10 月 3 日　青森地方最低賃金審議会青森県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金専門部会への出席(公益委員)
10 月 11 日　青森地方最低賃金審議会青森県自動車小売業最低賃金専門部会への出席(公益委員)
10 月 19 日　第六回青森地方最低賃金審議会への出席(公益委員)

社　会　学　部

社会学科

平成２９年度は、全学の中長期計画の策定とともに社会学部の中長期計画及び学部長を中心として社会学部の将来のあり方に関して検討し、教授会など各先生のフィードバックをいただきながら、進めてきました。

重要な点は、学部として実施すべき事柄を鳥瞰できる計画が策定されたことです。勿論、計画が変更される部分もあると思いますが、社会学部が動こうとしている方向性が示されていることです。

その中で、重要な点は、下記の５点であると考えています。

１．　社会学コースの魅力・特性をゼミ主体で発信する
２．　公務員対策に力を入れる
３．　初年次教育をしっかりと行う
４．　授業の教育効果を検証し、学生の学修の向上を目指す
５．　司書資格の提供を平成 30 年度までとする
６．　校務などの効率化を積極的に進め、教員の負担を可能な限り減らして、教育・研究及び地域貢献などに充てられる十分な時間を確保する

昨年度は、社会学部のサイボウズを立ち上げ、教員間の連絡が効率的に行うためのプラットフォームとしたが、あまり効率的に動かすことはできなかった。しかし、今後の方向性を考えると、我々の活動を効率的にサポートするシステムが必要であると考えられます。サイボウズの終了もあり、新たなシステムを模索する必要があると思いますが、多くの教員は、担当している講義などの他に校務を抱えており、その仕事をこなすために多大な時間を割いているのが現状であると思います。そこで、書き込みをすることが二度手間にならないような新たなシステムを上手く利用したいと考えています。

社会学部には、地域貢献活動・全学のカリキュラム構築・留学生確保及び教育などの全学的な校務を担当している先生が多くいることから、限られた時間で有効な学部運営を展開する必要があります。この点に関しては、一部の教員に負担がかかり過ぎないように注意しながら、社会学部の活性化が進むよう努力していきたいと考えています。

学生募集には、入学定員を満たせなかった状況が続いていた時期があったが、ここ２年の学生募集結果は非常に好調で、本学部に人気が出ています。また、今年度は一般受験の志願者が増えている状況です。これは、１）本学部の先生が高校へ出向いて授業を行なっていること、２）教育の内部質保証の浸透効果が出ている、３）在学生が活躍している、などの要因があるのではないと考えています。この傾向を継続して行くためには、本学部の学生の活躍をサポートして行くことが重要であり、卒業生の就職と入学生のつながりをしっかりとつけて行くことが必要だと思います。

これまでも議論されてきたところではありますが、変化の激しい時代の中で、青森大学社会学部の青森地域における役割をしっかりと認識し、その役割にふさわしい学部・学科の名称を考えていくことは来年度に向けた課題であると考えています。　　（澁谷泰秀）

［社会学部の学生〈２つの「道の駅」〉で活動展開］

社会学部生が平成 29 年度、県内の二つの「道の駅」を舞台にした学外活動に取り組んでいます。

本学と「道の駅いまべつ」の連携協定に基づく「連携企画型活動」には、櫛引ゼミの３、４年生２

人が従事しています。今別町内でフィールド調査を重ねているほか、7 月 21 日には青森市の青森河川国道事務所を訪れ、連携活動を支援している調査第二課の担当の方から、事務所の役割や、支援の意義についてお話をうかがいました＝下の写真。

一方、本学と全国「道の駅」連絡会の連携協定に基づく「就労体験型活動」には、社会学部の 2 年生が従事しました。青森市の「道の駅なみおか　アップルヒル」で 3 週間にわたってインターンシップを体験、Facebook を活用した情報発信と反応の分析を行いました。（櫛引　素夫）

［幸畑団地の現況をめぐりワークショップ］

青森大学地域貢献センターと社会学部・櫛引研究室、幸畑団地地区まちづくり協議会主催の「幸畑団地の居住動向に関するワークショップ」が 10 月 26 日、青森大学 5 号館のアクティブ・ラーニング教室で開かれ、学生 20 人余りと学外からの参加者 13 人が、現状に理解を深めながら意見交換を行いました。

青森大学は平成 25 年度、幸畑地区を対象として、教育・研究・地域貢献活動を一体的に展開する「幸畑プロジェクト」を開始しました。

今回のワークショップは、その取り組みの一環で、幸畑団地地区まちづくり協議会・空き家ワーキンググループの活動も兼ねています。学生のほか、青森県庁職員、市役所職員、まちづくり協議会会員などが参加しました。

櫛引素夫教授が担当する「地域社会学Ⅱ」の授業枠を使い、同教授が 10 月 28 日の東北地理学会・秋季学術大会向けに作成した発表資料を解説した後、参加者らが意見を述べました。幸畑団地は近年、高齢化や人口減少が市全体を上回るペースで進みながらも、新築の住宅が増加しており、特に子育て世代の流入が確認されています。

櫛引教授は、平成 28 年に幸畑団地地区まちづくり協議会と幸畑阿部野町会の協力で実施した調査のデータや、不動産会社への聞き取り調査の結果などをまとめ、「地価の安さが流入や住宅新築の最大要因だが、幸畑団地の出身者が戻ってきている例も少なくありません。人口減少社会に耐えられる、新たなコミュニティづくりが大切」と指摘しました。

参加者からは「一戸建てだけでなく、県営住宅も対象にした調査が必要」「雪対策のモデル地区として幸畑を盛り上げていけないか」といった意見が出ました。（青森大学ホームページから）

「[公共図書館の満足度調査を大学祭で披露]

社会学部・司書養成課程の4年生がこの夏、ファシリティ・マネジメントの個別技術を採用して、青森市内の2つの公共図書館を対象に「利用者満足度評価」を実施。その結果を、9月30日・10月1日開催の青森大学祭で展示しました。

ファシリティ・マネジメントとは、「企業・団体等が、組織活動のために、施設とその環境を総合的に企画・管理・活用する経営活動」（「総解説 ファシリティマネジメント」）のこと。この場合、ファシリティとは「施設とその環境」の意味となる。「ある空間・場所を利用する人」のことが強く意識されたマネジメント手法といえます。

ファシリティ・マネジメントが、日本で公式に紹介されたのは1987年。当初は主に外資系企業で導入されていましたが、1987年以降、大企業を中心に日本企業でも導入され始め、青森県など、地方公共団体における導入事例も増えてきました。ただ、日本における事例の場合、不動産管理の域を出ていないケースも見受けられます。

このたびの司書養成課程4年生による「利用者満足度評価」は、公共図書館の品質評価として実施しました。「利用者の満足度が高いことが、品質評価の最も重要な要因」と考えてのことです。

「利用者満足度評価」は、ファシリティ・マネジメントの個別技術の一つである。ファシリティを「物的要素」「人的要素」「雰囲気（物的要素と人的要素が形成する）」の3要素に分類。さらに、「他図書館との連携」「立地」の2要素を加え、全5要素を評価項目としました。一定の調査方法・分析手法に基づき、評価をし、評価結果を分析しました。

「雰囲気」の評価には、SD法という方法を採用。2つの公共図書館それぞれの評価結果を、「プロファイル」と呼ばれる折れ線グラフ状のもので表しました。

「利用者満足度評価を終えて」として、学生たちは、以下の4点を含め、全6点の認識を示していることが分かりました。

①公共図書館におけるファシリティ（施設とその環境）の重要性を改めて認識した。
②公共図書館の魅力度を高めるために、ファシリティ・マネジメントの採用が必要である。
③公共図書館のファシリティの質向上を図る戦略・戦術・専門部署（担当）が必要である。
④実際に図書館員に質問することにより、図書館員の専門分野に関する知識不足を発見することができた。

今回の「利用者満足度評価」は、「図書館総合演習」という科目の一環として実施しました。1年生のときから学び、考えてきたことの集大成、という位置づけとなります。青森県内の公共図書館が快適な、魅力度の高い図書館となることを願って、活動を終えました。（櫛引素夫）

［社会 4 年前田君が MOS 世界学生大会 2017 で第 3 位に輝く！］

第 15 回 MOS(Microsoft Office Specialist)世界学生大会の各部門入賞者が 4 月 20 日に発表され、日本全国から延べ 4 万 9 千人を超える多くの学生がエントリーした中で、社会学部社会学科 4 年前田安夢呂君が大学・短期大学部門 PowerPoint において第 3 位を獲得することができました。これは文字通りの快挙と言えます。

6 月 30 日には東京で表彰式が行われました（下の 2 枚が東京での受賞の写真）。

（授賞式の模様、左から 2 番目が前田君）

[第 51 回東北大学バレーボール男子 1 部リーグ戦の結果]

9 月 16 日から 10 月 22 日まで行われた第 51 回東北大学バレーボール男子 1 部リーグ戦が仙台の大学や青森大学の体育館などで行われ、その結果、本学バレー部は第 3 位になり、全日本インカレに出場権を獲得することができました。

結果　第 3 位（全日本インカレ出場権獲得）
個人賞　敢闘賞　（社会 4 年　有馬　佑太）
　　レシーブ賞　　（社会 1 年　板垣尚樹）

なお、有馬佑太君は、東北学連選抜に選ばれました。これは快挙と言えます。
（斉藤直人監督のコメント）：本学のバレーボール部は今年度の成績として特筆すべきことですが、第 51 回東北大学 1 部リーグ戦にて第 3 位という結果を残しました。他大学の高校時代の高いキャリアに比べて、本学の選手のキャリアは決して良いものとは言えませんでしたが、そのキャリアを払拭すべく学生たちはかなりの頑張りを見せたことから、監督としても大変評価できる成績を残してくれたといえます。

[平内町「ハクチョウのまち再生」と連携し、人と環境との関わりを考える]

社会学科2～3年対象の「環境社会学I・II」では、地域の環境問題を考える題材として平内町浅所海岸を取り上げています。前期の授業内容については前号で報告しましたが、その成果として、平内町で観光客などにハクチョウについて解説するボランティア「白鳥ガイド隊」が使用することを想定した説明用パネルを考案・作成しました。

作成したパネルは、9月10日に行われた白鳥ガイド隊の研修会で披露し、「町外の人の目線が面白い」「私たちも勉強になった」といった評価をいただきました。また、授業の様子や学生が作成した解説パネルを大学祭の社会学部ブースで展示しました。

後期の授業は、浅所海岸での昔の生活や海との関わり、地域の方が持つハクチョウへの思いなど地域住民の生の声を収集し、次世代に伝えることを目標としています。学生たちは11月18日と12月2日の2回にわたり現地を訪問し、地域住民へのインタビューやまち歩きなどを実施しました。現在は、インタビュー記録の文書化と次世代に伝えたいエピソードの抽出作業に取り組んでいます。

インタビュー結果は今後レポートして提出させ、資料的価値のあるものは教育委員会等に活用してもらえるよう整理する予定です。学生たちにとっても、インタビュー調査の面白さと難しさを、身をもって体験する機会になったのではないかと考えています。（柏谷至・藤公晴）

[精神保健福祉援助現場実習報告]

平成 29 年度は 8 名の学生が精神保健福祉援助実習を予定（1 名は昨年度からの継続）していましたが、第 1 段階実習で 1 名、第 2 段階で 2 名の合計 3 名の学生は実習中止し、完了した学生は 5 名でした。現在実習の振り返りを行い実習報告書の作成をしています。自己覚知、価値観、援助技術、専門的知識等ソーシャルワーカーとして必要な専門性について実践的に学ぶ機会となったようです。

さて、平成 30 年度の実習希望学生は 2 年生が 1 名、3 年生が 3 名の合計 4 名です。既に実習先が確定しています。平成 30 年 2 月～3 月には予備実習を行う予定です。それまでに学生自身が実習準備を進める必要がありグループ学習や自主学習をしているところです。 (藤林正雄)

[ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ]

平成 29 年度は 8 名（本来は 9 名のところ、1 名が諸事情で実習中止、4 年生 1 名、3 年生 7 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 22 日（月）～5 月 26 日（金）合計 5 日間)、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 14 日（月）～9 月 8 日（金）合計 20 日間）合計 25 日間の実習を、5 か所の実習先で行い、１件を除き無事終了しました。

昨年度からの実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識を習得すべく、実習生達は一所懸命に取り組んでまいりました。

これらの成果を集約し、今年度後半は実習報告書の作成に入ることとなります。また、実習で経験した貴重な内容を発表する機会として、実習報告会を 2 月 9 日（金）に予定しております。 (長内直人)

[国家試験対策委員会報告]

今年度の国家試験は平成 30 年 2 月 3 日（土）精神保健福祉士専門、4 日（日）精神保健福祉士・社会福祉士共通、社会福祉士専門で実施される予定です。受験予定学生は、社会福祉士 5 名、精神保健福祉士 7 名、うちダブル受験 3 名です。

今年度は昨年同様、実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行ってきました。また、3・4 年生を対象に、前期 6 回にわたって実施される共通科目の学内模擬試験と自主勉強会、後期 4 回にわたって実施される専門科目の学内模擬試験、さらに 8 月 21 日（月）～25 日（金）に実施される「通い合宿・自主勉強会」、10 月 20 日（金）～21 日（土）の 4 年生を対象とした全国統一模擬試験などを実施いたしました。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施しております。

また、現 3 年生の国家試験受験希望者を対象に、日本社会福祉士会模擬試験を受験させ、現段階での自己の学力を認識していただく一つの指標としての材料提供を実施しました。

今後は国家試験受験日まで出来る限りサポートをし、合格者を増やしたいと考えております。合格発表は平成 30 年 3 月 15 日（木）の予定です。多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。 (長内直人)

［現役で愛知県公立中学校の教員試験に見事合格！］

社会学科４年大岩達也君は新体操部のキャプテンを務めながらも愛知県の公立中学校の試験を現役で今年度見事に合格しました。最近においては現役で教員試験に合格することはなかなか至難の業になりますが、ただでさえ難しいところに、新体操では全国の選手権大会で 16 連覇を率いる顧問の下で、キャプテンを務めながら、現役で教員試験に合格するという快挙を果たしました。

（社会学科４年　大岩達也君、　青森山田高校出身）

もともとは愛知県の武豊町の出身で、中学１年から新体操を始め、縁があって青森山田高校という北国へやってきた。「高校 2 年ごろから、いつしか先生になりたいという夢が芽生えてきた」が、その後、大学も同じ系列の青森大学へ進学し、新体操を続けました。

本人曰く、3 年時にキャプテンを任されましたが、正直言って新体操の能力面では精鋭の部員に比べて見劣りしていたので、コンプレックスがないわけではありませんでした。しかし、この弱点を克服すべく、後輩への技術指導や日常生活面で足らない点があれば度々注意したり、怒ったりするなどの努力をしていました。結果として、チーム全体の管理を顧問だけでは見切れない面をキャプテンが裏から支えていたといってもいいかもしれません。毎日の練習は授業が終わって試合間近であれば、4 時 30 分頃から 7 時ごろまでで、厳しい練習が続く。その後、教員試験の勉強のため近場のレストラン・ガストへ直行しました。その方が集中できたといいます。7 時 30 分から 11 時 30 分頃まで過去問や保健体育の専門の勉強に加えて、ネットで見つけた問題をコツコツとこなしていました。

〈後輩へのメッセージ：スポーツにだけに逃げないで、勉強もしっかりとやって欲しい〉

青大のスポーツ関係の学生は、スポーツだけやっていて、それに向けて結果を出すことにばかり四苦八苦しているようです。言い方を変えれば、スポーツだけに逃げていると言ってもいいかもしれません。でも、そうではなくて、社会人になるために本当にやらなければならないことは、部活とともに授業での勉強をしっかりやったり、社会人としての挨拶などの礼儀やマナーも是非とも学ばなければならない、と本人は強調しています。

どんな教師になりたいかを聞けば、「来年からは中学で教えることになりますが、できれば子供の目標にされる教師になりたいと思っています。口で言っても最近はなかなか生徒に言葉では響かないこ

とが多いので、自分の模範となる行動で示していって、家庭では教えられていない最低限のマナーや常識的なことを学んでもらえればと思っています。」と応えてくれました。　本人の将来に期待したいと思います。　（佐藤豊）

[3 年生就活実践演習において自己分析を食堂で実施]

3 年生対象の「就職活動実践演習 B」の授業は外部講師により 10 月 6 日（金）4・5 限と 7 日（土）1・2 限に食堂にてグループデスカッションを実施し、その後、再度 11 月 10 日（金）4・5 限と 24 日（金）4・5 限にもグループデスカッション（1 グループにつき約 8 人）で実施しました。今回は教員や就職課員に加えて、内定を取り SA 登録した 4 年生も参加して評者者役として活躍してくれました。3 年生が発言するときのポイントは、PREP 方式（最初に結論を述べ、次にその理由を言い、さらに具体例を述べて、最後にもう一度結論を述べる）を使って、できる限り論理的な発言をするように訓練され、加えてグループデスカッションをする際にも丁寧な言葉使いをして、真剣に取り組むことが強調されました。

（3 年生が発表する光景。SA の 4 年などが判定役）

具体的なグループデスカッションでは、時間内で与えられた課題に各グループで取り組みましたが、最初は慣れないために発言できない学生もいましたが、少しずつ慣れている状況でした。

今年は業界研究会が学内で 11 月と 12 月の 2 回にわたって、すでに実施されましたが、今後は、1 月 26 日（金）4・5 限と 27 日（土）1・2 限に面接対策を行う予定です。見た目重視の観点から就職で重要な立ち振る舞いなど学ぶ予定です。3 年生（新 4 年生）の就活もいよいよ本番の佳境に入りつつあります。今後も教職員のご協力をよろしくお願いいたします。（佐藤豊）

［ 学会発表など ］ (五十音順)

櫛引 素夫　「整備新幹線開業に伴う地域間連携の変化－信越・青函地域の事例－」、日本地理学会・秋季学術大会、2017 年 9 月 29 日、三重大学

櫛引 素夫　「転換期のコンパクトシティ政策と郊外型団地の現状－青森市の模索と幸畑団地地区の住宅・空き家の動向」。東北地理学会・秋季学術大会、2017 年 10 月 28 日、盛岡市・岩手県民会館

中村　和生　2017.11.4 「「ポスト分析的エスノメソドロジー」から見えてくるもの」第 90 回日本社会学会大会テーマセッション 13「EMCA の半世紀(2)」(於 東京大学本郷キャンパス)

［ 報告書・書評・寄稿など ］ (五十音順)

櫛引　素夫　◇東洋経済オンライン（http://toyokeizai.net/）連載「新幹線は街をどう変えるのか」

「新幹線が深めた「弘前と函館」の歴史的な縁ー弘前大の学生は 4 人に 1 人が北海道出身」、2017 年 7 月 16 日

「北陸新幹線が結ぶ「近くて遠かった」信越の絆ー東京との観光客輸送とは違うもう一つの役割」、2017 年 8 月 26 日

「北海道新幹線は「海路が生んだ絆」を超えるかー北前船で全国とつながっていた「道南」の今」、2017 年 9 月 24 日

「地元で待望論加速「奥羽新幹線」の課題はーミニ新幹線 25 年「フル規格」求める山形の今」、2017 年 11 月 25 日

◇その他

「北海道新幹線の「これまで」と「これから」―「青函圏」の行方と課題―」、れぢおん青森、2017・8、pp.4-11

「地方都市の命運握る新幹線駅の明暗」、週刊東洋経済、2017 年 12 月 9 日号、pp. 52-53

※ほかに AERA ムック、北海道新聞、北日本新聞（富山県）、上越タイムス（新潟県）などにコメント掲載

［ 論文査読 ］

佐藤　豊　日本比較文化学会「比較文化研究」に投稿される予定の論文 3 篇の査読を依頼され東北

支部編集委員として 11 月末締め切りで行った。

［ 出張講義・講演など ］　（五十音順）

柏谷　至　　パネルディスカッション「考えよう! 子どものスマホ・ネット利用について」コーディネーター, 青森県教育委員会・青森県PTA連合会・青森県PTA安全互助会「平成29年度あおもり教育フォーラム」, 2017年11月10日, ウエディングプラザアラスカ

櫛引　素夫　「北海道新幹線で檜山をどう変えるのか」、平成２９年度第２回ひやまの観光をみんなで考える会、2017 年 8 月 29 日、北海道江差町・檜山振興局

「人口減少社会にどう向き合うかー 浪岡地区の「今」「未来」と町会」、浪岡地区町内会連合会・研修会、2017 年 7 月 20 日、浪岡中央公民館

「地域で高める防災力～災害時のリスクと心構え～」、黒石市・未来塾、2017 年 9 月 21 日、黒石市西部地区センター

「フル規格新幹線整備の意義と課題　新幹線で山形をどう変えるのか」、山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟「フル規格新幹線で地域活性化」セミナーin 最上、2017 年 9 月 20 日、新庄市・メモリアルプラザ大地会館

「北海道新幹線は青函圏をどう変えるのか　地域を支える人・ビジョン・金融」、2017 年 10 月 10 日、青森県銀行協会

「あなたのちからを地域で活かそう！　市民参加型のまちづくりデザイン」、青森青年会議所・あおもりデザインフォーラム、2017 年 10 月 28 日、アピオあおもり

「四国新幹線で未来をどう変えるのかー構想推進への論点整理ー」、四国経済連合会・地域づくり連合会、資源・環境委員会講演、2017 年 11 月 6 日函館市・フォーポイントバイシェラトン函館

「幸畑のまちづくりの現状と効果、課題」、JIA 日本建築家協会東北支部青森地域会・勉強会、2017 年 12 月 11 日、青森大学

［ 地域活動 ］（五十音順）

柏谷　至　　青森県生涯学習審議会 (第13期) 委員長、鹿角市新エネルギー利活用促進協議会 委員長、青森市地球温暖化対策地域協議会 委員、青森県明るい選挙推進協議会 委員、大鰐町地域公共交通会議 委員、青森県エネルギー開発振興課「あおもり型スマートコミュニティモデル検討ワーキンググループ」委員、青森県生涯学習課「平成29年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業」研究顧問

「青森交通圏タクシー準特定地域協議会」「弘前交通圏タクシー準特定地域協議会」「八戸交通圏タクシー準特定地域協議会」会長、青森県タクシー運転者登録センター 登録諮問委員

特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森 副理事長、特定非営利活動法人アニマルサポート青森 監事、一般社団法人グリーンエネルギー鰺ヶ沢 理事、北東北小水力利用推進協議会 理事、七和地区活性化協議会「小さな拠点&つながるプロジェクト」「地産地消&地産外商プロジェクト」協働委員

櫛引　素夫　　特定非営利活動法人青森県防災士会理事

特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事

青森地方労働審議会委員

青森地方労働紛争担当参与

青森県中山間地域対策協議会委員

JAF 青森支部交通安全実行委員長
青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員
青森 KEN 民塾世話人
※「道の駅いまべつ」と青森大学の連携協定に基づく調査研究事業（2015 年 6 月～）
※奥津軽いまべつ駅・津軽中里間バス運行協議会の委託によるバス利用動向調査業務（2017 年 10 月～）

ソフトウェア情報学部

【青森山田高校情報処理科、自動車科で特別授業】（橋本恭能）

青森山田高校情報処理科 2 年生（5 月 30 日から 7 月 18 日まで計 5 回）、3 年生（10 月 11 日から 11 月 22 日まで計 7 回）、自動車科（5 月 12 日から 29 日まで計 3 回)を対象に、ロボットを使ったプログラミング授業を実施した。本授業では、レゴマインドストームを使ったロボットカーの製作とコースを走行するためのプログラム開発、さらにグループワークでは、ロボットカーの自動ブレーキ機能、簡単な自動走行プログラムの開発を行った。

【ET ロボコン 2017 東北地区大会に出場】（橋本恭能）

平成 29 年 10 月 9 日（月）岩手県盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で、ET ロボコン 2017 東北地区大会が開催されました。東北各地の企業、大学、高専、高校など 30 チームが参加し、ロボットの走行タイムやソフトウェアシステムの設計内容で競い合いました。

本学からソフトウェア情報学部橋本研究室と ET ロボコン研究会の合同チーム「青大ロボコン研 P」（4 年木立亮太、木村竜輝、3 年對馬新、宮越良徳）がデベロッパー部門プライマリークラスに出場しました。走行競技では出場した 22 チーム中 6 位、モデル部門では Gold Model 賞（1 位）を受賞いたしました。

【青森山田中学校 特別授業】（橋本恭能）

青森山田中学校 1～3 年生を対象に、タブレット端末を使ったロボットプログラミングの模擬授業を 12 月 5 日本学にて実施した。授業では、タブレット端末を使ったプログラムの作り方を学習した後、ロボットカーを使って荷物を運搬する走行プログラムを開発し、動作のテストを行った。

【「アート＆テクノロジー東北 2017」コンテストで奨励賞を受賞（7/1)】（角田 均、和島 茂）

芸術科学会東北支部が主催する、メディア芸術領域における優れたアート作品やアート作品の制作支援技術を表彰する総合コンテスト「アート＆テクノロジー東北 2017」に青森大学デジタルコンン

テンツサークルとして参加、ソフトウェア情報学部 3 年生のチームの出展作品「フルーツクラッシャー！！」が奨励賞を受賞しました。

アート&テクノロジー東北は、コンピュータグラフィックスやビデオゲーム、アニメーション、デジタルミュージックなど、新しい芸術の分野における科学的研究や制作技術の普及を目指す芸術科学会の主催イベントとして、国内はもとより海外からも多くの作品が出展されるコンテストとして 2005 年から毎年開催されています。今年度は 7 月 1 日(土)に岩手大学デザイン・メディア工学協創工房で一般公開と審査会が開催され、事前審査を通過した国内外からの 75 作品が展示、審査されました。青森大学デジタルコンテンツサークルでは 2014 年のコンテストから毎回出品しており、今回もソフトウェア情報学部 3 年生の梅原稜君、成田夕貴さん、佐藤祥子さんのチームが、キネクトとカメラを用いた AR 作品「フルーツクラッシャー！！」を出品しました。キネクトを使ってプレイヤーの動きを検知、仮想空間で飛んでくるフルーツを砕いてフルーツジュースを作るという設定のゲームで、会場でも多くの方に楽しんでもらいました。動体と背景を識別して、別々のレイヤにグラフィックオブジェクトを表示する仕組みで、高度なプログラミング技術を駆使したシステムが評価され、奨励賞を受賞しました。

会場ではインタラクティブ作品や動画、静止画の作品、制作技術についての研究成果などが多数展示され、デジタルコンンテンツサークルの 1,2 年生の参加者も実際に作品に触れ、説明を聞くことで、次回のコンテストに向け、自分たちの作品制作への刺激を受けることができました。表彰イベントに続いて開催された参加者と審査員による交流イベント・パーティでは、受賞チームのメンバーとして 3 名が挨拶、それぞれ作品についての思いや苦労した点をお話ししました。今回の受賞を受けて、デジタルコンテンツサークルでは次のコンテストでさらに高い評価を得られるよう、来年度に向けた活動を開始しています。

【大学生が教える、小学生のためのプログラミング体験教室（第 1 回、第 2 回）(8/2,3)】（角田 均、和島 茂）

青森市内の小学生を対象とするプログラミング体験教室を実施、ソフトウェア情報学部の学生が小学生を指導しました。8 月 2 日(水)と 8 月 3 日(木)の 2 日間、青森市教育委員会と青森大学の主催による小学生向けのプログラミング体験教室が、株式会社ソフトアカデミーあおもり(協力)の研修室を会場として開催されました。

今回は青森市立荒川小学校の放課後子ども教室を中心に、浜田小学校、小柳小学校、浪館小学校から、3 年生から 6 年生まで約 20 名の小学生が参加してくれました。教室では視覚的で直感的な操作で簡単にプログラミングができる「Scratch」を用いて、実際にキャラクターを動かして遊ぶゲーム作りを通じて、初めてのプログラミング体験を楽しんでもらいました。指導役にはソフトウェア情報学部で「プログラミング教育」を研究テーマとする研究プロジェクトチームから、佐藤祥子さん、武井将太郎君、梅原稜君の 3 年生 3 名があたりました。これまで高校生向けに実施してきたプログラミング入門セミナーの成果をもとに、内容を小学生向けに見直し、教材も作り直して、入門コースから中級者向けのコースまで、2 日間の体験コースの内容を準備した上で、指導もすべて自分たちで担当しました。

平成 32 年度からの初等教育でのプログラミング必修化を控え、地域の産・官・学が協力して指導者育成・カリキュラム構築を目指す取組みとして注目度も高く、マスコミ各社(東奥日報社、朝日新聞社、RAB 青森放送)からも取材を受け、ニュース、新聞等で報道されています。

【新城川で水環境健全性指標による環境調査を実施（8/17）】（角田 均、和島 茂）

ソフトウェア情報学部の学生が青森市の新城川で水辺の環境調査を実施しました。ソフトウェア情報学部の研究室では日本水環境学会東北支部との共同研究として、情報技術の活用による水環境教育の高度化の研究に、平成 23 年度から継続的に取り組んでいます。昨年度からは、環境省の定める「水環境健全性指標」を用いた河川の環境調査の成果を Google マップ上にレーダーチャートで表示、

インターネットを用いて全国・全世界で共有するプラットフォームの構築に取り組んでおり、2 月の情報処理学会東北支部研究会で 3 年生(当時)の工藤誠也君が、また 3 月の日本水環境学会年会では 4 年生（当時）の澤田洋二君が、昨年度開発したプロトタイプを用いた実証実験について成果発表を行っています。

今回はシステム開発担当の学生 2 名(工藤誠也君(4 年生)、三浦光君(3 年生))が、共同研究者でもある水環境学会東北支部幹事の三上氏の指導のもと、実際に水環境健全性指標を用いた環境調査を実施しました。調査は 8/17 の午前中、青森西部を流れる新城川の上流から下流の 4 地点で、水環境健全性指標の特徴である、人間の五感を用いた環境調査と、調査キット(パックテスト)を用いた水質調査を実施しました。

昨年度までの研究では小中学校の総合学習や高校生の課題研究などで児童、生徒が調査した成果の提供を受けて、データの可視化を行うシステムの開発を行ってきましたが、今回、利用者の立場で実際に調査を行うことで、環境調査の難しさやこれまでは見えていなかった現状の問題点、システムに求められる機能などを明らかにすることができました。今年度の研究では昨年度のプロトタイプシステムをベースに機能やデザインを見直し、より利用しやすいプラットフォームを構築、さらに開発したシステムを公開して実際の調査成果の登録、共有を行う実証実験の実施を予定しています。

【黒石商業高校で Java アプリ開発講座を実施（9/4,5,7）】（角田 均、和島 茂）

黒石商業高校情報処理科 2 年生 39 名を対象に、Java 言語を用いたソフトウェア開発の特別授業を実施、ソフトウェア情報学部の 3 年生と 4 年生が実習サポートを行いました。ソフトウェア情報学部では県内商業高校との高大連携の一環として、商業高校における情報教育の充実・高度化のための様々な取り組みを進めています。その中の大きな取り組みの一つとして、昨年度から黒石商業高校の

情報処理科の生徒を対象にした Java 言語によるプログラミング講座を実施しており、今年度も 9 月 4 日から 5 日、7 日の 3 日間、毎日 4 時間ずつの集中講座を実施しました。今年度は「Java 言語を利用したアプリケーションソフトウェアの開発」をテーマに、初心者にもわかりやすい視覚的な開発環境 Processing を用いてアプリケーションソフトウェアの開発実習を行いました。

講義は八戸工業大学の小久保教授とソフトウェア情報学部の角田教授が分担し、3 日間のサポートはすべてソフトウェア情報学部の 3、4 年生が各日 3 名ずつ交代で担当しました。講義はプログラミング言語としての Java 言語の特性、Processing 開発環境の基本、構造化プログラミングの考え方、オブジェクト指向による開発など、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術の基礎をすべて網羅する内容で実施しました。ソフトウェア情報学部で手がけている小中高校生向けのプログラミングセミナの中でも特に高度な内容となっており、これまでたくさんのセミナで数多くのサポートを経験している 3,4 年生にとっても、指導内容や説明方法に工夫が求められる、難しくてやりがいのある講義となりました。

この講義を通じて商業高校の生徒さんたちが、これまで以上に情報技術の分野への興味を高めてくれることを期待しています。

【ソフトウェア情報学部学外実習（10/4）】（角田 均、李 孝烈）

ソフトウェア情報学部 3 年生の必修科目「学外実習」の取り組みとして、10 月 3 日～6 日に千葉県の幕張メッセで開催された IT とエレクトロニクスの総合展「CEATEC Japan 2017」を見学しました。ソフトウェア情報学部 3 年生対象の必修科目「学外実習」は、情報技術の最新動向を学び、自らのキャリアを意識するための重要科目です。学外実習は情報関連の展示会への参加を通して、①情報技術に関する最新動向、②情報技術を扱う企業や業界、③社会人としてのマナー、心構えなどを学ぶことを目的として開講されています。今回の見学先となった CEATEC Japan 2017 は、国内はもとより、アジアを中心とする世界中の情報技術の最新のトレンドとなるモノ・サービス・テクノロジを一堂に会して開催される大規模な展示会です。今年度は Society5.0 や CPS/IoT をテーマに、広大な会場で国内外の 667 社の企業による 1,758 ブースの展示、100 を超えるカンファレンス／セミナーが開催され

ています。

学外実習は一泊二日の行程で実施、学生達は所属研究室ごとのグループに分かれて、展示会の見学とブースでの取材、カンファレンスやセミナーにも参加しました。「自動運転技術」や「ロボット」「映像技術」など、各グループが自分達の興味に合わせて設定したテーマに沿って事前に選んだ展示ブースを訪問して出展者へのヒアリングを行いました。また最新の VR デバイスや大型のシミュレーター、対話できる AI など、最先端のテクノロジーに直接触れて体験できる、貴重な機会となりました。

【鯵ヶ沢の魅力を発信する新たなデジタルコンテンツの開発プロジェクト】（角田 均、和島 茂）

ソフトウェア情報学部の学生による新しい研究プロジェクトとして、リモートセンシングの研究のために構築された高画質のライブカメラシステムのデータを利用して、地域の観光に活用できる新たなデジタルコンテンツの開発に取り組んでいます。

ソフトウェア情報学部では弘前大学、株式会社青森電子計算センターとの共同研究として、高画質のライブカメラシステムによる定点観測の研究を行っています。岩木山の全周を囲むように弘前市、鶴田町、西目屋村、鰺ヶ沢町に 1000 万画素以上の高性能カメラを配置、5 分毎、24 時間の画像データをインターネットでサーバに集積し、衛星画像や気象データとの組み合わせによるリモートセンシングの研究に活用、2002 年の研究開始から現在までに、数百万枚に及ぶ膨大な画像データによるアーカイブが構築されています。この巨大な画像アーカイブから、新たなデジタルコンテンツを生み出す研究を開始しました。リモートセンシングの研究では「分析対象データ」としてきた画像を、改めて「美しい写真」と捉え直すことで新たな価値を持ったデジタルコンテンツの素材とする可能性を追求します。

今年度はソフトウェア情報学部の舘田さん(3 年)、滝吉さん(3 年)、山崎君(4 年)の 3 名が協力して、定点観測システムの設置・運用にも協力していただいている鰺ヶ沢のホテルグランメール山海荘との共同研究の形で、鰺ヶ沢町の観光に活用できるコンテンツの開発に取り組んでいます。3 年生の舘田さんは「鰺ヶ沢の雲」をテーマに、あまり着目されることのない雲をメインの素材とする Web ページを制作しています。3 年生の滝吉さんは「鰺ヶ沢の太陽」に着目し、「太陽柱」や「天使の梯子」

など、大量の定点観測画像の中に埋もれている、希少な現象を抽出して電子書籍による写真集を制作、ホテルのラウンジでの展示を目指しています。4 年生の山崎君は、滝吉さん、舘田さんのコンテンツ制作を助けるため、サーバ上の大量の画像から目的の画像を検索するための Web インターフェースの開発に取り組んでいます。

10 月 22 日にはグランメール山海荘を訪問、鰺ヶ沢町観光協会会長でもあるオーナーの杉澤康晴氏と営業担当の齋藤志織氏にご協力いただき、開発成果の中間報告とレビューを実施しました。これまでにない着眼点や、制作中のコンテンツの品質に高い評価をいただきました。今回頂いたご意見をもとにさらにコンテンツを改善し、オンラインでの公開やホテルのラウンジでの展示を目指して研究を進めています。

【大学生が教える、小学生向けプログラミング体験教室(第 3 回、第 4 回)（11/11)】（角田 均、和島茂）

ソフトウェア情報学部 3 年生による、プログラミング教育をテーマとする研究プロジェクトチームのメンバー(佐藤祥子さん、武井将太郎君、梅原稜君)が講師を担当する、小学生向けのプログラミング体験教室の第 3 回と第 4 回が、11 月 11 日に株式会社ソフトアカデミーあおもり(協力)を会場として開催されました。

今回は青森市立大野小学校の放課後子ども教室を対象に、小学 4 年生から 6 年生まで 16 名の小学生が参加してくれました。今年度後半の実施となる今回は、夏休みに実施した第 1 回、第 2 回の体験教室の経験を踏まえて、よりわかりやすい講義を目指して、内容や説明方法などの改善に取り組みました。また 2020 年度からの初等教育でのプログラミング必修化を見据え、教える側の需要に応えるべく、誰もが使いやすい講義資料の作成を研究プロジェクトの新たな課題に設定、青森市教育委員会の実地評価も実施しました。教室の最後には受講した児童全員に修了証の贈呈が行われました。

研究プロジェクトでは今後、受講した児童たちの追跡調査を実施、今年度 4 回実施した体験講座の成果をまとめ、来年 1 月には創作ゼミナール報告会で成果発表する予定です。

【東北 TECH 道場 青森道場 2017 開講（11/25, 11/26, 12/23, 12/24）】（角田 均）

Google の後援で青森県と青森大学が共催で実施する、スマートフォンアプリの開発講座「東北 TECH 道場」の青森道場 2017 を開講、初回の講座を 11 月 25 日(土)〜26 日(日)の 2 日間、青森市新町のまちまちプラザを会場に開催しました。

東北 TECH 道場 青森道場ブログ

http://aomoridojo.blogspot.jp/

今期は講師に Singularity 株式会社 CEO の近藤昭雄さんをお迎えして、高校生 15 名(青森工業高校 3 名、青森商業高校 3 名、青森西高校 3 名、青森高校 6 名)、大学生 3 名、社会人 2 名の、合計 20 名の道場です。(本当はもっと応募があったのですが、会場の都合、やむを得ず各校選抜となりました。)今回の講座では「プロスポーツチームを応援するアプリ」をテーマにアプリ開発コンテストを企画、地元のプロバスケットチーム青森ワッツを応援するアプリを開発して、来年 2 月に開催される青森県主催の IT ビジネスマッチング交流会でコンペティションを行う予定です。優秀チーム／個人には、コンテストのスポンサーである青森ワッツや主催者の青森県から豪華な賞品が贈られます。

初日はスタッフと参加者の自己紹介に続いて、同じく東北 TECH 道場を開催している石巻道場とのオンラインのビデオ会議からスタートしました。講義では開発環境と実機のタブレット端末を使って、画像やサウンドを組み込んだアプリを制作、動作確認を行いました。今回の講座では、株式会社リンクステーション様のご厚意で、開発実習用の端末 10 台を無償で提供していただいています。2 日間の講座でアプリ開発の基礎を学んだ受講者には、次回の講座(12/23,24)に向けて「自前の開発環境構築」と「今回の講座の復習」の 2 つの宿題が出されています。

また今期の道場では、ソフトウェア開発者の共同作業ツールとして知られる Slack を使って青森道場のオンラインのワークスペースを用意、道場の開催日以外にも参加者が学び、情報共有や宿題実施のためのサポートが受けられる環境を整備しています。

ソフトウェア情報学部では、この講座を通じて(大学生に限らず)地域の若者が最新の開発技術に触れてソフトウェア開発に興味を持ってくれること、また高校生、大学生、社会人が同じソフトウェア開発のステージで交流しながら、地域の新たな開発者コミュニティの土台を作ってくれることを目指して東北 TECH 道場の運営に取り組んでいます。

【水環境調査データを可視化する Web アプリの講習会実施(12/5)】(角田 均、和島 茂)

ソフトウェア情報学部では日本水環境学会東北支部との共同で、人間の五感を用いた水辺の健全性指標(「水しるべ調査」https://www.env.go.jp/water/wsi/)の活用と普及のための Web アプリ開発プロジェクトを進めています。プロジェクトでは、全国の学校や自治体、NPO など、地域で水環境調査を実施している人たちが、インターネットを通じてお互いの調査成果を共有できるプラットフォームの構築を目指して開発に取り組んでいます。

今回は今年度の開発担当の工藤誠也君(4 年)と三浦光君(3 年)が共同で開発中のアプリケーションのテストを兼ねて、下長中学校で馬淵川の水しるべ調査に取り組んでいる 3 年生のチーム 5 名を対象に、アプリケーションの操作方法を説明、実際に自分たちで調査したデータを登録してもらう講習会を実施しました。開発担当の学生が説明とサポートを担当し、参加した中学生の皆さんに実際にインターネット上の Web アプリにアクセスし、ユーザ登録やデータ登録を体験してもらいました。
講習後、共同研究者の三上さん((元)青森環境管理事務所、日本水環境学会東北支部幹事)からプロジェクトの目標や水しるべ調査を普及していくことの意義についてお話をいただきました。講習には、同じく共同研究者の小久保さん(八戸工業大学教授)も参加、サポートしてくれています。

【発達障害を持つ児童の生活 Web アプリ「ぐんぐん」の活用実験（12/19)】（角田 均、和島 茂）

「ぐんぐん」は発達障害を持つ児童を支援する放課後デイサービスで行われている、生活訓練の取り組み内容を情報機器を用いて高度化する目的で開発されたシステムで、弘前市の NPO 法人光の岬福祉研究会の協力のもと、平成 27 年度から毎年実証実験を実施、機能の検証と改善に取り組んでいます。今年度の開発では、これまで児童のモチベーションを向上させる目的で利用してきたゲーミフィケーションの機能を見直し、従来のゲームをモチーフとした仕組みから、SNS の仕組みを応用したシステムへと機能を進化させています。新しいシステムでは、児童はデイサービス施設での訓練の成果を写真とともに「ぐんぐん」専用の SNS のタイムラインに投稿、支援者や保護者から「いいね！」のリアクションをもらうことで達成感を得るとともに、次の取り組みへの意欲を向上させることができるようになっています。

12 月 19 日の夕方、弘前市のデイサービス施設「ひかり」に開発担当の加藤秀斗君(4 年)と梅原稜君(3 年)が訪問、現地で支援者向けにシステムの利用ガイダンスを実施しました。またその場で児童への課題を設定、タブレット端末を使って児童自身による自己評価を実施、さらに写真を撮影して専用 SNS への投稿まで行ってもらいました。SNS への投稿と同時に児童の保護者向けにメールによるプッシュ通知が配信され、保護者から「いいね！」のリアクションをもらうことができました。これから 3 月までの 3 ヶ月間、実際の児童を対象とした運用による実証実験と QOL 測定などによる効果の検証を行う予定です。

本研究はソフトウェア情報学部と社会学部、八戸工業大学、株式会社リンクステーションの共同研究として実施しています。

【活動報告】

白岩　貢（演奏会出演等）

「長島剛子&白岩貢&梅本実リートリサイタル～ロマン派歌曲の傑作を集めて」

青森公立大学国際交流ハウス（2017.9.16）

「おでかけクラシック 2017～名曲の泉」

リンクモア平安閣市民ホール（2017.9.18）
「MUSIC PARTY」
埼玉県吉川市・おあしす（2017.11.4）
「信長貴富音楽展～寺山修司の音世界」(含委嘱作品初演)
青森公立大学国際交流ハウス（2017.12.16）

白岩　貢（出張講座等）
「おでかけクラシック 2017」アウトリーチ事業　＜歌唱指導、コンサート＞
青森市立長島小学校（2017.7.5）
青森市立幸畑小学校（2017.7.7）
青森市立千刈小学校（2017.7.12）
青森市立大栄小学校（2017.7.14）
「今別中学校スクールコンサート・歌唱指導」(2017.9.13)
「英語で童謡唱歌を歌おう」青森市立南中学校（2017.11.13）
「英語で童謡唱歌を歌おう」青森市立佃中学校（2017.11.15）
「青森大学オープンカレッジ出前授業」青森市立幸畑小学校（2017.11.20）
「英語で童謡唱歌を歌おう」七戸町立七戸中学校（2017.12.21）
→東奥日報に記事が掲載された

白岩　貢（その他）
東京国際声楽コンクール(岩手大会）審査員（2017.7.1）
青い森音楽祭出演者オーディション審査員（2017.7.23）
雨上がりの空に希望の虹がある青い森リサイタル実行委員（2017.10.24）
青森大学オープンカレッジ市民大学講座歌唱指導・ミニコンサート（2017.10.27）
幸畑西町会ふれあいの集い・ミニコンサート（2017.12.3）
第 35 回青森第九の会合唱指導局長（2017.12.10）
→RAB/NHK にて指導の様子が放映された
青森商工会議所女性会クリスマス会・ミニコンサート（2017.12.20）

【学会、研究会、セミナー、発表】

- 角田均，「データの分析と処理～科学研究に必要な統計学～」，平成 29 年度弘前南高校 SSH 特別授業, 2017 年 7 月 20 日(弘前南高校)
- 角田均，「情報セキュリティの基本」，青森県警察サーバーセキュリティ対策テクニカルアドバイザー委嘱記念公演, 2017 年 7 月 27 日（青森県社会教育センター）
- 角田均，「サイバーセキュリティ人材の育成について」，青森県サイバーテロ対策協議会第 8 回総会講演, 2017 年 10 月 18 日（青森県警察本部）
- 角田均，「地域連携による研究プロジェクト紹介」,イノベーションネットワークあおもり平成 29 年度第 5 回タスクフォース, 2017 年 12 月 11 日（青森県庁）

薬　学　部

[薬学部スポーツ大会]

7 月 15 日（土)、薬学部スポーツ大会を実施しました。

くじ引きでトーナメントの組み合わせを決め、9 時 20 分から試合を開始しました。

参加した 9 チームの皆さんは、何日も前から練習していたようです。

結果は次の通りとなりました。

第１位　チームＰ

第２位　大越組

第３位　チームＮＯ宗教

応援に来た学生や教員の皆さま、ありがとうございました。（青森大学ホームページより）

[第 2 回薬学部オープンキャンパス]

7 月 23 日（日)、平成 29 年度第 2 回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。

薬学部では、次のメニューを実施しました。

1. 安全講習
2. 創剤体験「製剤のしくみと工夫を知ろう」
3. 学食体験
4. 薬学部特別奨学金・入試説明
5. 薬学部紹介～青森大学薬学部で学ぶ利点～

参加された皆さんは、日ごろ見慣れている錠剤やカプセル剤のしくみを知り、その緻密な製剤技術

に驚いているようでした。

また、本学薬学部の在学生（6 年生 1 名、5 年生 5 名、4 年生 6 名）が実験を手伝ってくれました。そして、今回もフレッシュで強力な助っ人の薬学部 1 年生（3 名）がオープンキャンパスを盛り上げてくれました。サポートしてくださった学生のみなさん、ありがとうございました。

次回、第 3 回オープンキャンパス（8 月 4 日）の実験は調剤体験「水剤を作ってみよう」です。お楽しみに！（青森大学ホームページより）

[大館市薬剤師体験セミナー]

7 月 29 日（土）、秋田県大館市と青森大学の共催による「薬剤師体験セミナー」を開催しました。今年で 4 回目となります。

大館市の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 3 名、高校生 8 名の参加者となりました。中学生、高校生共に、同じメニューで実験等を行いました。

1. アスピリンの合成
2. 合成した薬の成分分析（薄層クロマトグラフィー）
3. 昼食
4. 経口補水液の調製
5. 地域薬剤師との座談会

昼食及び薬剤師との懇談には、大館市で活躍されている薬剤師 4 名に協力を頂き、活発な話し合いがもたれました。 参加した皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。中学生、高校生ともに修了式を行いました。そして、薬学部の学生 12 名（6 年生 5 名、5 年生 7 名）が協力しました。学生にとって、大変だったかと思いますが、良い経験になりました。

秋田県も、青森県同様に地域医療を担う薬剤師が不足しており、青森大学薬学部は北東北エリアの薬剤師養成機関であります。
市と大学および地域薬剤師が連携して（官学連携）、未来を担う中高生に対し、このような地域貢献セミナーを実施しております。（青森大学ホームページより）

[青森県高校生サイエンスキャンプ]

8月1日（火）、青森県教育委員会主催「青森県高校生サイエンスキャンプ」の一部を青森大学薬学部で開催しました。

次のメニューで体験実験・フィールドワーク等を行いました。

1. 薬用植物の観察（青森県総合学校教育センターから青森大学までの道程）
2. 経口補水液の調製
3. 配合変化、服薬指導
4. 薬用植物体験

参加された皆さんは、楽しんで体験実験・フィールドワーク等を行っていました。
参加した皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。そして、薬学部の教員12名、学生10名（6年生3名、5年生7名）が協力しました。学生にとって、大変だったかと思いますが、良い経験になりました。（青森大学ホームページより）

[第３回薬学部オープンキャンパス]

８月４日（金）、平成 29 年度第３回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。
薬学部では、「体験」シリーズの第３弾として以下の企画を実施しました。

1. 調剤体験「水剤を作ってみよう」
2. ペーパークロマトグラフィー実験
3. 薬剤師のお仕事紹介
4. 学食体験
5. 薬学部特別奨学金・入試説明
6. 薬学部紹介～薬学部で学べること～

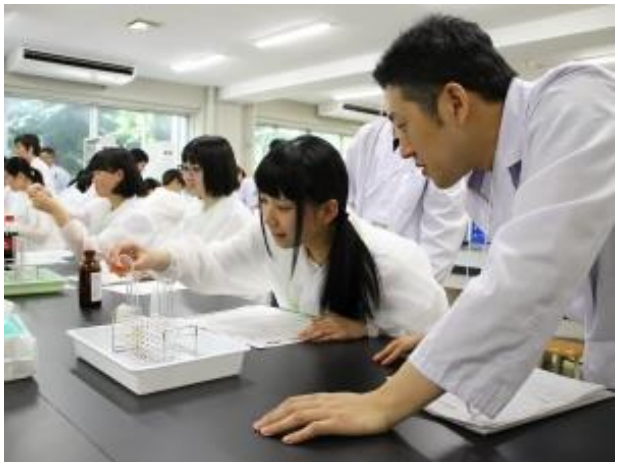
参加された皆さんは、慣れない手つきで慎重に、量りとったお薬を投薬ビンを用いて調剤していました。さらに、飲み合わせの実験ではお茶やコーラでお薬を飲んだ場合に、胃の中で起こりうる変化を見て驚いていました。引き続き行ったペーパークロマトグラフィー実験では、サインペンに含まれる色素を性質の違いによって分離し、さまざまな色に分かれる様子を楽しんでくれたようです。
薬剤師お仕事紹介では、調剤薬局で活躍されている本学卒業生をお招きして、医療職としての薬剤師の魅力についてお話いただきました。

また、今回の企画には薬学部の学生（6 年生 2 名、5 年生 7 名、4 年生 5 名）が、緊張していた高校生達の良き先輩役として、日頃の勉強の成果をここぞとばかり発揮して、実験をサポートしてくれました。
また、今回も薬学部 1 年生（2 名）が手伝ってくれ、若さを発揮してオープンキャンパスを盛り上げてくれました。

最後に、今年度オープンキャンパスにご参加いただいた多くの皆さまにお礼申し上げます！

皆さまの進路選択・職業選択のお役に立てたなら幸いです。これからも青森大学薬学部は新たな企画を準備してお待ちしております。知りたい情報等があれば青森大学薬学部へ気軽にご連絡ください。お待ちしております！

（青森大学ホームページより）



[中高生の薬剤師体験セミナー]

8 月 26 日・27 日、青森大学と青森県教育委員会の共催による「中高生の薬剤師体験セミナー」を開催いたしました。昨年に引き続き、5 回目の開催です。より多くの参加者を受け入れるため、2 日間の開催としています。県内の中学校・高等学校を通じて参加者を募集しました。1 日目・2 日目の中学生・高校生共に各 30 名で募集をしたところ、多数の応募がありましたので若干名定員を増やし、1 日目は中学生 33 名・高校生 31 名、2 日目は中学生 31 名・高校生 31 名が薬剤師の仕事を体験しました。参加した中学生・高校生の皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。そして、青森県の病院薬剤師 4 名と薬局薬剤師 4 名にご協力をいただきました。

また、本学薬学部の在学生（6 年生 7 名、5 年生 6 名、4 年生 4 名）17 名に手伝っていただきました。高校生のセミナーは、昨年に引き続き「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 」として実施いたしました。

また、8 月 27 日には、独立行政法人日本学術振興会からモニター員として、弘前大学大学院医学研究科教授の廣田和美 先生と、研究事業部研究事業課の持川依梨佳さんが来学し、薬剤師体験セミナーを参加・見学されました。

中学生：平成 29 年度薬剤師体験セミナー

【プログラム】

1. 開講式
2. 安全講習
3. 薬を調製する『アズノール軟膏の調製』
4. 薬の形を作る『打錠・崩壊性試験』
5. 昼食＆休憩＆青森県薬剤師との座談会
6. 薬を視る『ペーパークロマトグラフィー』
7. 修了式　修了証書授与

高校生：平成 29 年度薬剤師体験セミナー・平成 29 年度ひらめき☆ときめきサイエンス【薬を創る薬剤師】

【プログラム】

1.開講式
2.安全講習
3.科研費について
4.講義『アスピリンの合成』
5.薬を創る『アスピリンの合成』
6.昼食＆休憩
7.薬を調製する『アズノール軟膏の調製』
8.青森県薬剤師との座談会
7.修了式　修了証書授与

後援：

公益社団法人日本薬学会東北支部
一般社団法人青森県薬剤師会
青森県病院薬剤師会

協賛：

青森県健康福祉部医療薬務課

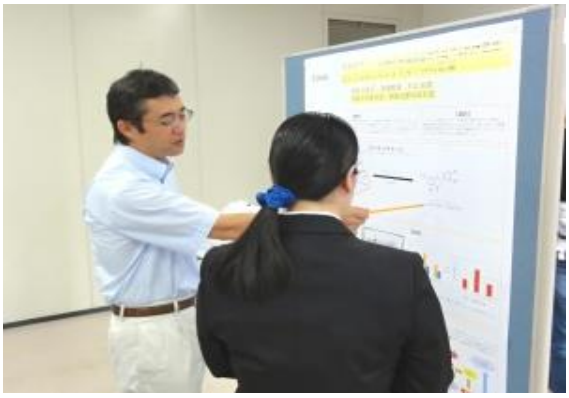
（青森大学ホームページより）

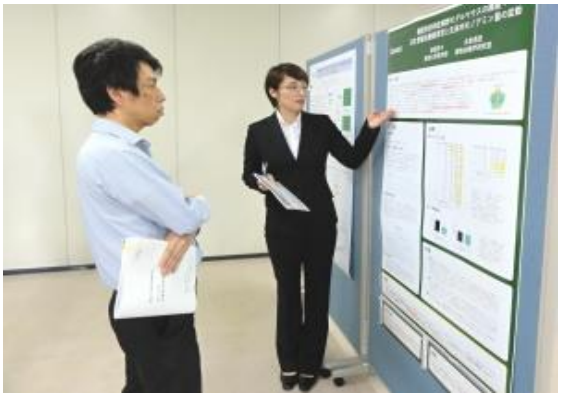
[卒業研究発表会]

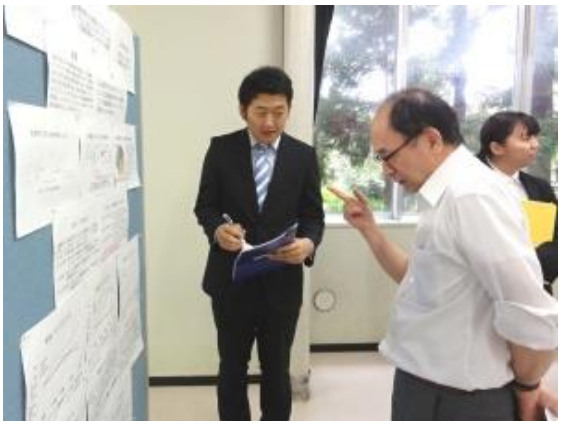
8 月 31 日（木）、平成 29 年度青森大学薬学部卒業研究発表会を青森大学 5 号館 5103/5104 教室にて開催しました。

青森大学薬学部生は 4 年次の研究室配属後、指導教員のアドバイスを受けながら、1 人あたり 1 テーマの卒業研究に取り組みます。本発表会では、6 年生がこれまでに得られた研究成果をポスターに凝縮して発表しました。各発表者は、質問者に対して研究内容の要約をプレゼンテーションした後、質疑応答を行いました。発表内容、展示の訴求力、質疑応答は卒業研究成績に反映されることから、緊張感の中、活発なディスカッションが行われました。学生同士のディスカッションも会場のあちらこちらで行われました。学生は、薬学共用試験、実務実習、薬剤師国家試験準備等と並行して、限られた時間の中で集中して卒業研究に取り組みました。卒業研究で得た有形無形の力は、社会で遭遇する課題を乗り越えるために生かされます。

（青森大学ホームページより）







[第２回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナー]

平成２９年９月２３日（祝土）、第２回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを医療法人雄心会 青森新都市病院３階講堂にて開催しました。テーマは「高齢者の上手な栄養の摂り方、摂らせ方」で、講師は淺利 和宏 氏（青森市健康部 青森市保健所 健康づくり推進課 栄養士）です。参加者は６０名でした。参加者は、講師の話に熱心に聞き入っていました。

また、セミナーでは、厚生労働省が前々日の９月２１日に発表したばかりの「平成２８年国民健康・栄養調査」にも触れ、青森県民の野菜摂取量は平成２４年調査と比べると、男は２３位から５位、女は１４位から５位に改善していることが報告されました。次回は１１月１９日を予定しております。

主催：青森大学薬学部
共催：医療法人雄心会 青森新都市病院 青森大学脳と健康科学研究センター

（青森大学ホームページより）

[薬学フェスティバル]

9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）の青森大学大学祭において、薬学部が 5104 室にブースを設けました。両日ともに 100 名を超えるお客さまに来ていただきました。ありがとうございました。

そして、薬学部の在学生 18 名（6 年生 4 名+α、4 年生 1 名、2 年生 6 名、1 年生 7 名）には、薬学フェスティバルの運営に全面的に協力をいただきました。

健康すこやか診断

薬学部のブースでは、健康チェックを行っていました。血圧計 以外のチェックは次のものでした。

（医療機器ではありません）

・動作年齢チェック（動きのすばやさ）
・動体視力チェック
・素肌年齢チェック
・ストレス・血管年齢チェック

上の 5 種類の健康チェックをコンプリートし、アンケートをいただいた方は、2 日間で 80 名でした。ご協力ありがとうございました。

お客さまは、楽しみながら 無料 で健康チェックをしていました。

薬研（やげん）Cafe

同室で「薬研 Cafe」をオープンしました。これは、薬研を使って挽いたコーヒーを 無料 でサービスするものです。スタッフが挽いたコーヒーも美味しいですが、なかなか体験できない薬研に、子どもから大人まで楽しそうに挑戦して、自分が挽いたコーヒーを美味しそうに飲んでいました。

薬剤師体験

同室で「薬剤師体験」として、薬を袋に入れる 分包機 を体験できるコーナーを設けました。子どもだけでなく、大人も興味を持ち、楽しそうに体験していました。

アロマ体験

同室で「アロマ体験」として、6 種類のアロマを用意し、自分好みのものに投票をしていただきました。1 番人気はベルガモット、2 番人気はオレンジでした。

・オレンジ　・ペパーミント　・メントール　・ローズ　・ベルガモット　・ラベンダー

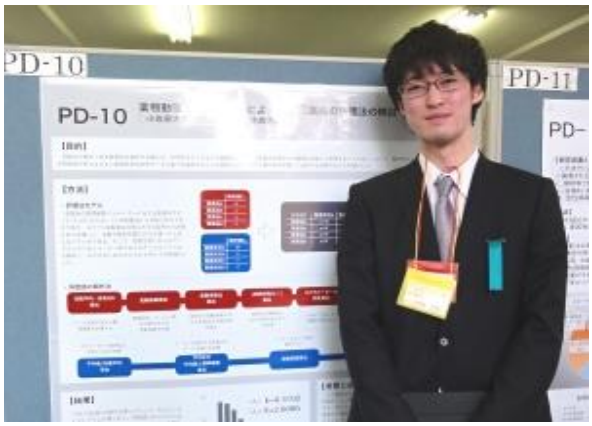
卒業研究の紹介

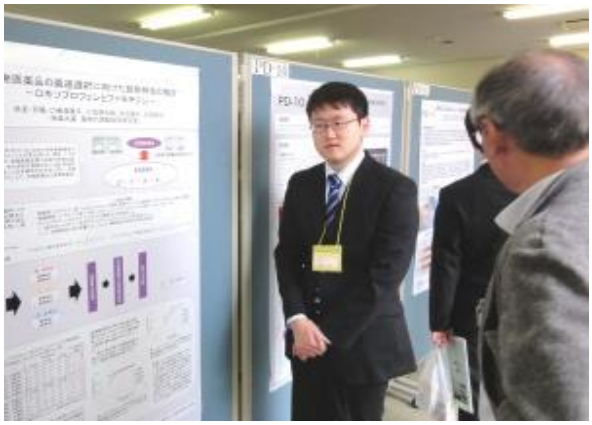
同室で、先日実施した卒業研究発表会のポスターの一部を展示しました。

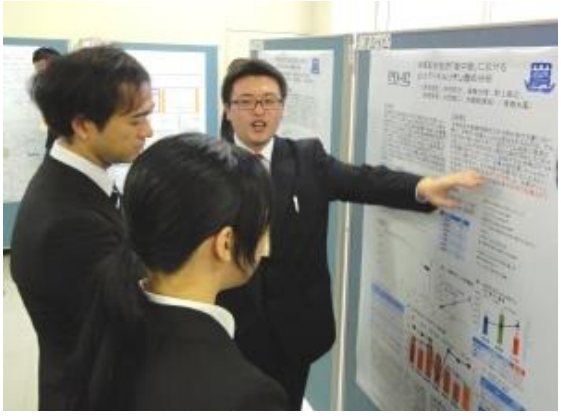
（青森大学ホームページより）

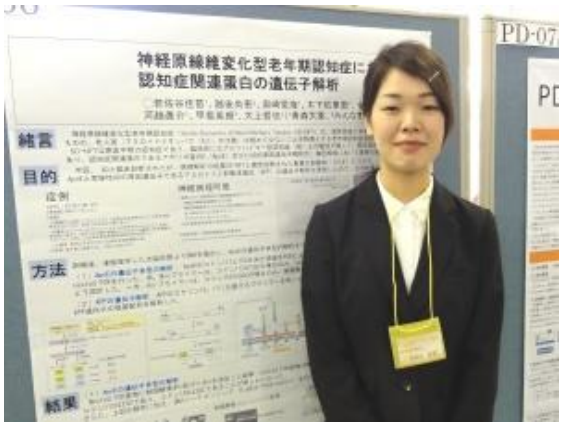
[第 56 回日本薬学会東北支部大会]

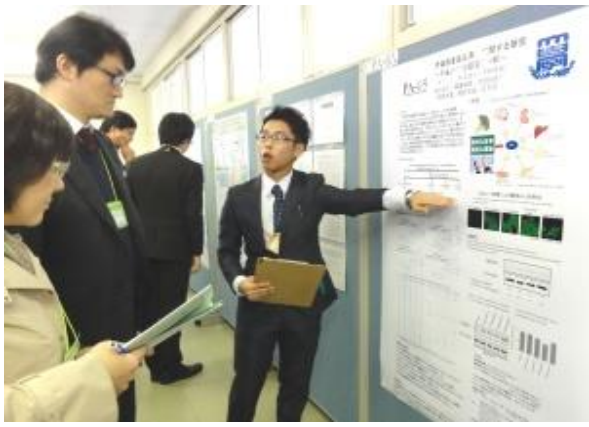
平成 29 年 10 月 21 日（土）、第 56 回日本薬学会東北支部大会が、青森大学を会場として開催されました。学会では、特別講演 2 演題の他、口頭発表及びポスター発表合わせて 90 演題程度の発表があり、多くの参加者が熱心に討論に参加していました。薬学部の在学生 7 名と教員 7 名が発表しました。
東北病院薬剤師会、青森県病院薬剤師会、青森県薬剤師会及び青森大学が共催でした。











[第 17 回ミニ身に健康イベント]

10 月 22 日（日）、青森市薬剤師会主催の「第 17 回ミニ身に健康イベント」がマエダガーラモール店で開催されました。

このイベントでは、アルコール体質チェック、呼気一酸化炭素濃度測定、薬剤師体験等のブースを設け、薬剤師の仕事を体験できるとともに、楽しく健康について学ぶ事ができます。

青森大学薬学部の５年生（１０数名）が、実務実習のカリキュラムの一環として参加しました。また、薬学部のブースも設け、教員２名がパンフレットの配布・説明・相談に応じていました。

（青森大学ホームページより）

[平成 29 年度　青森県病院薬剤師会　会員研究発表会並びに学術講演会]

10 月 29 日（土）に開催された標題の学術講演会において、青森大学薬学部 5 年生の三輪真知子さんが口頭発表（演題名：カルバマゼピンによる、ふらつき・傾眠が発現した小児における副作用のメカニズムに関する薬物動態学的考察）を行い、学術奨励賞を受賞しました。実務実習先である七福薬局むつの大久保正先生の貴重なご指導と、三輪さんの実習への熱心な取り組みが成果に繋がりました。

[小学生職業体験事業（中央市民センター）]

１１月３日（祝）、青森市中央市民センターにおいて「おしごと体験　薬剤師」というイベントを「小学生職業体験事業　ワラッシ」の中で実施しました。「小学生職業体験事業　ワラッシ」は、青森市教育委員会主催の事業で、子どもたちが職業体験を通して働くことの楽しさや大変さ、また、社会の仕組みを学ぶことを目的としております。いろいろな職業体験のブースがありますが、青森大学薬学部は、調剤体験（錠剤、散剤、軟膏）をしていただきました。調剤体験は２回実施し、各回１５名程の児童が楽しそうに参加していました。そして、保護者の方も興味深そうに見守っていました。今回、薬学部の在学生３名が手伝ってくれました。

（青森大学ホームページより）

[薬学部生涯教育講座「薬剤師が担うべきこれからの薬局業務」]

平成２９年１１月３日（祝）に講師として黒沢光春先生（秋田県薬剤師会副会長）をお招きして

薬学部生涯教育講座「薬剤師が担うべきこれからの薬局業務」をラ・プラス青い森にて開催しました。

[青森大学薬学部同窓会]

平成２９年１１月３日（祝）、平成２９年度青森大学薬学部同窓会をラ・プラス青い森にて開催しました。卒業生と元教員、現教員それに在学生を合わせて６０名が参加し、盛会のうちに幕を閉じました。

懇親会中は、元教員と卒業生、卒業生同士、現教員と卒業生、元教員と現教員、元教員と在学生、卒業生と在学生の語り合う場面が、あちらこちらで見うけられました。懇親会終了後に、何組かが２次会に繰り出していたようです。青森県内のみならず、名古屋等の遠方からも参加された卒業生の皆さま、札幌や静岡から駆けつけていただいた元教員の皆さま、ありがとうございました。今後も毎年、開催いたしますので、より多くの卒業生や元教員が参加することを期待します。

（青森大学ホームページより）

[第３回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナー]

平成２９年１１月１９日（日）、第３回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを医療法人雄心会 青森新都市病院３階講堂にて開催しました。

テーマは「まちかど薬局の使命　～薬剤師が通院困難患者へできること～」で、講師は高橋 学 氏（青森県薬剤師会 副会長、有限会社イクス 安田調剤薬局）です。

参加者は２０名超でした。参加者は、講師の話に熱心に聞き入っていました。そして活発な質疑もありました。次回は２月１０日（土）を予定しております。

主催：青森大学薬学部

共催：医療法人雄心会・青森新都市病院、青森大学脳と健康科学研究　（青森大学ホームページより）

[「認知症ほっと三行レター」特別賞受賞]

薬学臨床Ⅰ（1 年）、薬学臨床Ⅱ（2 年）の授業において、ヒューマニズム教育の一環として、「認知症の人と家族の会」のキャンペーンを昨年より取り入れています。本年度も、認知症の方々への想いを「3 行の手紙」にするというキャンペーン（「認知症ほっと三行レター」）を授業で実施し、薬学部 1 年生、2 年生の学生が作成した全作品を応募しました。その結果、八戸市長より、本人・家族部門で 1 年生の藤田泰世君（薬２９０４１）が特別賞を受賞しました。

平成２９年度はちのへ認知症フォーラム

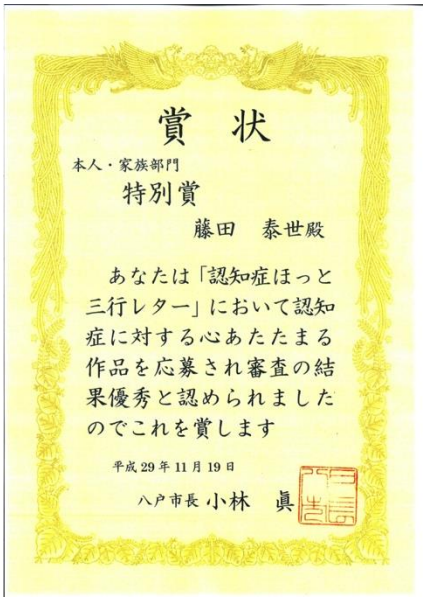
認知症
ほっと三行レター

本人・家族部門　特別賞

藤田　泰世

受験の時
一日中祈ってくれてありがとう。
合格を喜んでくれてありがとう。
そして、俺の名前を忘れたのに
笑ってくれてありがとう。

認知症になっても、みんなで支えあい、安心して暮らせるハ戸をめざして


賞　状

本人・家族部門
特別賞
藤田　泰世殿

あなたは「認知症ほっと三行レター」において認知症に対する心あたたまる作品を応募され審査の結果優秀と認められましたのでこれを賞します

平成 29 年 11 月 19 日

八戸市長 小林　眞

[ニプロファーマ大館工場見学]

11 月 22 日（木）薬学部 1 年生が、授業「キャリアデザイン IB」の一環として、医薬品製造工場であるニプロファーマ大館工場を見学しました。学生達は、興味深そうに見学し、質問をしていました。また、品質管理の仕事をしている薬剤師さんの仕事の話やアドバイスも興味深く聞いていました。

（青森大学ホームページより）

[第 36 回青森県薬剤師会学術大会]

11 月 23 日（祝）第 36 回青森県薬剤師会学術大会において、薬学部の学生がポスター発表しました。ポスターを発表した青森大学薬学部学生 4 名（6 年生 3 名、5 年生 1 名）は（一社）青森県薬剤師会より、学術奨励記念品をいただきました。また、三浦学部長をはじめ、薬学部の教員、実務実習を終えた薬 5 年生や、興味を持った薬 2 年生などが聴講のため参加していました。そして青森大学薬学部を卒業して薬剤師として活躍している先輩方も参加していました。

（青森大学ホームページより）

[小学生職業体験事業（荒川市民センター）]

１２月１０日（日）、青森市荒川市民センターにおいて「おしごと体験　薬剤師」というイベントを「小学生職業体験事業　ワラッシ」の中で実施しました。「小学生職業体験事業　ワラッシ」は、青森市教育委員会主催の事業で、子どもたちが職業体験を通して働くことの楽しさや大変さ、また、社会の仕組みを学ぶことを目的としております。いろいろな職業体験のブースがありますが、青森大学薬学部は、調剤体験（分包機を使った錠剤の袋詰め、散剤の手包み）をしていただきました。調剤体験は３回実施する予定のところ、もう一回実施し、全６０名の児童が楽しそうに参加していました。そして、保護者の方も興味深そうに見守っていました。今回、薬学部の５年生４名が手伝ってくれました。

（青森大学ホームページより）

[出張講義などの実施状況]

岡島史和：

青森大学出張講義　薬はどうして効くの？～たばこ成分ニコチンにまつわる話：癌、サリンから蜂の失踪まで.　平成 29 年 11 月 30 日　　北部地区農村環境改善センター

大越絵実加：

12/6 (水)青森市中央市民センター生涯学習支援チーム（受講生 31 名）「医薬品以外の薬学分野-機能性食品：天然物由来の肥満改善素材-」

12/8(金)つがる市立瑞穂小学校 PTA 講演会（受講生 60 名）「医薬品以外の薬学分野-機能性食品：天然物由来の肥満改善素材-」

模擬講義　10/24(火)木造高校「植物から医薬品へ」

永倉 透記:
＜日時＞ 2017 年 12 月 27 日　＜場所＞ 青森県総合社会教育センター　第一研修室 ＜講演名＞ 痛みについて知ろう　＜対象＞ 青森市内の小・中・高等学校並びに特別支援学校の養護教諭 98 名

大上哲也：
公開講座
7 月 15 日　「一般公開講座　認知症を考える」、パネリスト、於：わらっせ
8 月 3 日　「認知症　虹の会　１００回記念公開セミナー」、シンポジスト、於：宮崎市医師会会館

出張講義
7 月 30 日　「わくわくしごと　たんけん　おいでよ！北部市民センターへ」小学生対象、於：青森市北部市民センター
9 月 18 日　認知症サポーター養成口座、於：戸山市民センター
9 月 20 日　いきいき脳健康教室、青森市戸山市民センター依頼、於：戸山市民センター
10 月 26 日　青森県からの講師依頼、「認知症キャラバンメイト」　講義、於：県民福祉プラザ
11 月 20 日　八戸市からの講師依頼、「認知症キャラバンメイト」　講義、於：八戸はちふくプラザ

中田和一：
大野市民センター、講義テーマ「身体への影響～暮らしの中の電磁波を知ろう」 2017 年 7 月 13 日（木）

三浦裕也：
模擬授業
11 月 16 日　秋田県立大館桂桜高校模擬授業（大舘市）
11 月 17 日　青森県立北斗高校模擬授業（研究室内）
11 月 22 日　青森県立青森北高校模擬授業（研究室内）
11 月 22 日　明の星高校職業体験および模擬授業（青森市）

[報告論文]

Morizawa YM, Hirayama Y, Ohno N, Shibata S, Shigetomi E, Sui Y, Nabekura J, Sato K, Okajima F, Takebayashi H, Okano H, Koizumi S.: Reactive astrocytes function as phagocytes after brain ischemia via ABCA1-mediated pathway. Nat Commun. 8:28 (2017)

Nagasaka A, Mogi C, Ono H, Nishi T, Horii Y, Ohba Y, Sato K, Nakaya M, Okajima F, Kurose H.: The proton-sensing G protein-coupled receptor T-cell death-associated gene 8 (TDAG8) shows cardioprotective effects against myocardial infarction. Sci Rep. 7:7812 (2017)

Yagami N, Tamai H, Udagawa T, Ueki A, Konishi M, Imamura A, Ishida H, Kiso M, Ando H.: A 1,2-trans-Selective Glycosyl Donor Bearing Cyclic Protection at the C-2 and C-3 Hydroxy Groups. Eur. J. Org. Chem. 4778-4785 (2017)

Nanbu T, Umemura N, Ohkoshi E, Nanbu K, Sakagami H, Shimada J, Combined SN-38 and gefitinib treatment promotes CD44 degradation in head and neck squamous cell carcinoma cells. Oncology reports, 39: 367-375 (2018)

Yu Z, Saito H, Otsuka H, Shikama Y, Funayama H, Sakai M, Murai S, Nakamura M, Yokochi T, Takada H, Sugawara S, Endo Y Pulmonary platelet accumulation induced by catecholamines: Its involvement in lipopolysaccharide-induced anaphylaxis-like shock. International Immunopharmacology 4340–52 (2017)

[学会発表など]

門脇麻衣子、本定千知、梅田幸寛、森川美羽、安斎正樹、山田秀典、齋藤悠、久田剛志、岡島史和、石塚　全: 細胞外 pH の低下によるヒト気管支平滑筋細胞からの IL-8 産生亢進の転写調節機序とステロイドの抑制作用. 第66回日本アレルギー学会学術大会，6 月 16 日～18 日，東京国際フォーラム（東京）

鶴巻寛朗、齋藤 悠、茂木千尋、佐藤幸市、佐藤真季子、矢冨正清、蜂巣克昌、古賀康彦、小野昭浩、塚越優介、笠原礼光、澤田友里、村田圭祐、砂長則明、前野敏孝、石塚全、土橋邦生、岡島史和、久田剛志: TDAG8 欠損マウスでは好酸球性炎症は抑制される. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会，6 月 16 日～18 日，東京国際フォーラム（東京）

齋藤 悠、茂木千尋、 鶴巻寛朗、佐藤幸市、佐藤真季子、矢冨正清、蜂巣克昌、古賀康彦、小野昭浩、三浦陽介、塚越優介、澤田友里、中倉敬、前野敏孝、土橋邦生、石塚全、岡島史和、久田剛志: OGR1 欠損マウスを用いた HDM 気管支モデルの解析. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会，6 月 16 日～18 日，東京国際フォーラム（東京）

水谷征法、山下功太、中村慶祐、笹田雅姫、水野憲一（青森大薬）細胞増殖に関与する G タンパク質共役型受容体 GPR19 の機能解析　第 56 回日本薬学会東北支部大会　2017 年 10 月 21 日、青森

八神なほ子, 玉井秀樹, 宇田川太郎, 植木章晴, 小西美紅, 今村彰宏, 石田秀治, 木曽　真, 安藤弘宗
2,3-環状保護糖供与体を用いた 1,2-trans-選択的グリコシド化の検討 第 36 回日本糖質学会年会（北海道旭川市, 2017 年 7 月）

澤田陽生、中村祐介、遠藤大輝、野上眞迅、渡邊美里、上田條二、大越絵実加　甘草配合処方「安中散」における pH とグリチルリチン酸の分析　11/23（祝木）第 36 回青森県薬剤師会学術大会（ホテル青森）

村上浩一、中村祐介、澤田陽生、遠藤大輝、野上眞迅、渡邊美里、上田條二、大越絵実加　甘草配合処方「小青竜湯」における pH とグリチルリチン酸の分析　11/23（祝木）第 36 回青森県薬剤師会学術大会（ホテル青森）

本木雅大、村上浩一、平野秀樹、梅村直己、齋藤俊昭、大越絵実加　青森県産食品素材に関する研究－干菊の成分研究第 6 報－　11/23（祝木）第 36 回青森県薬剤師会学術大会（ホテル青森）

村上浩一、本木雅大、梅村直己、大越絵実加　多剤耐性口腔癌の機能解析と shikonin の効果　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会（青森大学）

本木雅大、村上浩一、平野秀樹、梅村直己、齋藤俊昭、大越絵実加　青森県産食品素材に関する研究－干菊の成分研究第 5 報－　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会（青森大学）

澤田陽生、中村祐介、遠藤大輝、野上眞迅、渡邊美里、上田條二、大越絵実加　甘草配合処方「安中散」における pH とグリチルリチン酸の分析　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会（青森大学）

中村祐介、澤田陽生、遠藤大輝、野上眞迅、渡邊美里、上田條二、大越絵実加　甘草配合処方「小青竜湯」における pH とグリチルリチン酸の分析　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会（青森大学）

大越絵実加、本木雅大、村上浩一、齋藤俊昭、平野秀樹、梅村直己、上田條二　青森県産食品素材に関する研究－干菊の成分研究第 4 報－　9/10（日）日本生薬学会第 64 回年会（千葉）

中北敏賀、宮本万里、仲川剛、小山佳祐、植木章晴、鈴木克彦；α,α-ジクロロアルコール類の合成と反応, 第 56 回日本薬学会東北支部大会（平成 29 年 10 月、青森）

中北敏賀、宮本万里、仲川剛、小山佳祐、植木章晴、鈴木克彦；α,α-ジハロロアルコールと種々の求核剤との反応,　第 56 回日本薬学会東北支部大会（平成 29 年 10 月、青森）

永倉 透記、逢坂 奈々、東 龍太郎、高橋 沙衿、竹林 優佳、川崎 沙織、村井 収平、三輪 将也、齊藤 弘子　機能性身体症候群モデルマウスの構築：消化管輸送機能異常と中枢および末梢モノアミン量の変動　第 56 回日本薬学会東北支部大会 2017 年 10 月 21 日、青森大学、青森

河越眞介、大上哲也、岡原一徳、中野高広、山上徹也ほか「認知症ドライバーの早期発見に関する研究及び推進事業～いきいき脳健康教室～」　第 1 回運転に関する合同研究会（北九州）、2017 年 1 月 21 日

山上徹也、大上哲也、河越眞介、岡原一徳、中野高広ほか　「高齢運転者における主観的記憶障害と自覚的運転行動との関係」　日本認知症ケア学会（沖縄）、2017 年、5 月 26，27 日

横浜康平、小笠原大樹、井沼道子、三浦裕也　後発医薬品の最適選択に向けた製剤特性の検討 －ロキソプロフェンとファモチジン－　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会　（青森大学）

小笠原 大樹 、三浦 裕也　薬物動態パラメーターにおける後発医薬品の評価法の検討　第56回日本薬学会東北支部大会　（青森大学）

井沼道子、小笠原大樹、横濱康平、古舘澄人、工藤貴史、葛西嘉駿、三浦裕也　中高生に興味を持たせる薬学体験プログラムの構築　その 1　打錠体験　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会（青森大学）

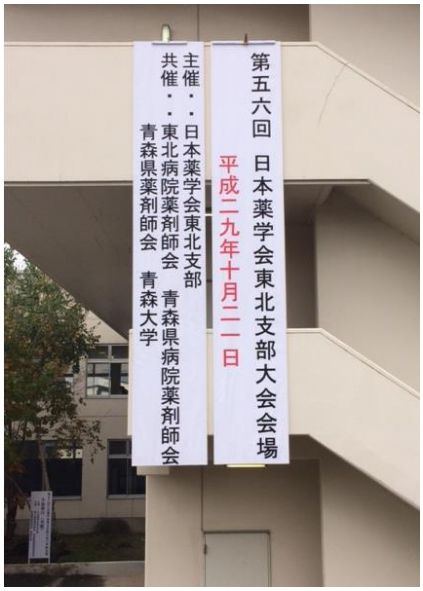
三浦裕也、小笠原大樹、横濱康平、古舘澄人、工藤貴史、葛西嘉駿、井沼道子　中高生に興味を持たせる薬学体験プログラムの構築　その 2　コンパートメントモデル　10/21（土）第 56 回日本薬学会東北支部大会　（青森大学）

小笠原 大樹、三浦 裕也　薬物動態パラメーターにおける後発医薬品の評価法の検討　11/23（祝木）第 36 回青森県薬剤師会学術大会（ホテル青森）

［ 学会活動など ］

[第 56 回日本薬学会東北支部大会　実行委員会]

三浦裕也（実行委員長）、永倉透記（事務局長）、天内博康（広報）、植木章晴(プログラム)、大越絵実加（会計）、金光兵衛（会場）、多田智美（会計）、平野秀樹（学内外誘導）、福井雅之（懇親会）、鈴木克彦（化学系基礎部会）、津田岳夫（物理系薬学部会）、清水保明（生物系基礎部会）、川村仁（衛生化学部会）、大上哲也（医療薬学部会）、益見厚子（ポスター賞選考委員長）、当日スタッフ：教員 2 名、職員 11 名、学生 27 名。 10 月 21 日（土）、青森大学において第 56 回日本薬学会東北支部大会を開催した。（主催：日本薬学会東北支部、共催：東北病院薬剤師会、青森県病院薬剤師会、青森県薬剤師会、青森大学； 大会ホームページ：http://pharm-tohoku.kenkyuukai.jp ）本学術大会には東北各地から大学教員、薬学部学生、大学院生、病院・薬局の薬剤師等が多数参加し、薬学・医療関連分野の研究発表と討論が行われた（特別講演：2、一般演題 87）。講演者、参加者、座長、審査員、青森大学教職員学生等のご尽力・ご協力、並びに広告（17 団体）・寄付等のご支援のお陰をもって大会を成功裏に終了した。



[社会活動・地域貢献]

永倉 透記:

情報機構社主催セミナー講師 ＜講師＞ 永倉 透記 ＜日時＞ 2017 年 12 月 11 日 ＜場所＞ 大田区産業プラザ（PiO）6 階 D 会議室 ＜セミナー内容＞ 疼痛領域の前臨床評価系　～臨床効果予測性を向上させるには？～ ＜対象＞ 製薬企業の研究開発担当者など

大上哲也：

イベント

5 月 3 日～5 日 第 4 回青森オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会 （於：青森　中三デパート、後援：日本認知症学会、青森市教育委員会）

8 月 30 日　平内町包括連携協定事業　いきいき脳健康教室、平内町教育委員会依頼、於：平内町立山村センター

9 月 23 日、24 日　いきいき脳健康教室、当研究室主催、於：中三　青森９階

10 月 28 日、29 日　いきいき脳健康教室、当研究室主催、於：中三　青森９階

11 月 22 日　三戸町包括連携協定事業　いきいき脳健康教室、三戸町中央公民館

11 月 29 日　三戸町包括連携協定事業　いきいき脳健康教室、三戸町地方創生推進室依頼、於：三戸町中央公民館

教育セミナー主催

9 月 29 日、30 日　文部科学省　子ども夢基金助成　中高生対象セミナー

三浦裕也：

10 月 29 日 青森県薬剤師会上十三支部主催、「薬と健康フォーラム in とわだ」

「くすりとの賢い付き合い方」

[その他]

外部資金の獲得状況

大上哲也：

共同研究費：１００万円　共同研究：株式会社　生命科学インスティテュートとの共同研究

研究名：脳活バランサーの有用性に関する研究